

# 平成23年度 東日本大震災 ボランティア支援活動記録



東京大学 救援・復興支援室

## 刊行にあたって

～ 濱田純一総長あいさつ ～

東日本大震災というすさまじい災害、それに伴う原子力発電所の深刻な事故の発生から、1年と2か月が経ちました。改めて、亡くなられた方々に心から哀悼の思いを捧げるとともに、厳しい避難生活を余儀なくされている皆さま方に心よりお見舞いを申し上げます。今回の大震災をめぐる一連の出来ごとの中で、大学として取り組むべき課題や役割を再認識し、復興・再生に向けて果たすべき役割の重さをかみしめています。

東京大学では、震災発生直後からさまざまな形で被災地への救援・復興支援活動を行ってきましたが、初動が難しかったのが、ボランティア活動に対する取組でした。個々の教職員や学生が、被災された方々のために何かしたいと思っても、その受け皿が当初は大学に無く、個人がさまざまなボランティア団体と連絡をとって行動するという形になりました。

大学としてボランティア活動を組織していくためには、安全管理やロジスティクスの問題、効果的な支援の見極めなど、十分な準備が必要となります。東京大学の歴史の中においても、今回のボランティア活動の組織化はまったく手探りの状態から始めましたが、その手探りの活動を継続していくことを通じて、個人個人の思いを生かしていく支援体制が作られてきました。

こうした新しい取組みの中でボランティア活動に従事してきた教職員、学生の皆さん、そして、この支援体制の確立と運営に大きな力を注いできた職員の皆さんに、敬意を表したいと思います。被災地の本格的な復興までは長い道のりです。東京大学では、これからも長期にわたって、被災地の復興や被災された方々への支援に向けた活動を持続的に展開していくつもりです。



～ 前田正史救援・復興支援室長あいさつ ～

東京大学では、総長メッセージの「生きる。ともに」ということばの下、平成23年3月11日に発生した東日本大震災からの救援・復興支援活動を行っています。

本学の教職員・学生は、それぞれの専門性を生かしながら、自発的な活動を実施しており、こうした活動を支援するため、4月11日に「東日本大震災に関する救援・復興支援室」を設置し、5月13日には大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターの立地する岩手県に遠野分室及び大槌連絡所を開設しました。さらに、7月25日に救援・復興支援室遠野センター（通称：遠野東大センター（TTC））を開所し、遠野分室、大槌連絡所とともに岩手県沿岸被災地の後方支援拠点として活用しています。

救援・復興支援室は、ボランティア支援班、大槌復旧建設班等を置き、それぞれ救援・復興に向けた支援活動を行っています。本誌はボランティア支援班が関わった活動記録です。

この他、室では教育活動、社会連携活動の一環として実施されている救援・復興支援にかかわるプロジェクトについて、登録プロジェクトとして取りまとめ、その活動を支援しています。コミュニティア型仮設住宅の設置（釜石市、遠野市）、「希望学」の視点からの復興支援（釜石市）、保健師による全戸家庭訪問健康調査（大槌町）に加え、復興まちづくりのための全面的な支援（大槌町）など、平成24年5月1日現在85プロジェクトが展開されています。

総長は、平成24年3月18日遠野市における講演で「人の絆、組織の絆―「絆」を明日へ―」と題し、復興支援活動を力強く継続していくためには、人の思いと組織の思いの双方、人の絆と組織の絆の双方をしっかりと組み合わせて展開していく必要があると述べました。

今後も救援・復興支援室では、本学の使命の一つとして、本学構成員の自発的な救援・復興活動を支援していきます。



～ 武藤芳照ボランティア支援班担当理事あいさつ ～

すさまじい大自然の破壊力をまざまざと見せつけられ、未曾有の大震災の被害は、日に日に増え続けていた。全国各地から、被災地の人々を支援しようと様々な形でボランティア活動の輪が広がりつつあった。

平成23（2011）年3月25日、総長室に呼ばれ、4月から理事・副学長の一人として務めることになってはいたが、教育学研究科長・教育学部長職である立場のまま、「ボランティア担当を、前倒しで務めて欲しい。」と濱田純一総長からご下命があった。

難題であった。東京大学130年余りの歴史の中、一度も手がけられたことのない大学主導の本格的、組織的災害ボランティア活動の企画、立案、実施という事業である。その方法と内容、規模、日程、支援・実施体制、予算計画、安全管理等、考えなければいけないことは多々ある。

当時の矢野由美教育・学生支援部長らと共に、まずは大学におけるボランティア活動に関する文部科学省等の資料を急遽収集し、読みこみ作業を行い、ボランティア活動の基本理念を確認しつつ、大学としての立ち位置を見据えた。とりわけ印象的であったのは、『東京大学百年史（通史二）』にある関東大震災（大正12年／1923年9月1日、マグニチュード7.9）の折の記載であった。「めざましい学生の活動」として紹介された、末弘徹太郎（法学部）教授の指導を得た東大生の組織的な罹災者への救護・支援活動は、「全く世人を驚嘆せしめ〔略〕恐らくこの震災が伝へられる限り永久に記憶されるであらう」のくだりであった。

この歴史的活動を知ることにより、学生をはじめとする教職員ら学内構成員の自主的、自発的活動が円滑に行われるよう、支援する立ち位置と役割に徹すれば良いと認識することができた。まさに「温故知新」であった。

4月以降は、富田靖博新教育・学生支援部長や7月より新設されたボランティア支援担当の川久保亨課長をはじめとする救援・復興支援室（前田正史室長）・ボランティア支援班のメンバーの人々と共に、ボランティア支援の活動を継続した。

本活動記録は、東京大学が東日本大震災の被災地に、どのようなボランティア活動を実施したかという生の記録である。発出文書、周知用チラシ、ポスター、各種写真、感想文等を含め、何ら脚色を加えず、淡々ととりまとめ、後世に残し、10年、20年、30年も経過した後には、あの時代には、こうした活動がなされた歴史的な評価が下されることを想定して、編集、構成した。

あるボランティア隊参加者の一人の感想文に、「東大生や東大教職員が大好きになりました。皆さんチャームングで素晴らしい方々ばかりです！」とあった。寝食を共にしつつ、作業も共にし、時を共有するという貴重な体験から発せられた誠に率直な言葉が嬉しかった。

本記録は、あくまで東京大学の東日本大震災におけるボランティア活動支援の一里塚である。被災者の方々の希望と勇気に少しでも結びつけられるよう、今後も皆の手と手を結び、心と心を結びつつ、次の一里塚に向かってしっかりと歩んでいきたいと思う。



|    |  |
|----|--|
| 02 | 総長あいさつ   |
| 02 | 救援・復興支援室長あいさつ  |
| 03 | ボランティア支援班担当理事あいさつ  |
| 05 | <b>ボランティア活動支援の基本方針</b><br>基本方針・沿革・災害ボランティアQ&A  |
| 09 | <b>ボランティア活動支援の記録</b>   |
| 10 | 1、東京大学ボランティア隊の派遣(夏季)<br>(1)募集要項<br>(2)申込書・決定通知<br>(3)参加者説明会<br>(4)参加者のしおり(抜粋)<br>(5)活動報告／パネル<br>(6)参加者数<br>(7)参加者アンケートの結果(簡易版) |
| 24 | 2、学習支援ボランティアの派遣(陸前高田市「学びの部屋」／大熊町)<br>(1)募集要項・募集ポスター<br>(2)申込書・決定通知<br>(3)参加者のしおり<br>(4)活動報告<br>(5)参加者報告書(抜粋)                   |
| 51 | 3、ボランティア活動報告会<br>(1)第1回 ボランティア活動報告会<br>(2)第2回 ボランティア活動報告会<br>(3)第3回 ボランティア活動報告会  |
| 54 | 4、ボランティア活動支援金<br>(1)取扱要項<br>(2)申請要領<br>(3)Q&A<br>(4)お知らせ(ポスター)   |
| 56 | 5、ボランティア情報ホームページの作成  |
| 57 | <b>ボランティア活動状況調査の結果</b>   |
| 63 | <b>関連通知</b>  |
| 69 | <b>組織・メンバー・編集後記</b>  |

# ボランティア活動支援の基本方針

## 東日本大震災にかかる救援・復興支援のためのボランティア活動について

### 基本方針

今回の東日本大震災による被害状況は広範囲にわたり、かつ深刻で未曾有のものであり、社会的公共性を有する総合大学として、被災者の救援・復興支援に当たることは責務であるとの認識に立ち、可能な限りの支援を行うことが必要である。

また、東京大学憲章においては、本学は「世界的な水準での学問研究の牽引力」であるとともに、「世界的視野をもった市民的エリートが育つ場」であることを目指している。行動シナリオにおいても、強靱な開拓者精神を持ちつつ、公共的な責任を自ら考え、行動する「タフな東大生」の育成を目指しており、大学構成員が広くボランティア活動に参画することは、大変に意義のあるものである。

さらに、ボランティア活動による救援・復興支援には、大学構成員による広範なボランティアの協力が必要不可欠である。このため、ボランティアの理念(自発性、無償性、公共性等)に留意しつつ、本学としては、「救援・復興支援室」において持続可能な形と方法でボランティア活動を支援する。

## ボランティア支援活動のあゆみ

|                 |  |                    |                                |
|-----------------|--|--------------------|--------------------------------|
| H23. 3. 11      | 14時46分<br>三陸沖を震源とするマグニチュード<br>9.0の地震発生                           | H23. 8. 24～8. 28   | 夏季ボランティア隊第3班派遣<br>(学生及び教職員46名) |
| H23. 3. 11      | 「災害対策本部」の設置  | H23. 9. 3～9. 7     | 夏季ボランティア隊第4班派遣<br>(学生及び教職員42名) |
| H23. 4. 1       | 震災の名称を「東日本大震災」とする<br>(政府が発表)                                     | H23. 9. 18～9. 22   | 夏季ボランティア隊第5班派遣<br>(学生及び教職員41名) |
| H23. 4. 11      | 東日本大震災に関する「救援・復興<br>支援室」の設置<br>室の下に「ボランティア支援班」を<br>設置            | H23. 9. 27         | 夏季ボランティア隊参加者アンケート<br>調査の実施     |
| H23. 4. 27      | 東京大学学生ボランティア活動の<br>報告・連絡会の開催                                     | H23. 9. 28         | ボランティア支援班会議(第3回)               |
| H23. 4. 28      | 救援・復興に係るプロジェクト登録<br>の開始  | H23. 10. 7         | 第3回ボランティア活動報告会<br>及び懇談会の開催     |
| H23. 5. 12      | 救援・復興支援に関する活動(含<br>ボランティア活動)状況調査の実施                              | H23. 10. 13        | ボランティア活動状況調査(第2回<br>目)の実施      |
| H23. 5. 13      | 救援・復興支援室「遠野分室」及び<br>「大槌連絡所」の設置                                   | H23. 11. 4         | ボランティア支援班会議(第4回)               |
| H23. 5. 26      | 救援・復興支援室の班の設置<br>(ボランティア支援班は班員整備)<br>ボランティア支援班／情報発信班<br>／大槌復旧建設班 | H23. 12. 5         | ボランティア支援班会議(第5回)               |
| H23. 6. 3       | ボランティア支援班会議(第1回)   | H23. 12. 6         | ボランティア活動支援金の制度の<br>開始          |
| H23. 6. 14      | 東日本大震災に係るボランティア<br>参加への意向調査の実施(職員)                               | H23. 12. 21        | 学習支援ボランティア説明会の<br>開催           |
| H23. 6. 28      | ボランティア支援班会議(第2回)   | H23. 12. 26～12. 29 | 年末年始・学習支援ボランティア<br>年末班派遣(学生7名) |
| H23. 6. 28      | 第2回ボランティア活動報告会の<br>開催  | H24. 1. 6～1. 9     | 年末年始・学習支援ボランティア<br>年始班派遣(学生9名) |
| H23. 7. 25      | 東京大学救援・復興支援室遠野セ<br>ンター(遠野東大センター)の開所                              | H24. 2. 1          | ボランティア支援班会議(第6回)               |
| H23. 7. 28      | 夏季ボランティア隊説明会の開催  | H24. 2. 18～2. 19   | 年度末・学習支援ボランティア<br>A班派遣(学生10名)  |
| H23. 8. 3～8. 7  | 夏季ボランティア隊第1班派遣<br>(学生及び教職員44名)                                   | H24. 2. 25～2. 26   | 年度末・学習支援ボランティア<br>B班派遣(学生10名)  |
| H23. 8. 9～8. 13 | 夏季ボランティア隊第2班派遣<br>(学生及び教職員47名)                                   | H24. 3. 3～3. 4     | 年度末・学習支援ボランティア<br>C班派遣(学生9名)   |
|                 |  | H24. 3. 17～3. 18   | 年度末・学習支援ボランティア<br>D班派遣(学生9名)   |
|                 |  | H24. 3. 23～3. 30   | 福島県大熊町・学習支援ボランテ<br>ィア派遣(学生20名) |
|                 |  | H24. 3. 26         | ボランティア支援班会議(第7回)               |

## 災害ボランティア活動Q&A

### 【1】被災地等でのボランティアの応募について

Q1-1 ボランティアへの応募は、どのようにすればよいのですか？

A. ボランティアの募集は、被災地の災害ボランティアセンターやNPO法人等が募集を行っていますが、場所によっては団体のみ受け付け、個人参加を断っているところがありますので、事前にホームページ等で調べるようにしてください。また、東京都や大田区等の地方公共団体や日本財団、各大学生協を通じて全国大学消費生活協同組合等でも募集を行っています。

#### 【関連リンク】

内閣府：<http://www.bousai.go.jp/vol/>  
文部科学省：  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/saigaijohou/syousai/1304540.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/saigaijohou/syousai/1304540.htm)  
全国社会福祉協議会：<http://www.3.shakyo.or.jp/cdvc/>  
日本赤十字社：<http://www.jrc.or.jp/volunteer/index.html>  
東京都：  
<http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/saigai.files/saigai.htm>  
23区内ボランティアセンター：  
[http://www.rlj.co.jp/pole-pole/ikigai/bora\\_23kunai.htm](http://www.rlj.co.jp/pole-pole/ikigai/bora_23kunai.htm)  
日本財団学生ボランティアセンター：<http://www.gakuvo.jp/>  
東京大学消費生活協同組合：<http://www.utcoop.or.jp/>  
遠野まごころネット：<http://tonomagokoro.net/>

Q1-2 ゴールデンウィーク中のボランティアの募集はどのような状況でしたか？

A. ゴールデンウィーク中は、ボランティアの応募が集中し、個人での応募をお断りしたボランティアセンターがあるようです。事前に、余裕をもって計画しましょう。  
ちなみに、震災発生からゴールデンウィーク中にボランティア活動に参加した人数は、大学に届け出のあったものとしては学生110名、教職員21名でした。

### 【2】ボランティア活動の内容について

Q2-1 ボランティア活動に必要な装備は何ですか？

A. ボランティア活動に必要な服装・装備等は、内閣府や全国社会福祉協議会のホームページ等でお知らせしているほか、本学環境安全本部発行の「野外活動における安全衛生管理・事故防止指針」でもお知らせしていますので、事前に確認してください。

(ボランティア装備について) 図:レスキューストックヤードから掲載



※安全靴又は中敷きを入れた長靴が必要

#### 【関連リンク】

首相官邸災害対策：  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001a5xh.html>  
東日本大震災支援全国ネットワーク：[http://www.jpn-civil.net/support/volunteer/post\\_3.html](http://www.jpn-civil.net/support/volunteer/post_3.html)  
和歌山県社会福祉協議会：<http://www.wakayamakenshakyo.or.jp/>  
レスキューストックヤード：<http://www.rsy-nagoya.com/rsy/project/post-8.html>  
奈良ボランティアネット：<http://www.nvn.pref.nara.jp/lets/7.html>

Q2-2 .長期間の活動は可能ですか？

A. あまりにも長い期間の活動はお勧めしません。ボランティア活動への参加は、肉体的にも精神的にも疲労を伴いますので、長い場合でも1週間を目処としてください。

Q2-3 どのような活動がありますか？

A. 登録する災害ボランティアセンターにより、内容は異なるようです。被災したお宅での汚泥の除去、家具の搬出、周辺道路のがれきの撤去から、避難所での炊き出し、お年寄の世話、児童・生徒の学習支援やスポーツ指導、心のケア、支援物品の仕分け、音楽演奏など、さまざまです。日々、被災地でのボランティアへのニーズは変化していますので、災害ボランティアセンター等の指示に従うようにしましょう。

Q2-4 どのようなことに注意をしたらいいですか？

A. 被災者の気持ちになって対応することが必要です。使えなくなった家財道具であっても、ご家族の思い出が詰まっていますので、粗雑に扱うことは止めましょう。)

#### 【関連リンク】

岩手県社会福祉協議会：  
<http://www.iwate-shakyo.or.jp/vc/vc04rescue/timing01.html>  
遠野まごころネット：<http://tonomagokoro.net/?p=58>  
京都市下京区：  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/shimogyo/page/0000012060.html>

なお、被災地で活動中に古釘を踏んで破傷風に罹患した者がいることや、避難所での活動中にインフルエンザやO157等の感染症に罹患した者がいること等から、必要に応じて、あらかじめ診療所等で予防接種を受けることや、怪我防止のため安全靴の準備あるいはスチール製の靴の中敷きをホームセンター等で用意することをお勧めします。また、アスベスト等を含む有害な粉じん対策のため、防じんマスクの着用が必要です。

ボランティアが、現地で保護、看護を受けるような事態になることは絶対に避けましょう。

### 【3】活動拠点について

Q3-1 被災地では、食料品などは流通していますか？

A. 被災地では今も、電気、ガス、水道、電話などのライフラインが復旧していないところがたくさんあります。被災地でのボランティア活動は、食・水・宿泊場所等の確保を参加者に求める自己完結型となっています。まずは、現地の災害ボランティアセンターのホームページ等で現地情報を確認して、十分な準備をしましょう。

なお、岩手県遠野市等の被災地の後方支援基地となっている場所を宿泊所としている場合には、コンビニエンス・ストアや食堂、銭湯等の利用が可能などありますが、事前に十分に確認してください。

Q3-2 宿泊所はどのようなところですか？

A. ボランティアセンターによって異なりますが、一般的に体育館、コミュニティセンター、プレハブ施設、テント等です。寝具等は各自で準備することが原則になっています。また、ごく一部ですがシャワー施設を用意しているところもあるようですが、多くの宿泊所ではありませんので、ウエットティッシュ等を持参するとよいかもしれません。

【4】ボランティア手続きについて

Q4-1 災害ボランティアセンターへの申し込みはいつまでにすればいいですか？

A. ボランティアセンターにより条件は異なりますが、概ね参加希望日の2~3日前までの受け付けとなっており、当日や前日の申込みですと、お断りしている場合があります。

Q4-2 個人で活動登録を行った場合、現地に着いたらどこに行けばいいのですか？

A. 各自が登録を行った災害ボランティアセンター等の指定するところへ行って、現地登録を行ってください。

Q4-3 大学への手続きは何か必要ですか？

A. 活動計画が具体的になりましたら、学生は「ボランティア活動届」を、教職員は「ボランティア活動計画書」を、所属する部局の教務(学生)担当又は総務(教職員)担当の窓口へ事前に届け出てください。また、活動終了後は、活動報告書を担当窓口へ提出してください。後に活動を計画している方々の参考とさせていただきます。

災害ボランティア活動届(学生用)・ボランティア活動計画書(教職員用)：

<http://www.u->

[tokyo.ac.jp/public/AntiDisaster/info\\_20110415\\_volunteer\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/AntiDisaster/info_20110415_volunteer_j.html)

【5】ボランティア保険について

Q5-1 ボランティア保険への加入は必須ですか？

A. 必須です。各地の災害ボランティアセンターでは、住所地での社会福祉協議会の「災害ボランティア保険」への事前加入を義務付けています。

なお、学生の場合、学生教育研究災害傷害保険の利用が考えられますが、別途第三者に対する賠償責任保険への加入が必要であることや、2週間未満の通院の場合には保険適用にならない免責事項等がありますので、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」(地域により年間720円~1,400円程度)等に加入するようにしてください。教職員についても同じです。住所地で加入すると、そこから補償対象になります。

Q5-2 社会福祉協議会の災害ボランティア保険の加入方法を教えてください。

A. 住所地又は最寄りの社会福祉協議会の窓口で、加入申込書に必要事項を記入のうえ押印し、保険料を納付すれば手続きが完了となります。ただし、一部の社会福祉協議会では、郵便局・銀行での保険料の納付が必要な場合もありますので、社会福祉協議会の窓口でご確認ください。

また、日本財団やNPO法人、大学生協等によるボランティアの募集では、説明会や応募の際に災害ボランティア保険の加入申込みを受け付けている場合もあるようですので、確認してみてください。

【6】大学の修学上の支援等について

Q6-1 学生の修学上の取扱いは、どのようになっていますか？

A. ボランティア活動の内容が授業内容に関連する場合には、活動を授業の一環として認める場合や、2~3回の欠席であれば、課題遂行等により補完するとしている部局があるので各学部・研究科等の教務担当窓口にご相談してみてください。

ただし、災害ボランティア活動に参加したことのみをもって単位認定することは、現在ありません。

Q6-2 学生の休学の取扱いは、どのようになっていますか？

A. 学生が自発的に、かつ報酬を得ないで社会に貢献する活動(被災地域での被災者支援活動等)を行う場合であって、2月以上の休学を取得しようとする場合には、学部長・研究科長等の許可により認められることがありますので、教務担当窓口でご相談ください。なお、休学した期間は在学年数に算入しません。また、休学期間中の授業料は免除されます。

Q6-3 教職員に対する休暇の取扱いは、どのようになっていますか？

A. 教職員が自発的に、かつ報酬を得ないで、災害ボランティア等の規則に定められた社会貢献活動を行う場合には、現在、年間5日を限度として特別休暇が認められます。前述の「ボランティア活動計画書」と同時に、「特別休暇願」を所属部局の担当へ提出してください。

# ボランティア活動支援の記録

1、東京大学ボランティア隊の派遣(夏季)

2、学習支援ボランティアの派遣

(陸前高田市「学びの部屋」／大熊町)

3、ボランティア活動報告会

4、ボランティア活動支援金

5、ボランティア情報ホームページ開設

## 1、東京大学ボランティア隊の派遣(夏季)

平成23年8月から9月にかけて学生・教職員総勢220名を5班に編成し「東京大学ボランティア隊」として、岩手県遠野市を拠点とした沿岸被災地へ派遣しました。

### (1) 募集要項

平成23年6月27日

学生・教職員の皆さんへ

救援・復興支援室

東日本大震災に係る「ボランティア隊」参加者の募集について

東京大学では、東日本大震災に伴い「救援・復興支援室」を設置して大学全体で支援活動の取組みを進めているとともに、教職員や学生が自主的・自発的な支援活動を展開しております。

このたびそれらの一環として、夏季の休業期間に岩手県遠野市を拠点として沿岸地域において救援・復興支援活動を行う、学生及び教職員の「ボランティア隊」参加者を募集いたします。

下記の内容をご覧ください、皆様の積極的な応募をお願いいたします。

#### 1 活動期間

第1班 平成23年8月 3日(水)～8月 7日(日)

<4泊5日(うち車中1泊)>

第2班 平成23年8月 9日(火)～8月13日(土)

<4泊5日(うち車中1泊)>

第3班 平成23年8月24日(水)～8月28日(日)

<4泊5日(うち車中1泊)>

第4班 平成23年9月 3日(土)～9月 7日(水)

<4泊5日(うち車中1泊)>

第5班 平成23年9月18日(日)～9月22日(木)

<4泊5日(うち車中1泊)>

※ 各班とも、最終日は早朝(6時頃)に東京大学本部棟前に到着予定です。

#### 2 募集人員

各班45名(男性25～35名、女性10～20名程度)。

#### 3 応募資格

本学の学生(保護者の承諾が必要)及び教職員で、本学の支援活動の理念等に賛同し組織的な活動ができる方。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ウェブサイトを参照ください。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/index\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/index_j.html)

#### 4 活動内容

現地のニーズや時間の経過によって、活動の内容・状況の変化が予想されます。

一般的にガレキ撤去、家屋内の泥出し・片づけ・清掃、子供の遊び相手や学習支援等、避難所での各種サポート等が想定されますが、具体的な活動内容は、遠野市ボランティア団体「遠野まごころネット」に委ねますので、その指示に従っていただきます。

#### 5 宿泊場所

遠野市大日地区(15区)コミュニティ消防センター

／第1・2・3班の男子

同 大日地区(4区)コミュニティ消防センター／第1・2班の女子

同 材木町自治会館／第3班の女子

同 上宮守地区多目的集会施設／第4・5班の男子

同 鹿込地区集会所／第4・5班の女子

※ 参加状況などを踏まえて、場所が変更となる場合があります。

※ 宿泊場所・寝具は大学が借上げますので、参加者の負担はありません。

#### 6 活動場所

岩手県の釜石市及び大槌町を中心とする沿岸被災地(予定)。

#### 7 活動日程

第1日目

7:00 東京大学集合

7:30 出発(車中または休憩所昼食)

17:30 宿泊場所(遠野市コミュニティセンター)到着・伝達事項

18:00 オリエンテーション、夕食、(入浴)

22:00 就寝

第2～3日目

6:00 起床・朝食

7:00 宿泊場所を出発

7:30 集合場所(遠野市総合福祉センター)にて朝礼、移動

10:00～16:00 活動(昼食持参)

17:30 遠野市に帰着、ミーティング

移動、入浴、夕食

22:00 就寝

第4日目

6:00 起床・朝食

7:00 宿泊場所を出発

7:30 集合場所(遠野市総合福祉センター)にて朝礼、移動

10:00～16:00 活動(昼食持参)

17:30 遠野市に帰着、ミーティング

夕食、入浴

20:00 現地出発(夜行バス)

第5日目

6:00 大学到着・解散

#### 8 現地等への移動手段

東京(本郷)～遠野市／大学が借上げる大型貸切バス(1台)

遠野市内～活動場所／地元団体「遠野まごころネット」の送迎バス(予定)

※ 上記バス利用は、参加者の負担はありません。

#### 9 生活環境

・宿泊 大部屋(畳又はフローリング敷き)。寝具は大学が用意します。

・入浴 宿泊場所に風呂・シャワー設備はありません。

遠野市内に銭湯(有料)があります。

・食事 各自準備(遠野市内にコンビニ、スーパー、食堂等あり)。

宿泊場所に給湯設備があります(持込コンロ等は使用禁止)。

・洗濯 宿泊場所に設備はありません。

#### 10 大学が用意するもの

・寝具一式、ビブス(ユニホームなどの上に着用するベスト状のもの。

大学名入り)、名札、手袋(軍手)、防塵マスク、大ビニール袋

#### 11 個人が用意するもの

・〈必需品〉食事、作業着(長袖、長ズボン)、着替え、洗面用具、

入浴セット、タオル、マスク、ゴーグル、ゴム手袋(厚手)、上下カッパ、

帽子又はヘルメット、作業靴(踏抜き防止用スチール製中敷き含)、

水筒又はペットボトル、保険加入カード、現金

・〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、身分証明証、健康保険証、

各自必要な薬品・衛生用品、ウェットティッシュ、電源タップ、防虫

品、小物ポーチ、他

## 12 注意事項等

(1) 本件ボランティアについては、大学が募集して派遣することになります。基本的にはボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結を原則**とします。

(2) 活動内容は、連携する遠野市のボランティア団体「遠野まごころネット」に委ねることになりますので、当日に決定されます。(作業に必要な道具・工具が借りられます。) また、勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。なお、全体を通しては、救援・復興支援室ボランティア支援班員及び遠野分室職員からの連絡事項や指示に従ってください。

(3) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。

(4) 錆びた釘によるケガで破傷風に罹患したり、避難所でインフルエンザ等の感染症に罹患したりした等の例があります。各自で予防接種を受けるようにしてください。(地域の診療所等でお受けください。破傷風については本学の本郷地区保健センターでも実施しています。なお、予防効果には相応の期間や回数が必要な場合がありますのでご注意ください。)

(5) 参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ、教職員は「ボランティア活動計画書」を所属部局の総務担当へ、提出してください。なお、岩手県の対象地域(三陸沿岸周辺地域及び遠野市)にてボランティア活動を行う際に救援・復興支援室に提出をお願いしている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

(6) 事前に説明会を開催しますので、ご出席ください。(開催日は後日E-mailで連絡いたします。)  
※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項は、本学ウェブサイトの「Q&A」を参照ください。  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/index\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/index_j.html)

## 13 応募方法・締切等

別紙の「ボランティア申込書」に必要な事項を記入の上、締切日7月15日(金)(その時点で各班の募集人員に満たない場合は、各班出発日のそれぞれ5日前を締切日とする。)までに、下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あてE-mail又はFAXによりお送りください。

参加の可否は、追ってご本人あてにE-mail(決定通知書添付)で連絡いたします。

## 14 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班  
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)  
E-mail [volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)  
FAX 03-5841-2519  
TEL 03-5841-2529(内線22529)

## (2) 申込書・決定通知

|  |   |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
|--|---|----------------------|---|----------|----------------------------------|-----|-------------------------|-----|-------------------------|-----|-------------------------|-----|-------------------------|-----|-------------------------|
| 平成 年 月 日提出   |   |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| ボランティア申込書  |   |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| (ふりがな)   |   |                      |   |          | 性別                               | 男・女 |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| 氏名   |   |                      |   |          | 性別                               | 男・女 |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| 生年月日   | 年 月 日   | 年齢                   | 歳 | 血型       | A, B, AB, O Rh+, Rh-             |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| 所属等  | (学生の場合は、学部・研究科、科類・学科・専攻等、学生証番号)<br>(教職員の場合は、部署名、職名) |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| ※学生の場合は保護者等の承諾が必要です。   |   |                      |   | (保護者等氏名) | 承諾チェック欄 <input type="checkbox"/> |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| 希望活動期間<br>※ 下記の第1班～第5班の期間より選択してください。フルタイム等。  | 第1希望  |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
|  | 第2希望  |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
|  | 第3希望  |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| 連絡先  | 電話番号  |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
|  | 携帯番号  |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
|  | メールアドレス(PC)   |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
|  | メールアドレス(携帯)   |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| 緊急連絡先  | FAX   |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
|  | 氏名  |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
|  | 続柄  |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| ボランティア経験の有無<br>(有る場合は内容を記載してください。)   | 有・無   |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
|  | 参考までにお持ちの資格を記載し                                     | (医師、看護師、保健師、臨床心理士 等) |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| ※活動期間は下記のとおりです。  |   |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| <table border="1"> <tr> <td>第1班</td> <td>平成23年 8月 3日(水)～8月 7日(日)</td> </tr> <tr> <td>第2班</td> <td>平成23年 8月 9日(火)～8月13日(土)</td> </tr> <tr> <td>第3班</td> <td>平成23年 8月24日(水)～8月28日(日)</td> </tr> <tr> <td>第4班</td> <td>平成23年 9月 3日(土)～9月 7日(水)</td> </tr> <tr> <td>第5班</td> <td>平成23年 9月18日(日)～9月22日(木)</td> </tr> </table> |   |                      |   |          |                                  | 第1班 | 平成23年 8月 3日(水)～8月 7日(日) | 第2班 | 平成23年 8月 9日(火)～8月13日(土) | 第3班 | 平成23年 8月24日(水)～8月28日(日) | 第4班 | 平成23年 9月 3日(土)～9月 7日(水) | 第5班 | 平成23年 9月18日(日)～9月22日(木) |
| 第1班  | 平成23年 8月 3日(水)～8月 7日(日)                             |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| 第2班  | 平成23年 8月 9日(火)～8月13日(土)                             |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| 第3班  | 平成23年 8月24日(水)～8月28日(日)                             |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| 第4班  | 平成23年 9月 3日(土)～9月 7日(水)                             |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| 第5班  | 平成23年 9月18日(日)～9月22日(木)                             |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |
| 受付日  |   |                      |   |          |                                  |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |     |                         |

## (参加決定通知書)

|   |          |
|---|----------|
| 平成23年7月20日  |          |
| 応募者各位   | 救援・復興支援室 |
| 東日本大震災に係る「ボランティア隊」参加<br>決定通知書   |          |
| 下記のとおり決定しましたのでお知らせいたします。  |          |
| 記   |          |
| 参加の班: 第〇班   |          |
| 期間: 平成23年 月 日～平成23年 月 日   |          |
| 集合場所・時間: 東京大学(本郷キャンパス)本部棟前 午前7:30   |          |
| ※ 事前説明会を次のとおり開催しますので、ご出席ください。<br>日時 7月28日(木) 17:30～19:00<br>場所 工学部213講義室(工学部2号館1階・ピロティアー(SUBWEY)の下の階)<br>万一事前説明会に参加できない方は、当日以降、学生支援センター地下1階学生支援課において「参加者のしおり」をお配りします。当該「参加者のしおり」には、参加に必要な事前準備及び注意事項等が記載されていますので、必ず事前にお読みください。 |          |
| ※ ボランティア隊参加は、基本的に自己責任・自己完結が原則です。  |          |
| ※ 問合せ・連絡先: 東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班<br>(学生支援センター地下1階 学生支援課内)<br>E-mail <a href="mailto:volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp">volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp</a><br>FAX 03-5841-2519<br>TEL 03-5841-2529(内線22529)             |          |

### (3) 参加者説明会

(学内広報掲載記事)

#### ボランティア隊参加者への説明会が開催される

平成23年7月28日(木)17時30分から、本学本郷キャンパス工学部2号館213講義室において、ボランティア隊参加者のための説明会が開催された。

本学では、夏季の休業期間に岩手県遠野市を拠点として沿岸地域における救援・復興支援活動を希望する学生及び教職員によるボランティア隊の募集を行った。8月に3班、9月に2班を編成することとし、往復の交通手段や宿泊場所の確保等の支援を行う。各班の定員は45名であったが、各班最終締切日には定員を上回る5班合計256名の参加希望者があった。

説明会では開会に先立ち、東日本大震災によって尊い命を失った多くの人々に謹んで哀悼の意を表し、黙祷を捧げた後、濱田純一総長から挨拶があり、参加者への励ましとボランティア活動への期待が述べられた。

続いて、東日本大震災以降ボランティア活動5回の経験をもつ蔭山達矢農学系教務課長と、説明会直前に公益団体企画のボランティアに参加した教育・学生支援部の市村桃子さんから被災地の現状やボランティア参加者の心構えなどが報告され、参加者に有益な情報が提供された。

その後、川久保亨ボランティア支援担当課長、浅野公一学生支援課長から、今回のボランティア隊の日程や注意事項等の説明があった後、全体を通し質疑応答があり、各班に分かれて自己紹介し、顔合わせを行った。

最後に、武藤芳照学生担当理事・副学長(救援・復興支援室ボランティア支援班担当)から閉会の挨拶があり、終了した。

なお、第1班は8月3日(水)～8月7日(日)までの4泊5日の日程でボランティア活動を行う予定である。



濱田総長による挨拶



蔭山達矢農学系教務課長からの報告



教育・学生支援部 市村桃子さんからの報告

#### (4) 参加者のしおり (抜粋)

ボランティア隊  
参加者のしおり

平成23年7月28日  
東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

#### (目次)

|                          |     |    |
|--------------------------|-----|----|
| 1 活動期間                   | ... | 3  |
| 2 活動日程・日程表               | ... | 3  |
| 3 参加者名簿(班別)              | ... | 6  |
| 4 注意事項等                  | ... | 11 |
| ・ 活動するにあたっての心構え          |     |    |
| ・ 地震発生時の注意事項             |     |    |
| ・ 急病等発生時の注意事項            |     |    |
| ・ コミュニティセンター(集会場)の利用について |     |    |
| ・ 関係機関・施設                |     |    |
| 5 事前準備と持ち物               | ... | 20 |
| ボランティア活動について             |     |    |
| ボランティア保険への加入について         |     |    |
| 予防接種について                 |     |    |
| 大学への届出                   |     |    |
| 持ち物                      |     |    |
| 6 こんな時はどうする(Q&A)         | ... | 27 |

#### 参考資料

- ① 遠野まごころネットの登録カード、参加申込書・誓約書
- ② 生協で販売しているボランティア活動グッズリスト

#### 1. 活動期間

- 第1班 平成23年8月3日(水)～8月7日(日)  
<4泊5日(うち車中1泊)>
- 第2班 平成23年8月9日(火)～8月13日(土)  
<4泊5日(うち車中1泊)>
- 第3班 平成23年8月24日(水)～8月28日(日)  
<4泊5日(うち車中1泊)>
- 第4班 平成23年9月3日(土)～9月7日(水)  
<4泊5日(うち車中1泊)>
- 第5班 平成23年9月18日(日)～9月22日(木)  
<4泊5日(うち車中1泊)>

※ 各班とも、最終日は早朝(6時頃)に東京大学本部棟前に到着予定です。

#### 2. 活動日程

※ 道路事情や天候等により変更になる場合があります。

##### 第1日目

7:30 集合(東京大学本部棟前)

8:00 出発

車中又は休憩所にて昼食(各自負担)

適宜休憩

17:00 遠野到着(遠野分室で鍵の受領)

副隊長以下は、入浴施設にて入浴、夕食など(各自負担)

スーパー、コンビニ等で翌日の朝食等の買出し(各自負担)

※隊長、随行者は、18:30から遠野まごころネットでの「代表者ミーティング」に参加

20:00 宿泊場所(遠野市コミュニティセンター)到着

適宜、連絡事項の伝達、ミーティング等

22:00 就寝

##### 第2～3日目

5:30 起床・洗面・朝食・片付け

6:30 バスにて宿泊場所を出発(途中、コンビニ等で昼食・飲み物の調達)

7:15 遠野まごころネット(遠野市総合福祉センター)にて朝礼、体操

8:00 移動

9:30～15:00 作業に従事(昼食)

15:00 移動

16:30 遠野まごころネットに帰着、用具の清掃等

17:30 一般ミーティング(初めての人は必ず参加)

18:30 代表者ミーティング(隊長、随行者出席)

(空き時間に近隣施設で夕食、翌朝食等の調達も可能)

19:30 バスにて入浴施設に移動、入浴・夕食等

20:30 宿泊場所へ移動(途中、コンビニ等へ寄る予定)

適宜、連絡事項の伝達、ミーティング等

22:00 就寝

##### 第4日目

5:30 起床・洗面・朝食・片付け

6:30 バスにて宿泊場所を出発

(途中、コンビニ等で昼食・飲み物の調達)

7:15 遠野まごころネット(遠野市総合福祉センター)にて朝礼、体操

8:00 移動

9:30～15:00 作業に従事(昼食)

15:00 移動

16:30 遠野まごころネットに帰着、用具の清掃等

18:30 代表者によるミーティング(隊長、随行者出席)

(空き時間に近隣施設で夕食等の調達も可能)

19:30 バスにて入浴施設に移動、入浴・夕食等

20:30 宿泊場所へ移動(帰り仕度、鍵の返却等)

21:30 現地出発(夜行バス)

##### 第5日目

6:00 大学到着・解散

(参考)現地への移動手段

「東京～遠野市(往復)」及び「遠野市内～活動場所」の移動は、大学が借り上げる大型バスで行います。(バス利用に係る参加者の負担はありません。)

#### 4. 注意事項等

##### 活動するにあたっての心構え

(1) ボランティア活動は自己責任・自己完結が原則です。事前に自分自身でも十分な情報収集・確認を行い、水・食料・常備薬・適切な服装・保険等、必要な備えをして被災地に入りましょう。

(2) 復旧や復興の主役は被災された方です。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。

(3) 被災された方と話す際は、相手と同じ目の高さ自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう。

(4) 仲間内の話での笑い声が、被災された方の誤解を招くこともあります。言動などへの気配りを忘れないようにしましょう。

(5) 写真やビデオ撮影をする場合は、被災された方や被災地の気持ちを配慮して行うようにし、被災された方が特定できる写真は、その方の了解を得てからにしましょう。

(6) 団体行動が原則となります。仲間とよく話し合い、一人で作業を抱え込まないようにしましょう。また、単独での行動は避けましょう。

(7) 作業がない場合も少なからずありますが、むりやり行動すると被災地が混乱します。「待つのもボランティア活動」だと考えましょう。

(8) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。また、必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。

(9) ボランティア活動は、やってあげるものではありません。自分のやりたいことをやるのではなく、できることをやらせてもらうと心得ましょう。

##### [安全面]

(10) 活動するためには災害保険の加入が必須です。お住まいの地域の社会福祉協議会で加入できますので、事前に各自で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしましょう。

(11) ケガによる破傷風や感染症の罹患に備え、「予防接種」を受けましょう。

(12) 自分の体調を見極めよう。調子が悪い時は「活動しない」も選択肢です。おかしいなと感じたら、活動をやめてリーダーに伝えましょう。

(13) 暑い時期は特に、水分を十分に用意し、こまめにとります。また、汗をかいたら塩分の摂取にも留意しましょう。

(14) 活動が終わったら、熱い気持ちをクールダウン。報告ではヒヤリ・ハッとした経験なども伝えましょう。しっかり寝て翌日も元気に起きましょう。



#### 地震発生時の注意事項

(バス乗車時に地震が発生したら)

- ・走行中に地震が発生した場合、運転手の判断により車を路肩に停車させますが、運転手の指示に従って車内で待機してください。
- ・地震が収まり、運転手の指示により車外へ待機する場合には、バスの前方の路肩で待機してください。特に、高速道路では、むやみに走行車線に出ると危険ですので、決して走行車線には出ないでください。

(ボランティア活動中に地震が発生したら)

- ・活動場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- ・屋外で活動中に地震が発生したら、頭上の落下物の危険のない場所へ退避してください。揺れが収まりましたら、地元の防災無線による指示等に従ってください。
- ・沿岸地域で活動中の場合には、揺れが収まりましたら地元指定の高台の避難所へ退避してください。避難経路や避難場所が不明の場合には、最寄りの裏山やコンクリート製の高層建物(できれば4階以上が望ましい)に避難してください。
- ・体育館等の避難所で活動中に地震が発生したら、天井構築物や照明器具等の落下に注意するとともに、避難所責任者の指示に従ってください。
- ・余震が想定される場合には、揺れが収まってから屋外に退避してください。
- ・自身の安全確保と同時に、子供や高齢の避難者の誘導等にも心がけてください。

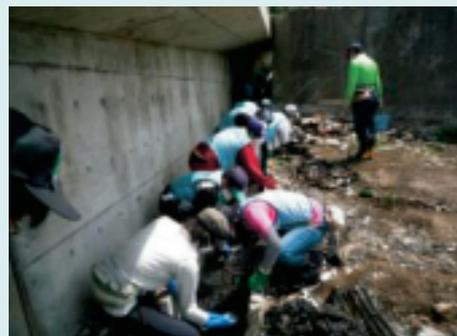
(コミュニティセンターで地震が発生したら)

- ・コミュニティセンターに到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- ・コミュニティセンターは、平屋建てのしっかりした建物ですので、窓ガラス等の破損の危険のない所で、落ち着いて揺れが収まるのを待ってください。
- ・台所でコンロを使用中の場合には、直ちに火を止めてください。その際、やけどをすることのないよう、注意してください。
- ・万一、火災が発生してしまったら、直ちに備え付けの消火器を使用して初期消火に努めてください。同時に、消防署(119番)へ緊急連絡を行ってください。
- ・コミュニティセンターの周辺には空き地があります。余震が想定されるようでしたら、揺れが収まった後、外へ退避してください。
- ・遠野市の防災無線による指示がありましたら、落ち着いてその指示に従ってください。

(総合福祉センター等で地震が発生したら)

- ・上記の「コミュニティセンターで地震に発生したら」を参考にしつつ、遠野まごころネットの職員の指示に従ってください。

東北地方では、今もかなり強い余震が度々発生していますので、地震や津波に十分注意して行動してください。



## 急病等発生時の注意事項

・(出発前に)急病等の不測の事態が生じたときは、速やかにボランティア支援班事務局までご連絡ください。

(連絡先)東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局  
E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
直通電話 03-5841-2529  
携帯電話 080-2373-1881・1882

・作業中に体調が悪くなった時は、無理をしないで、周りの人に声をかけ、移動バスや日陰等で安静にしてください。なお、熱中症等にならないよう、20分程度の活動の後5分程度の休憩をとり、水分・塩分を補給するようにしてください。

・切り傷、擦り傷や古釘を踏むなどがをしてしまった場合には、傷口を流水で清潔にするとともに、清潔なハンカチやタオルを当てがうなどして止血してください。なお、随行しているボランティア支援班員(大学職員)が救急箱を準備していますので、声をかけてください。

・ピアノ等の重量物を落としてしまい骨折が疑われる場合には、厚紙や割り箸、その他何でもよいので、患部にあてがい、タオル等で固定する等の応急措置をしてください。

・意識を失った者を発見した場合には、むやみに移動させず、安静な体勢にしてください。また、本学のボランティア参加者の中には、保健師や看護師の方がいますので、声をかけてください。少人数での行動時や保健師等の資格保持者が周りにいない場合には、応急措置を行うとともに、周りの人に声をかけ、直ちに救急通報(119番)を行ってください。

作業を行うに当たっては、必ず安全靴やスチール製の踏み抜き防止具を用意してください。

本郷及び駒場生協で装備された長靴を購入することができますし、ホームセンターでも、安全靴仕様の長靴が2千円程度で購入できますので、必ず準備してください。

作業は、家屋や側溝の污泥除去等も想定されます。体調不良の場合や持病等によりボランティア活動の自信がない場合には、ボランティア支援班員(大学職員)に相談して、当日の活動を控えるようにしてください。

なお、持病の状況や体調によっては、ボランティア隊への参加自体を再考してください。無理を押しての参加は、他の方々に迷惑をかけることとなりますので、お控えください。



## コミュニティセンター(集会場)利用について

遠野市のコミュニティセンターは、地区住民の方々が使用する公共の施設であり、本学のボランティア隊の活動支援のために特別に貸与されたものであるため、以下の注意事項を厳守して使用すること。

### 1 使用に当たって

使用に当たっては、遠野分室やコミュニティセンターを管理する自治会長及び市役所職員の指示に従い、清潔かつ平穩に使用すること。特に、地区住民の急の使用申し出があった場合には、その指示に従うこと。また、22時以降は静粛にし、夜間の宴会や騒音等は厳に慎むこと。

### 2 寝具の使用について

- ①使用した寝具は、使用者が責任を持って毎朝片付けること。寝具の敷きっぱなしは厳禁とする。
- ②シーツ、枕カバー等のリネン類は、退出日の朝、玄関内の所定の場所に集めること。
- ③寝具は、当センターを使用する他の本学教職員が共用するので、清潔に使用すること。

### 3 台所について

- ①台所に備え付けの備品(やかん、鍋、ポット、茶器等)を使用した場合は、使用后、きれいに洗い元の場所に片付けること。
- ②火災防止のため、台所に備え付けのレンジ等以外の火器の使用は厳禁とする。

### 4 トイレについて

- ①トイレは清潔に使用し、汚損した場合はすぐに掃除すること。
- ②コミュニティセンターを退館する場合は、必ずトイレの清掃を行うこと。

### 5 その他

- ①ごみは、所定の日に、遠野市指定のビニール袋に入れるなど、定められた方法により出すこと。それ以外に新たに出たごみは、各自が持ち帰ること。
- ②施設及び備品を毀損又は滅失してしまった場合には、随行している職員に連絡し、その指示に従うこと。
- ③退館する場合は、必ず屋内各所及び建物周辺の清掃を行うこと。
- ④コミュニティセンター内は、「禁煙」とする。
- ⑤その他、不明な点があれば随行している職員に連絡し、その指示に従うこと。



## 事前準備と持ち物

### 1 ボランティア活動について

1) 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになりますが、基本的にはボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結を原則**とします。

2) 活動内容は、連携する遠野市のボランティア団体「遠野まごころネット」に委ねることになりますので、当日に決定されます。また、勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。なお、全体を通しては、隊長・副隊長、救援・復興支援室ボランティア支援班員(随行者)及び遠野分室職員からの連絡事項や指示に従ってください。

### 2 ボランティア保険への加入について

ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「**災害ボランティア保険(天災Bプラン)**」に加入するようにしてください。

加入手続きは、別添資料をご参照ください。

### 3 予防接種について

錆びた釘によるケガで破傷風に罹患したり、避難所でインフルエンザ等の感染症に罹患したりした等の例があります。各自で予防接種を受けるようにしてください。

地域の診療所等でお受けください。破傷風については本学の本郷地区保健センターでも実施しています(別添資料参照)。

### 4 大学への届出

参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ、教職員は「ボランティア活動計画書」を所属部局の総務担当へ、提出してください。

(様式添付)

なお、岩手県の対象地域(三陸沿岸周辺地域及び遠野市)にてボランティア活動を行う際に救援・復興支援室に提出をお願いしている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

### 5 持ち物

#### 1) 大学が用意するもの

寝具一式、ビブス(大学名入りベスト)、名札、手袋(軍手)、防塵マスク、大ビニール袋

#### 2) 個人が用意するもの

・〈必需品〉食事、作業着(長袖、長ズボン)、着替え、洗面用具、入浴セット、タオル、マスク、ゴーグル、ゴム手袋(厚手)、上下カッパ、帽子又はヘルメット、作業靴(踏抜き防止用スチール製中敷き含)、水筒又はペットボトル、保険加入カード、現金

・〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、身分証明証、健康保険証、各自必要な薬品・衛生用品、ウェットティッシュ、電源タップ、防虫品、小物ポーチ、他

## (5)活動報告

### 救援・復興支援室

#### 東京大学ボランティア隊の活動報告について

東京大学では、ボランティアの理念(自発性、無償性、公共性等)に留意しつつ、「救援・復興支援室」において、持続可能な形と方法でボランティア活動を支援することとし、本学初の取組となる「ボランティア隊」の参加者を募り、岩手県遠野市及びNPO法人「遠野まごころネット」等の協力を得て、岩手県三陸沿岸被災地の救援・復興支援に当たることとしました。

ボランティア隊は、5つの班に分けて4泊5日の日程で募集をしたところ、定員を超える多数の応募があったため、応募順位を優先しつつ、学生と教職員、男女構成等を考慮して参加者を決定し、総勢220名を派遣しました。

#### 【第1班】

第1班の44名(うち学生26名)は、平成23年8月3日(水)～7日(日)までの日程で、岩手県大槌町安渡地区の住宅地側溝のがれき・汚泥の除去や、お盆を前にして、大徳院、蓮乗寺及び江岸寺でのがれき撤去を含む清掃活動に従事しました。



#### 【第2班】

第2班の47名(うち学生24名)は、8月9日(火)～13日(土)までの日程で、第1班に引き続き大槌町江岸寺でのがれき撤去等を行い、同寺での作業を完了しました。また、陸前高田市気仙町の林での下枝・がれき撤去作業に従事するとともに、一部の者は地元農家の畑作業の手伝いも行いました。





### 【第3班】

第3班の46名(うち学生23名)は、8月24日(水)～28日(日)までの日程で、大槌町赤浜地区の神社での清掃活動や住宅のがれき撤去作業を行いました。また、8月27日(土)には、13名が、大船渡市内の仮設住宅のコミュニティスペースで使用するイスやテーブルのペンキ塗り等を行いました。



### 【第4班】

第4班の42名(うち学生32名)は、9月3日(土)～7日(水)までの日程でしたが、4日(日)及び5日(月)は台風12号の影響により大槌町での「遠野まごころネット」による作業が中止となったため、同団体が利用している遠野市総合福祉センターや遠野東大センターの清掃活動を行いました。また、5日(月)には、8名は別行動により、大船渡市内の仮設住宅での「ふれあいカフェ」(お茶を配り、手のひらでタッピングしながら被災された方々と接する活動)に参加しました。天候の回復した6日(火)は全員で、大槌町赤浜地区の住宅地のがれき撤去作業を行いました。なお、濱田純一総長は、4日(日)に大槌町を訪問され、現地にて第4班の参加者を激励されました。





【第5班】

第5班の41名(うち学生29名)は、9月18日(日)～22日(木)までの日程で遠野市へ入りましたが、台風15号の影響による大雨で「遠野まごころネット」の作業が中止になったため、支援団体「セーブ岩手」の活動に加わり、倉庫として利用されている盛岡市内の廃校において支援物資の仕分け作業を行いました。なお、21日(水)午後9時30分に遠野市を立ちましたが、東北自動車道の通行止めや渋滞等により大幅に遅延し、22日(木)午後3時過ぎに、濱田総長、本部職員の出迎えのなか、全員元気に本部棟前に帰着しました。



ボランティア隊の参加者からは、「ボランティア活動への参加の機会を得られ、貴重な経験をした」、「厳しい環境の中で、東京大学構成員としての自覚や団結心が生まれた」、「賢く思いやりがあつて逞しい東大生と東大教職員の皆さんが大好きになった」等の意見や感想が、多数寄せられました。また、被災地の方々や遠野まごころネットの方々からも、ボランティア隊の活動に対し、お礼やお褒めのお言葉をいただきました

(ホームカミングデー用パネル)

## 東京大学「ボランティア隊」の活動

東京大学では、ボランティアの理念(自発性、無償性、公共性等)に留意しつつ、持続可能な形と方法でボランティア活動を支援するとの方針の下、その一環として本年8月から9月にかけて学生・教職員総勢220名を5班に編成し「東京大学ボランティア隊」として、岩手県遠野市を拠点とした沿岸被災地へ派遣しました。

**【第1班】** 44名  
 ○日程: 平成28年8月3日(水)～8月7日(日)  
 ○拠点: 遠野市大目地区  
 ○作業内容:  
 ・大目地区の江岸寺の住居の解体  
 ・大目地区の江岸寺の住居の解体  
 ・大目地区の江岸寺の住居の解体

**【第2班】** 47名  
 ○日程: 平成28年8月11日(土)～8月13日(日)  
 ○拠点: 遠野市大目地区  
 ○作業内容:  
 ・大目地区の江岸寺の住居の解体  
 ・同 解体車の手回し

**【第3班】** 45名  
 ○日程: 平成28年8月24日(水)～8月28日(日)  
 ○拠点: 遠野市大目地区  
 ○作業内容:  
 ・大目地区の江岸寺の住居の解体  
 ・同 住居の解体  
 ・大目地区の江岸寺の住居の解体

**【第4班】** 42名  
 ○日程: 平成28年9月3日(土)～9月7日(水)  
 ○拠点: 遠野市大目地区  
 ○作業内容:  
 ・同 住居の解体  
 ・大目地区の江岸寺の住居の解体  
 ・大目地区の江岸寺の住居の解体

**【第5班】** 41名  
 ○日程: 平成28年9月18日(日)～9月22日(木)  
 ○拠点: 遠野市大目地区  
 ○作業内容:  
 ・同 住居の解体  
 ・大目地区の江岸寺の住居の解体  
 ・大目地区の江岸寺の住居の解体

救援・復興支援室 ボランティア支援班

(6) 参加者数

| ボランティア隊参加者数及び活動内容 |      |    |        |   |     |   |     |    |     |    |     |   |  |
|-------------------|------|----|--------|---|-----|---|-----|----|-----|----|-----|---|--|
| 区 分               | 学部学生 |    | 院生・研究生 |   | 教 員 |   | 職 員 |    | 小 計 |    | 合 計 | 活動の内容   | 備 考  |
|                   | 男    | 女  | 男      | 女 | 男   | 女 | 男   | 女  | 男   | 女  |     |   |  |
| 第 1 班             | 13   | 4  | 5      | 4 | 3   | 0 | 7   | 8  | 28  | 16 | 44  | ・大船町安渡地区の住宅街側溝のかげき・ヘドロの撤去<br>・大船町の大徳院及び蓮乗寺のかげき撤去・草取り<br>・大船町の江岸寺のかげき撤去            | ・釘による踵のけが 1名<br>・軽度の熱中症 2名<br>・小指の打撲 1名<br>・足の切り傷 2名 |
| 第 2 班             | 9    | 7  | 7      | 1 | 2   | 0 | 16  | 5  | 34  | 13 | 47  | ・大船町の江岸寺のかげき撤去<br>・陸前高田市気仙町の林の下枝・かげき撤去<br>・陸前高田市気仙町の畑作業の手伝い                       | ・軽度の腰の打撲 1名  |
| 第 3 班             | 11   | 3  | 9      | 0 | 2   | 1 | 12  | 8  | 34  | 12 | 46  | ・大船町赤浜地区の神社の草刈り<br>・大船町赤浜地区の住宅のかげき撤去<br>・大船渡市の仮設住宅でのベンチ等のペンキ塗り作業                  | ・負傷者なし   |
| 第 4 班             | 19   | 8  | 5      | 0 | 1   | 0 | 5   | 4  | 30  | 12 | 42  | ・遠野東大センター周辺の草取り<br>・遠野市総合福祉センターの清掃<br>・大船渡市内の仮設住宅での「ふれあいカフェ」<br>・大船町赤浜地区の住宅のかげき撤去 | ・負傷者なし   |
| 第 5 班             | 15   | 7  | 6      | 1 | 1   | 1 | 6   | 4  | 28  | 13 | 41  | ・盛岡市内での救災物資の仕分け作業   | ・負傷者なし   |
| 小 計               | 67   | 29 | 32     | 6 | 9   | 2 | 46  | 29 | 154 | 66 |     |   |  |
| 合 計               | 96   |    | 38     |   | 11  |   | 75  |    |     |    | 220 |   |  |

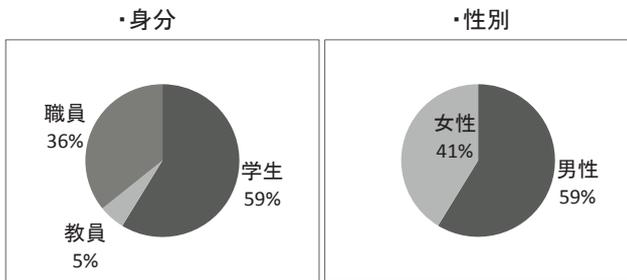


(7) 参加アンケート

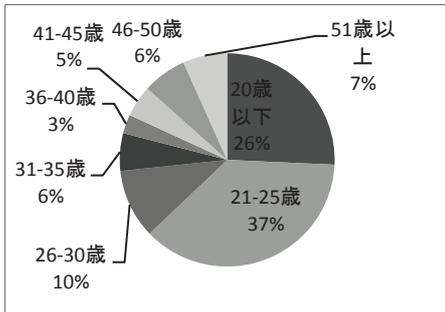
ボランティア隊参加者アンケートの回答結果

問1 あなたご自身について伺います。

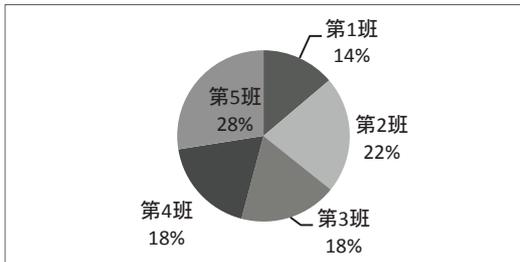
回答数109



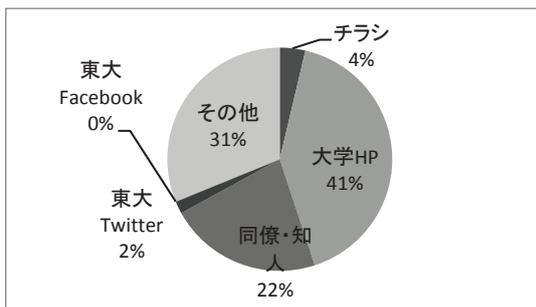
・回答者の年齢層



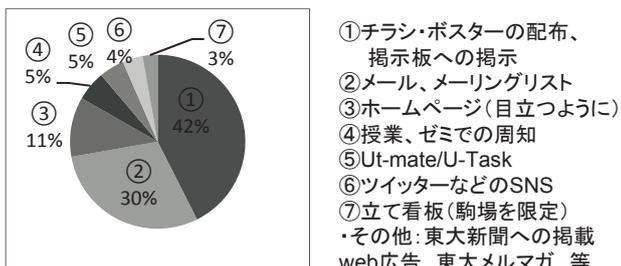
問2 あなたは、どの班に参加されましたか。



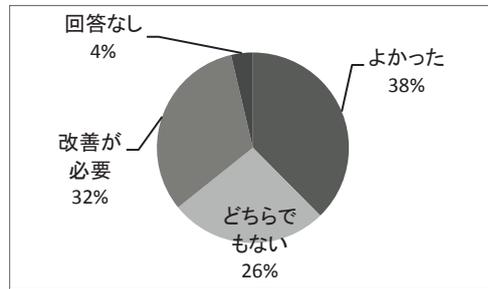
問3 あなたは、今回のボランティア隊を何によって知りましたか。(最も近いもの1つ)



問4 あなたは、今回のボランティア隊の募集をどのような方法(メール、ポスター等)で行えば、より広く周知できたと思いますか。ご意見をお聞かせください。

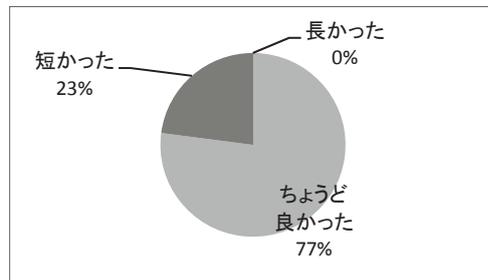


問5 ボランティア隊参加者への説明会(7月28日開催)など、事前の情報提供について伺います。

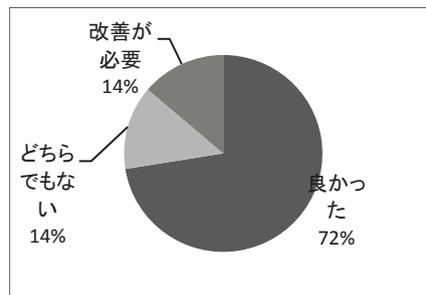


※「改善が必要」な理由(抜粋):  
 ○開催回数が不足  
 ○都合の悪い人への配慮や、時期をずらすなどの対応  
 ○事前準備、持ち物の情報が不足

問6 ボランティア隊としての実際の3日間の活動日数について伺います。

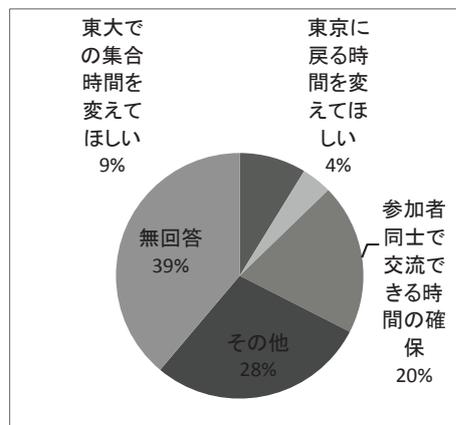


問7 今回のボランティア活動の内容(がれきの撤去等)について伺います。



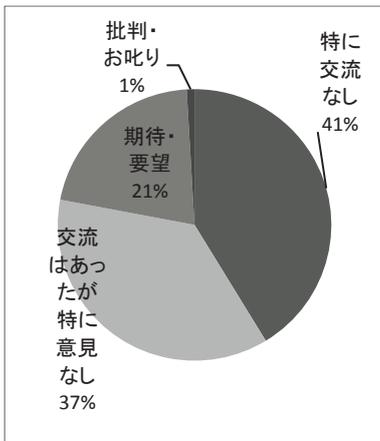
※「改善が必要」の理由(抜粋):  
 ○雨天、臨時の活動内容を検討しておくべき  
 ○東大の独自性があると良い

問8 今回のボランティア隊のスケジュールについて伺います。



※「その他」意見の具体例  
 ○良かった、不満はない  
 ○実質的な活動時間が短い  
 ○現地集合・解散の選択肢もあれば良い

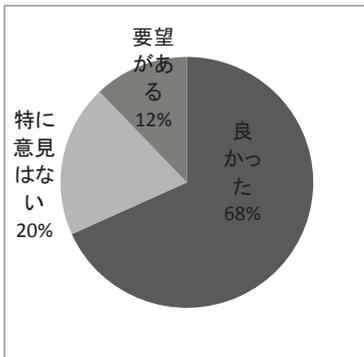
問9 ボランティア隊の活動中に被災地の方々と接触・交流はありましたか。また、その際、被災地の方から、救援・復興支援活動について、何かご意見等がありましたか。あった場合には、その内容をお聞かせください。



※「期待や要望、あるいはお礼を受けた」  
具体例：  
○ありがとう・また来てほしい  
○飲み物をいただいた

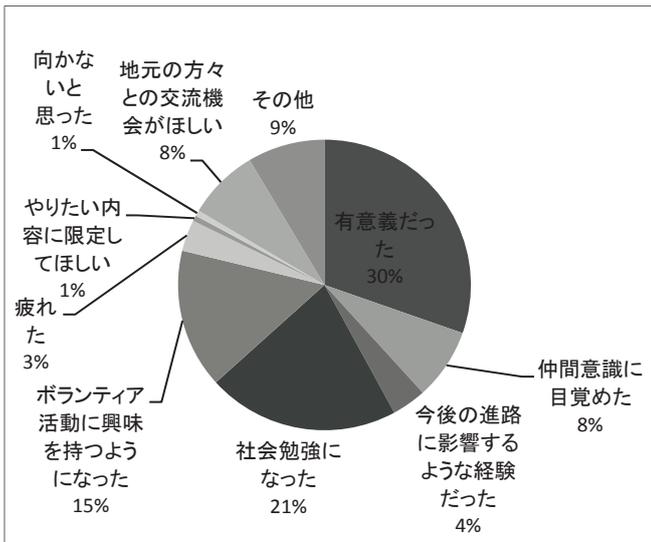
※「批判やお叱りを受けた」  
具体例：  
○草取り後の置き場所が草で溢れた

問10 ボランティア隊での随行員や遠野分室の対応について伺います。



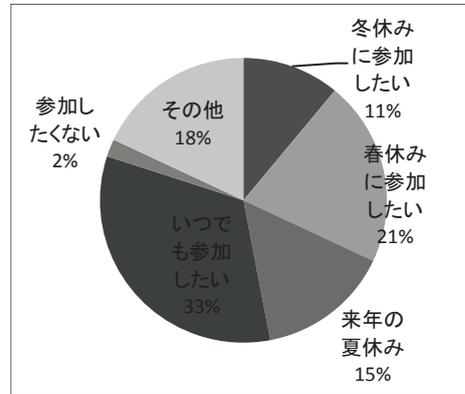
※「要望がある」具体例：  
○遠野分室の見学をしたかった  
○随行者と隊長との立場関係が不明確

問11 今回、ボランティア隊に参加されての感想について伺います。(複数回答可)



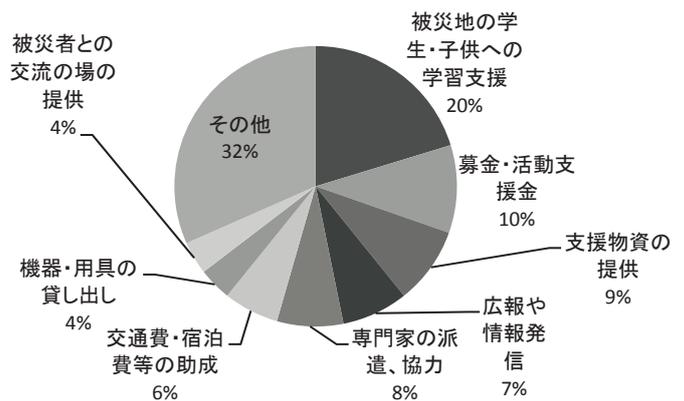
※問11「その他」意見の具体例：  
○今後も継続的にボランティア等の貢献をしたい  
○長期的な支援が不可欠と感じた  
○多様な団体や活動に参加できる体制が良い  
○現状に触れ多くのことを考えさせられた

問12 今後、大学がボランティア隊の募集を行った場合、あなたはもう一度参加したいですか。(複数回答可)



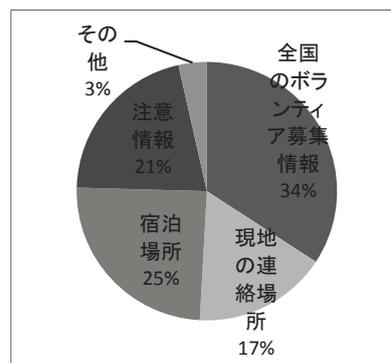
※「その他」意見の具体例：  
○日程・活動内容次第で参加  
○都合・予定が合えば参加する

問13 東日本大震災に係るボランティア活動に関し、ボランティア隊以外に、大学がどのような支援(情報提供を除く)をすることが良いと思いますか。できるだけ具体的に記入願います。



※「その他」意見の具体例：  
○復興、街づくりに向けた助言・提言  
○被災地産物の学内販売  
○東大での学習指導、遠隔授業  
○サークル・学生団体による支援活動

問14 独自にボランティア活動を行う場合、大学からどのような情報提供があれば良いと思いますか。(複数回答可)



※「その他」具体例：  
○交通手段  
○現地ボランティアセンターの紹介  
○学業・就業上の手続きの周知

■ ボランティア隊参加者アンケート回答(問15意見・提案部分)

問15 以上の他、ボランティア活動への支援全般について、ご意見・ご提案等がありましたら記入してください。

○ 有意義な活動、貴重な経験をすることができた。ボランティア活動の機会の提供に対する感謝の意見。(同様回答、全16件)

○ 隊長、随行員、ボランティア支援班等への感謝の意見。(同様回答、全10件)

○ 単発的・一過性の支援にならないように、大学として一丸となって長期にわたりかつ継続して支援を行うことが必要である。今後も活動の活性化を図って欲しい。(同様回答、全9件)

○ 自己責任・自己完結が原則と言いつつ、マスクや軍手の支給、昼食の手配や宿泊施設の提供など、大学のプログラムに保護されていると感じた。学生の自主性を考慮した内容になることを期待する。(同様意見、全2件)

○ ボランティア活動は個人責任・自己完結が基本であり、タフな東大生を育てるためにも、被災地で学生に自ら問題を発見させて、自らのアイデアで問題解決に向けた行動をさせるべき。大学は交通費や宿泊費などの後方サポートに徹し、学生には自由に考え、行動させ、成功と失敗を味わってもらおうと良い。(同様回答、全2件)

○ いくつかのボランティア団体と協力する東大ボランティアベースを設ける。ボランティアの負担を減らすために、ボランティア活動のための様々な道具・資材(ヘルメット、ゴーグル、革手袋、長靴など)を用意する。(同様回答、全2件)

○ ビブスにでかかどと大学の名前を書いてあるのが自己顕示欲の塊のようで、大学名をあえて大きく出すことに疑問を感じた。(同様意見、全2件)

○ 最高学府としてできることはもっとたくさんある。なにか貢献したくてくすぶっている学生は山ほどいる。大学の支援があれば、より長期的な、より大規模な、より特化したプロジェクトを行えるはず。

○ 東京大学は周りから注目されているので、「初めての試みだから」「あくまで自己完結だから」と妥協せずに、日本の大学を牽引する大学としてベストを尽くし続けたい。

○ 今回は遠野まごころネットに完全委託という形であったが、事前に現地のニーズを調査するなどして、東大独自の、東大らしいボランティア活動を企画できれば理想的だ。

○ この度の震災について、社会の関心が薄れてしまうかもしれないが、大学から情報発信を続けて、「考える」機会を与え続けてほしい。

○ 東大で初めてのボランティア隊派遣だったが、この経験を活かして積極的に支援活動を行うことは、学生の教育上、また社会の Opiniオンリーダーとして好ましい活動だ。

○ 学習支援などいかに東大らしいことも重要だが、そのような場合でも「現場」で汗を流して働く場面を織り込み続けるのが、特に若い学生の体験という意味で有意義だ。

○ 大学の募集で完全団体行動という点で、初めての参加者にとって安心できた。また、東大にかかわる様々な方と話ができる機会でもあり、自分の世界を広げられた。

○ 学生に旅費の支援等を行うこと、学内のキャンパスでできる貢献の創造等、今後の指針を決定しておくこと。

○ 東京大学という名前を背負ってボランティア活動に参加し、自分が東京大学に通っている意味や社会的責任について考えさせられた。

○ 大学が交通手段を確保して現地まで引率することは、学生に対する教育的意義も大きい。

○ 被災された方との交流の場が必要だ。3.11を実際に体感した方々の生の声が、ボランティアにとって最も必要な情報・経験であり、将来の自分の活動の動機となる。

○ 今回のボランティア隊でいろいろなルールができたと思うので、ある程度文章化して次のボランティア隊には共通のルールとしてあらかじめ知ってもらおうと多少円滑になる。

○ 班分けは、学生と教職員、男女の比率など、均等に分けたほうが良い。

○ 場合により数名に分かれて活動できるようにするなど、現地の状況に合わせた柔軟な活動ができるようにするべきだ。

○ 被災自治体などとの関係を強化することで、より主体的な支援活動を行っていくべきだ。

○ 現地のみならず東京で参加できるボランティア活動についても情報提供をしてほしい。

○ 被災地支援ボランティアの活動を深く知る人が増えることで、本学におけるボランティア支援体制が充実することを願う。今後ギャップ・イヤー(セメスター)が始まった場合には、大学にとって必要不可欠な機能である。

○ 遠野東大センターをボランティア隊派遣時以外にどのように有効活用するのか、遠野分室がどのような活動をしているか、などについて公表してほしい。

○ 大学の専門家集団としての能力が活かせるようなボランティアも必要だ。

○ 「自分たちが何かをしたこと」が重要であり、現地のことを知らないしその後も知ろうとしない人が多いのでは、継続的な支援にはつながらない。その地方のオタクになるくらいに調べて相手を理解しようとする必要もある。

○ いずれ福島県にも何らかの形で(調査ではなく)入った方が良い。大学が知らない振りしてやり過ぎようなことは良くない。

○ ボランティア隊について、大学が全てやるのではなく、民間の旅行会社や生協を入れる方法もある。参加者を集めて送り続けるためには、活動に魅力が必要であり、プロのノウハウを使うのも一つの手段だ。

○ 随行員も含めて参加者に経験者が少なく、皆で試行錯誤を繰り返した経験は意義深いだが、今後は参加者にリーダーになってもらうなど全体の活動のレベルを上げていけると良い。

○ 活動場所について、MLなどを活用し事前の情報提供と事後のフォローアップがあると良い。例えば、事前には大槌町の基本情報や被害状況について、事後にはボランティア隊の活動に関連する新聞記事のクリップなど。

○ 東大ボランティア隊として大人数で活動するため小回りが利かず、雨天時等作業ができない場合もあるため、必ずしも団体で動く必要はない。

○ 学生の意見があまり反映されず、教職員のボランティアツアーに同行させられている気分だと話す学生もいた。

## 2、学習支援ボランティアの派遣

平成23年12月から平成24年3月の間に、学生による学習支援ボランティアを、岩手県陸前高田市及び福島県大熊町へ派遣しました。

### 【年末年始学習支援ボランティア：陸前高田市「学びの部屋」】

#### (1) 募集ポスター

岩手県陸前高田市「学びの部屋」  
**学習支援ボランティア**  
**募集!!(予定)**

現在予定している内容は次の通りです。

- 日程：2023年12月24日～12月30日の間の数日、2024年1月4日～1月10日の間の数日
- 場所：岩手県陸前高田市の学校の教室
- 活動内容：小中学校生徒の自学学習をサポート
- 募集人数：30名程度

※その他詳細は決定次第掲載します。

#### (2) 申込書

| 【東京大学学習支援ボランティア用】ボランティア活動申込書 |  |           |
|------------------------------|--|-----------|
| 平成 年 月 日提出                   |  |           |
| 氏名 (ふりがな)                    | ( )  |           |
| 学生証番号                        |  |           |
| 学部名、研究科名                     |  |           |
| 種類、学科、専攻等                    |  |           |
| 連絡先                          | 電話番号   |           |
|                              | 携帯番号   |           |
|                              | メールアドレス(PC)  |           |
|                              | メールアドレス(携帯)  |           |
| FAX                          |  |           |
|                              | 氏名   | 本人との関係( ) |
|                              | 続柄   |           |
| 活動期間                         | 平成 年 月 日( ) ~ 平成 年 月 日( )  |           |
| 活動場所                         |  |           |
| 活動内容                         |  |           |
| 現地までの移動手段、経路                 | <input type="checkbox"/> 電車 <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> 飛行機 <input type="checkbox"/> 自動車 <input type="checkbox"/> バイク<br><input type="checkbox"/> その他( )<br>経路: |           |
| 備考                           |  |           |
| 平成 年 月 日                     | 【提出先】東京大学ボランティア支援担当事務局(本部学生支援課内)<br>電話: 03-5841-2524(内線22524)<br>E-mail: volunteer-jimu@ml.adnu-tokyo.ac.jp<br>住所: 〒113-8654<br>東京都文京区本郷7-3-1 学生支援センター内                                  |           |

#### (3) オリエンテーション

出発に先立ち、12月21日(水)15時～16時30分に、参加学生に対する事前説明会を開催し、市川伸一大学院教育学研究科長による「被災地での個別学習支援にあたって」の講話、教育学部附属中等教育学校の細矢和博教諭による学習指導上のアドバイス及び市村桃子ボランティア支援班員による日程や注意事項等の説明が行われました。

岩手県陸前高田市「学びの部屋」への学習ボランティアオリエンテーション次第

日時:平成23年12月21日(水)15:30～16:30

場所:教育学部156番教室

次第

- 15:30～15:50 教育学研究科 市川伸一研究科長からの講話  
「小・中学生への学習支援の心得」
- 15:50～16:10 教育学部附属中等教育学校  
細矢和博教諭からのアドバイス  
「小・中学生への学習支援のアドバイス」
- 16:10～16:30 ボランティア支援班 市村桃子班員からの説明  
「日程説明、連絡・注意事項等」



講話を行う市川教育学研究科長



細矢教諭からアドバイスを受ける学生の皆さん

#### (4) 参加者のしおり(抜粋)

「学びの部屋」  
学習支援ボランティア  
参加者のしおり



平成23年12月21日  
東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

#### 目次

|                      |         |
|----------------------|---------|
| 1、学習支援ボランティアの参加にあたって | … 1     |
| 2、活動期間               | … 2     |
| 3、活動日程・日程表           | … 2~5   |
| 4、参加者名簿(班別)          | … 6     |
| 5、注意事項等              | … 7~12  |
| ・活動するにあたっての心構え       |         |
| ・地震発生時の注意事項          |         |
| ・急病等発生時の注意事項         |         |
| ・遠野東大センターの利用について     |         |
| 6、事前準備と持ち物           | … 13    |
| 1 ボランティア活動について       |         |
| 2 ボランティア保険への加入について   |         |
| 3 大学への届出             |         |
| 4 持ち物                |         |
| 5 食事・入浴について          |         |
| 7、こんな時はどうする(Q&A)     | … 14~15 |

#### 参考資料

関係機関・施設  
遠野市周辺MAP  
陸前高田市MAP  
学びの部屋とは



#### 1. 学習支援ボランティアの参加にあたって

##### ○学習支援ボランティアの活動について

「学びの部屋」は、「陸前高田市教育委員会」及び「一般社団法人子どもエンパワメントいわて」が主催する事業で、東日本大震災によって、学習環境を失った子どもたちが安心して過ごせる空間を提供する場所です。今回の学習支援ボランティア活動は、その学びの部屋において、自習を基本とする小・中学生の学習サポートをするというもので、市職員の学習支援員並びに岩手県立大学、立教大学及びNPO法人いわてGINGA-NET等の学生ボランティアと共に活動していただきます。

活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。また、活動内容については、陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どもエンパワメントいわてに委ねていますので、その指示に従ってください。

##### ○活動にあたっての活動概要・注意事項等について

##### (1日目):東京駅から遠野市へ

※宿泊場所:遠野東大センター

・参加者が全員いるか確認してください。団体行動するようこころがけましょう。

・遠野駅に着いたら、救援・復興支援室遠野分室(遠野市役所内)へ向かってください。

##### (2日目):陸前高田市「学びの部屋」にてボランティア活動

・遠野東大センターから学びの部屋の間は送迎用のバスを用意しています。A班は7時30分、B班は7時に出発予定ですので、集合時間前には必ず出発する準備をしてください。

・活動内容については事前にご連絡いたします。

・活動場所に持っていくもの

□救急バッグ □筆記用具 □昼食 □飲み物

□お風呂セット □貴重品等 □デジカメ □腕章

・活動中は東京大学の腕章(水色)をつけてください。

・送迎用バスの運転手に帰りの集合時間、集合場所を必ず確認してください。

・救急バッグは、必ず活動場所に持参し、帰るときは持ち帰るようにしてください。

##### (3日目):被災地現地調査

・送迎用バスの運転手には、釜石~大槌町方面を走行するようお願いしておりますが、時間内に他に行きたいところなどがあれば、みなさんと協議の上、運転手に相談してください。

##### (4日目):陸前高田市「学びの部屋」にてボランティア活動

~一ノ関駅から東京駅へ

・帰りは遠野東大センターには戻りませんので、朝の出発前に清掃、ゴミの分別の再確認をしてください。

・帰りは、JR一ノ関駅から東京へ帰るため、帰り支度をしてバスに乗り込みましょう。

・救急バッグは、帰りバスの中に置いておいてください。

#### 2. 活動期間

○ A班 平成23年12月26日(月)~12月29日(木)  
<3泊4日>

○ B班 平成24年1月6日(金)~1月9日(月)<3泊4日>

#### 3. 活動日程

##### 【1日目】東京から遠野市へ

11:30 集合(JR東京駅東北新幹線ホーム)

11:40 東京駅 出発(JR新幹線やまびこ59号)

※1 新幹線内で昼食

(各自用意。以下、食事は全て各自で用意ください。※2)

14:40 新花巻 到着(乗換)

14:47 新花巻 出発(JR釜石線・釜石行)

15:43 遠野駅着 遠野分室(遠野市役所内)へ

:徒歩10分(別紙遠野市周辺MAP参照)

※遠野分室に職員がおりますので、宿泊場所である遠野東大センターの施設や注意事項をよく聞いてください。

16:00 宿泊場所(遠野東大センター)着

適宜、ミーティング等

夕食(各自用意)

※翌日の朝食及び昼食を各自用意しましょう。(センターの近くに三丸屋というスーパーがありますのでご利用ください。)

※入浴は、センター内の浴室を交代で使用してください。

22:00 就寝

## 【2日目】陸前高田市「学びの部屋」にてボランティア活動

6:30(B班は6:00)起床・朝食・片付け(朝食:各自用意。)

7:30(B班は7:00)送迎用バスにより遠野東大センターを出発(活動に持っていくもの)

□救急バッグ □デジカメ □筆記用具 □昼食  
□飲み物 □お風呂セット □貴重品等 □腕章

8:45(B班は8:15) 陸前高田市「学びの部屋」到着

※バスは一度戻りますので、必ず運転手と帰りの時間・集合場所を確認してください。

9:00～15:00(B班は8:30～12:00)

学習支援活動に従事(昼食:各自用意)

16:15 入浴施設(たかむろ水光園)にて入浴(~17:00)

※帰りに大型スーパー(マーケットプレイスアクティ)に寄ることも可能です。

※翌日の集合時間をバスの運転手と相互に確認してください。

なお、翌日の行き先については運転手と相談してください。

※翌日の朝食及び昼食を各自用意しましょう。

(センターに帰着後三丸屋を利用することも可能です。)

17:30 遠野東大センターへ帰着

夕食

適宜、ミーティング等

22:00 就寝

## 【3日目】被災地現地調査・見学

6:30 起床・朝食・片付け

※9時に出発しますので、掃除や片付け等を行ってください。

9:00～15:00 バスにて被災地現地調査・見学(昼食:各自用意)(釜石・大槌町など)

16:00 入浴施設(たかむろ水光園)にて入浴(~17:00)

※帰りに大型スーパー(マーケットプレイスアクティ)に寄ることも可能です。

※翌日集合時間をバスの運転手と相互に確認してください。

※翌日の朝食及び昼食を各自用意しましょう。

(センターに帰着後三丸屋を利用することも可能です。)

17:00 遠野東大センターへ帰着

夕食

適宜、ミーティング等

22:00 就寝

## 【4日目】陸前高田市「学びの部屋」にてボランティア活動 ~ 一ノ関から東京へ

6:30 起床・朝食・片付け/帰り支度をする

※片付け等を行ってください。

7:30 送迎バスにより遠野東大センターを出発(帰り荷物の積込)

(活動に持っていくもの)

□救急バッグ □デジカメ □筆記用具 □昼食  
□飲み物 □お風呂セット □貴重品等 □腕章

8:45 陸前高田市「学びの部屋」到着

9:00～15:00 学習支援活動に従事(昼食:各自用意)

16:30 送迎バスによりJR一ノ関駅へ到着

※帰りの新幹線に乗る前に遠野分室(12/28は080-2373-1882、1/9は080-1012-9827)に活動終了の連絡をお願いします。

17:06 一ノ関駅 出発(JR新幹線はやて110号)

19:24 東京駅 到着

※東京駅に到着したらボランティア支援班事務局(080-2373-1881)にすべての行程終了の連絡をお願いします。

解散

※1 往復のJRの乗車券・特急券及び現地でのボランティア活動にかかる移動手段は大学で手配します。(往路:東京駅~遠野駅復路:一ノ関駅~東京駅)

※2 今回のボランティア活動に従事した後、後日活動報告書を提出後、日当(1日当たり2,300円程度)が各個人の銀行口座に振り込まれますので、食事代などに充当してください。

※3 災害ボランティア保険は必ず出発前に各自で加入してください。(P11参照)

## 5. 注意事項等

### 活動するにあたっての心構え

(1) ボランティア活動は自己責任・自己完結が原則です。事前に自分自身でも十分な情報収集・確認を行い、活動場所での飲み物、食べ物・常備薬・適切な服装・保険等、必要な備えをして被災地に入りましょう。

(2) 復旧や復興の主役は被災された方です。

ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。

(3) 被災された方と話をする際は、相手と同じ目の高さに自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう。

(4) 仲間内の話での笑い声が、被災された方の誤解を招くこともあります。言動などへの気配りを忘れないようにしましょう。

(5) 写真やビデオ撮影をする場合は、被災された方や被災地の気持ちを配慮して行うようにし、被災された方が特定できる写真は、その方の了解を得てから撮影しましょう。

(6) 団体行動が原則となります。仲間とよく話し合い、一人で活動を抱え込まないようにしましょう。また、単独での行動は避けましょう。

(7) 活動がない場合も少なからずありますが、むりやり行動すると被災地が混乱します。「待つのもボランティア活動」だと考えましょう。

(8) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。また、必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。

(9) ボランティア活動は、やってあげるものではありません。自分のやりたいことをやるのではなく、できることをやらせてもらうと心得ましょう。

### [安全面]

(10) 活動するためには災害保険の加入が必須です。お住まいの地域の社会福祉協議会で加入できますので、事前に各自で「**災害ボランティア保険(天災Bプラン)**」(東京都の場合は**1000円**)に加入してください。

(11) 自分の体調を見極めよう。調子が悪い時は「活動しない」も選択肢です。おかしいと感じたら、活動をやめてリーダーに伝えましょう。

(12) 寒い時期なので、防寒など服装等に気をつけましょう。気温が-10℃以下になることもある本格的な冬の気候です。(遠野市平均気温 12月:-1.4℃ 1月:-1.6℃)帽子や手袋、マフラー、耳あてなど着用しましょう。積雪も30cmくらい積もることもあるそうです。

(13) 活動が終わったら、熱い気持ちをクールダウン。報告ではヒヤリ・ハッとした経験なども伝えましょう。しっかり寝て翌日も元気に起きましょう。

## 地震発生時の注意事項

(バス乗車時に地震が発生したら)

・走行中に地震が発生した場合、運転手の判断により車を路肩に停車させますが、運転手の指示に従って車内で待機してください。  
地震が収まり、運転手の指示により車外へ待機する場合には、バスの前方の路肩に待機してください。特に、高速道路では、むやみに走行車線に出ると危険ですので、決して走行車線には出ないでください。

(ボランティア活動中に地震が発生したら)

・活動場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。  
・屋外で活動中に地震が発生したら、頭上の落下物の危険のない場所へ退避してください。揺れが収まりましたら、地元の防災無線による指示等に従ってください。  
・沿岸地域で活動中の場合には、揺れが収まりましたら地元指定の高台の避難所へ退避してください。避難経路や避難場所が不明の場合には、最寄りの裏山やコンクリート製の高層建物(できれば4階以上が望ましい)に避難してください。  
・体育館等の避難所で活動中に地震が発生したら、天井構造物や照明器具等の落下に注意するとともに、避難所責任者の指示に従ってください。  
・余震が想定される場合には、揺れが収まってから屋外に退避してください。  
・自身の安全確保と同時に、子供や高齢の避難者の誘導等にも心がけてください。

(遠野東大センターで地震が発生したら)

・遠野東大センターに到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。  
・台所でコンロを使用中の場合には、直ちに火を止めてください。その際、やけどをすることのないよう、注意してください。  
・万一、火災が発生してしまったら、直ちに備え付けの消火器を使用して初期消火に努めてください。同時に、消防署(119番)へ緊急連絡を行ってください。  
・余震が想定されるようでしたら、揺れが収まった後、外へ退避してください。  
・遠野市の防災無線による指示がありましたら、落ち着いてその指示に従ってください。

東北地方では、今も余震が度々発生していますので、地震や津波に十分注意して行動してください。

## 急病等発生時の注意事項

・(出発前に)急病等の不測の事態が生じたときは、速やかにボランティア支援班事務局までご連絡ください。  
《連絡先》 東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局

(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
直通電話 03-5841-2529(平日9時~17時)  
携帯電話 080-2373-1881

・(活動中に)怪我や急病等の不測の事態が生じたときは、すみやかに遠野分室までご連絡ください。

《連絡先》 東京大学救援・復興支援室遠野分室  
E-mail tohno-kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
電話 080-1012-9827(12/28・29以外) / 080-2373-1882  
(12/28・29のみ)

・意識を失った者を発見した場合には、むやみに移動させず、安静な体勢にしてください。

少人数での行動時や保健師等の資格保持者が周りにいない場合には、応急措置を行うとともに、周りの人に声をかけ、直ちに救急通報(119番)を行ってください。

## 遠野東大センターの利用について

### 1. 利用できるセンターの施設

- (1) 研究個室3部屋(各7.49㎡)
- (2) 研究オフィス3ブロック(17.34㎡、13.78㎡、13.95㎡)
- (3) その他(給湯室・冷蔵庫・洗面所・洗濯機・トイレ・ユニットバス等)

### 2. 利用上の注意事項

- (1) 遠野東大センターの出入口は「2階」を使用し、ナンバー錠で管理しております。  
※ 遠野へ到着したら救援・復興支援室遠野分室へ立ち寄り解錠番号を問い合わせてください。  
問合せ先:遠野分室 080-1012-9827
- (2) 利用した設備、備品等は利用後、速やかに原状に戻してください。
- (3) 他の利用者に迷惑を及ぼすような行為はしないでください。
- (4) 遠野分室の職員から指示があった場合には、必ずその指示に従ってください。

### 3. 無線LAN使用について

- (1) 学内LANが使用可能です。
- (2) 2階電話機横の「無線LAN使用簿」に記入の上、「無線APドキュメント」を参照し使用して下さい。
- (3) パソコンは使用可能ですが、使用する場合は使用方法などを守ってご利用ください。

### 4. 複合機(プリンター)の使用について

- (1) コピーは認証機能なく使用可能です。
- (2) プリンターとして使用する場合(WIN/Mac)、プリンタドライバのインストールが必要となりますので、インストールマニュアルを参照し使用して下さい。

### 5. 掃除について

東京大学の共同利用の施設ですので、必ず毎日掃除を行いきれいに利用してください。ゴミは、センター内に設置されたゴミ箱に捨ててください。遠野市のごみの分別は東京と異なりますので、指示どおりに分別して捨ててください。

### 6. センターに宿泊する場合の注意事項

センターは一般住宅地にありますので、騒音を発しないようお願いいたします。また、飲酒について、未成年者は絶対に飲酒しないこと、成人であっても飲みすぎないようにしてください。

### 7. その他

その他不明な点等ありましたら、遠野分室まで問合せ願います。

東京大学救援・復興支援室 遠野分室:0198-62-2111(内線115)、080-1012-9827

## 冬季利用時の注意事項

### 1. 水道管凍結防止

朝晩の気温が「零下」となるため、水道管凍結防止策で常時水を地下に下げています。トイレ等「水」を使用される際には、「給水」が必要です。

給水スイッチは、2階を使用される場合は2階「冷蔵庫前」、1階は「トイレ前」に操作パネルがありますので、電源を入れてスイッチを押すと1分程度で給水が完了します。(点滅→点灯:完了)給水と同様にスイッチを押すことで水抜きしますので、「退出」及び「就寝」の際には忘れずに水抜きをお願いします。(給水同様1分程度。点滅→点灯:完了)

### 2. 流し給湯・風呂・シャワー使用

給湯スイッチは、「2階冷蔵庫前」にあります。ガス給湯を使用しており、センサーで使用量を監視しています。常時ガスを使用していないため、急に使用量が増えると止まる仕組みとなっており、シャワー等長時間使用する場合に給湯が止まる可能性があります。

復旧方法は、「1階階段下」にガス栓があり地震時等と同様にスイッチを「長押し」することで復旧します。(5分程度待つてから給湯して下さい。)

### 3. 石油ファンヒーター

共用研究オフィスに石油ファンヒーターを置いてありますので、寒い時にはエアコンと併用してお使い下さい。灯油は満タンにありますが、給油が必要の際には「1階倉庫」に灯油ボックスがありますので、適時給油願います。

### 4. 寝具について

寝具(羽毛掛布団・毛布・羊毛敷布団・枕)を用意しております。朝晩は特に冷え込みますので、温かく睡眠できるよう各自準備して下さい。(1階事務室左から、敷布団・掛布団・毛布・枕・リネンと並んでいます。)

なお、使用後は1階事務室まで返却し、使用後のリネン(枕カバー・シーツ)は「2階洗濯機の中」に入れて下さい。(クリーニングします)

※退出時には、消灯・水抜き・施錠の再確認をお願いします。

## 6. 事前準備と持ち物

### 1 ボランティア活動について

1) 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになりますが、基本的にはボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結を原則**とします。

2) 活動内容は、連携する「陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわて」に委ねることになりますので、担当の方及び遠野分室職員からの連絡事項や指示に従ってください。また、勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。

### 2 ボランティア保険への加入について

ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「**災害ボランティア保険(天災Bプラン)**」に加入するようにしてください。

### 3 大学への届出

参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

なお、岩手県の対象地域(三陸沿岸周辺地域及び遠野市)にてボランティア活動を行う際に救援・復興支援室に提出をお願いしている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

### 4 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴セット、タオル、ボランティア保険加入がわかるもの(加入カード又は加入証等)、現金〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

### 5 食事・入浴について

原則として、食事・入浴の費用は各自で用意してください。活動日の昼食は周辺のスーパーなどで事前に用意してください。(参考資料:関係機関・施設の連絡先、及び遠野市周辺MAP)遠野東大センター付近の三丸屋ではお弁当(500円)の注文が可能です(前日までに)。

お風呂については、遠野東大センターにシャワー設備が1つありますが、長時間使用すると給湯が止まる仕組みになっている等、多人数への対応が困難ですので、活動からの帰途にたかむろ水光園という入浴施設に寄る予定にしています(お風呂代520円)。活動場所への出発時に、必ず入浴の準備をしてバスに乗ってください。

## 7. こんな時はどうする(Q&A)

### [目次]

- ①急に参加できなくなった時は？
- ②急に帰京しなければならなくなった時は？
- ③活動場所に忘れ物をした時は？
- ④活動中に地震が発生した時は？
- ⑤活動中に負傷した時の補償は？
- ⑥パソコンを持参しても使用できますか？
- ⑦負傷して入院することになった場合はどうなりますか？
- ⑧期間終了後に引き続き遠野市に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？
- ⑨ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすれば良いですか？

#### Q-1 急に参加できなくなった時は？

A 遅くとも、出発日の前日(前日等が土・日曜日・休日の場合はその前の平日)の17時までにボランティア支援班事務局までご連絡ください。また、出発当日に参加できなくなった場合は、至急下記の携帯電話までご連絡ください。

(連絡先)東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局  
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

直通電話 03-5841-2529(平日9時~17時)

携帯電話 080-2373-1881

#### Q-2 急に帰京しなければならなくなった時は？

A 何らかの緊急の事情により、急に帰京しなければならなくなった場合には、遠野分室職員に連絡をしてからお帰りください。

#### Q-3 活動場所に忘れ物をした時は？

A まずは、忘れ物をしないよう、各自注意してください。忘れ物をしてしまった場合には、遠野分室職員に相談してください。ひとりで取りに行くようなことはしないでください。

#### Q-4 活動中に地震が発生した時は？

A 作業場所へ到着したら、まずは現地の避難経路及び避難場所を確認してください。

地震が発生したら、まずは家屋の倒壊、落下物等に注意し、身を守ってください。揺れが収まってから、高台等の避難場所へ速やかに移動してください。その際、決して単独行動はしないでください。

#### Q-5 活動中に負傷した時の補償は？

A 天災Bプランに加入している方で支給要件を満たす場合は、社会福祉協議会のボランティア活動保険の補償が受けられます。

|                  |              |
|------------------|--------------|
| (例) 死亡保険金        | 2,000万円      |
| 後遺障害保険金          | 2,000万円(限度額) |
| 入院保険金日額          | 11,000円      |
| 通院保険金日額          | 6,370円       |
| 賠償責任保険金(対人・対物共通) | 5億円(限度額)     |

#### Q-6 パソコンを持参しても使用できますか？

A 遠野東大センターでは無線LAN(学内LAN)が使用可能です。無線LAN対応のノートパソコン等を持参であれば、「無線LAN使用簿」に記入の上、「無線APドキュメント」を参照し使用してください。

#### Q-7 負傷して入院することになった場合はどうなりますか？

A ボランティア申込書に記載された緊急連絡先に連絡を取り、病院の付き添いや迎えをお願いする予定です。それ以外にもその方が不在の場合も想定して確実に連絡がとれる方のお名前と連絡を複数把握しておくようお願いします。

Q-8 期間終了後に引き続き遠野市に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？

A 本活動は、東京大学として活動をしておりますので、無理な計画を立てずに団体行動をお願いします。

Q-9 ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすれば良いですか？

A 参加者で協議して対応してください。対応困難な場合は、ボランティア支援班事務局または遠野分室へご相談ください。

## (5) 活動報告

### 「学びの部屋」学習支援ボランティアの活動報告

本学救援・復興支援室では、持続可能な形でのボランティア活動支援の一環として「被災地のニーズに対応した学生による学習支援活動への支援」を進めています。このたびその第一歩として、岩手県陸前高田市教育委員会等が主催する被災児童・生徒を対象とした学習支援事業「学びの部屋」に協力し、年末・年始の期間において学習支援ボランティア活動の支援を実施しました。

#### 【A班(年末グループ)】

年末グループのA班7名(学部学生5名、大学院学生2名)は、12月26日(月)～29日(木)の3泊4日の日程で、陸前高田市内の3箇所の小・中学校を利用して開催される「学びの部屋」において、冬休みの宿題や模擬試験問題等に取り組む中学生の学習サポート活動を行ってきました。



米崎小学校での活動

#### 【B班(年始グループ)】

年始グループのB班9名(学部学生5名、大学院学生4名)は、1月6日(金)～9日(月)の3泊4日の日程で、英語検定に向けての講座「英語の部屋」やA班同様の冬休みの宿題等に取り組む中学生の学習サポート活動を行ってきました。



## (6) ボランティア参加者の活動報告(抜粋)

### 【参加者の声(活動報告からの抜粋)】

○ シャイな性格の生徒が多く、早いタイミングでの自己紹介等によるコミュニケーションや机の置き方等が重要だ。(大学院学生2年)

○ 模擬試験においてはできない問題は似通っていた。考えて解いている生徒には教えられたが、早く終わらせようと答を必死に写している生徒には教える隙がない。また、ミーティングでは、考え過ぎはよくない。(学部学生4年)

○ 生徒同士の仲が良く、教えやすい素直な生徒たちという印象を受けた。活動が終わればサッと去ることしかできないため、何か特別にできることはないかと少しはがゆい思いがした。生徒たちは学習に来るといより皆と居られる場所を求めて来ている様子なので、学習支援以外の時間があれば良かった。(学部学生4年)

○ 生徒(中学生)には、同性の先生の方がお互いにコミュニケーションがとりやすいと思った。陸前高田市を訪れて、がれきは撤去されつつあるが、被災者や子どもたちが心に受けた深い傷は、ほとんど手つかずのままであることを肌で感じた。何ものにも変えがたい貴重な経験になった。(大学院学生2年)

○ 評価すべき点は、東大生の指導力は流石で指導方法は非常に優れていた。反省すべき点は、「生徒の自立した学習を目指す」という目的は達成できなかったことだが、その目的が本当に必要とされているかという疑問がわいた。生徒たちは単に勉強するために来ているのではなく、友達と一緒に勉強するために来ている印象の中で、外部から来たボランティアが学習の本質的な部分を教えるというのは、いささか乱暴ではないか。また、学習指導のみならば東大生でなくても構わないわけで、東大生にしかできないことをやるべきだったのではないか。学習指導の継続はもちろんのこと、ただ触れ合う・語り合う時間、ワークショップ、大学受験生のための学習指導など様々なオプションを用意していくと良い。(学部学生3年)

○ 子どもたちと過ごす時間がもっと欲しかった。時間が短いため、今後を見通した学習指導をするのは難しかった。(学部学生3年)

○ 継続的に指導でき信頼関係を構築することができれば、意味のない宿題の仕方について徐々に方向転換をはかることもできるが、一過性の指導ゆえに時間上の制約もあり、歯がゆい思いを抱えながらの学習補佐であった。

勉強法等をアドバイスをするといった点で経験豊富なメンバーなのだから、少し違う環境であれば、よりボランティアの能力が活かされたかもしれない。(大学院学生2年)

○ 普段接することの少ない東大生が教えに行くことで、生徒たちに刺激を与えることができたのではないか。東大生の知識を活かして体系立てて教えられると良いので、「東大生の講座」のようなイベントを企画するのも良い。(学部学生4年)

○ 「学びの部屋」に自発的に来ている生徒たちの学力が非常に高く驚いた。学習支援が必要なのはこの場に来ないような子どもたちであり、そのケアが重要だ。(学部学生2年)



○生徒は全体的にとても明るく、前向きに学習に取り組んでいる姿が印象に残った。我々の経験を語ることで、今学んでいることの意味を見出したり将来の可能性を検討してもらえれば、たいへん意義のあることである。また、我々にできることは限定的だが、常に被災地に目を向けており、できることはずっと続けるという態度をもって支援活動に臨むことが重要だ。大学が提供してきたプログラムは、ボランティアをするに当たってのハードルを大幅に下げ、意志を持った学生を後押ししてくれ、感謝している。(大学院学生2年)

○生徒たちはほとんどシャイだった。こちらからアプローチしないと、質問しないまま答をまる写ししたり、一人でじっと自習する生徒もいた。(学部学生3年)

○中3の生徒でも受験前とは思えないほどのんびりしていて、こちらが意気込みすぎて若干肩すかしだった気がする。学びの部屋に対する認識が、東大側と現地側とでやや異なっている。(学部学生4年)

○有意義な学びの時間を創出するために十全な指導を心がける必要がある、という気持ちで赴いたが、現地の雰囲気とのズレがあった。外部からの参加で短時間で去ることになる我々が、意気込んで子どもたちに指導することは適切でないように思われた。(大学院学生3年)

○塞ぎ込んだ様子の生徒は皆無で、極めて明るく前向きに振舞っている。学習に関して前向きかつ高い意欲を持っており、教えればその都度積極的に受容してくれる。

今回だけの一過性のもので終わらせず、今後も継続的に行っていく必要性を強く感じた。他のボランティアと差別化を図る意味でも、学習支援に特化した継続的な支援を行うことが大切だ。(大学院学生1年)

○自分の財産になるような経験を期待せず「施すボランティア」として行おうと考えていたが、活動を終えた今、そのような「施し」という考えは全く当てはまらない、得るものの大きい活動だった。(学部学生3年)

## 【2月3月学習支援ボランティア:陸前高田市「学びの部屋」】

### (1) 募集要項・募集ポスター

平成24年1月25日

学生の皆さんへ

救援・復興支援室ボランティア支援班

学習支援ボランティアの募集について(2月・3月)

本学は、社会的公共性を有する総合大学として、東日本大震災被災者の救援・復興支援に当たることは責務であるとの認識のもとに、「救援・復興支援室」を設置して様々な支援活動の取組みを進めています。

このたびそれらの一環として、「陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催する被災児童・生徒を対象とした学習支援事業「学びの部屋」に協力し、主に小・中学生の学習サポート活動等を行う、学生ボランティアを募集します。下記の内容をご覧ください、積極的な応募をお願いします。

#### 1 活動期間

- (A) 平成24年 2月18日(土)～2月19日(日) <1泊2日>
- (B) 平成24年 2月25日(土)～2月26日(日) <1泊2日>
- (C) 平成24年 3月 3日(土)～3月 4日(日) <1泊2日>
- (D) 平成24年 3月17日(土)～3月18日(日) <1泊2日>

#### 2 募集人員

各班10名程度。

#### 3 応募資格

本学の学生(保護者の承諾が必要)で、本学の支援活動の理念等に賛同する者。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ホームページを参照ください。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol\\_01\\_policy\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html)

#### 4 活動場所・内容

岩手県陸前高田市内3箇所の小・中学校の教室を利用し、自習を基本とする児童・生徒の学習をサポートする。

なお、具体的な活動内容は、「陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわて」に委ねていますので、原則としてその指示に従ってください。

※ 市職員の学習支援員(専任講師)並びに岩手県立大学等の学生ボランティアと共に、サポート活動をする。

#### 5 宿泊場所

東京大学救援・復興支援室遠野センター(遠野東大センター)

※ 寝具は、大学で用意しますので、参加者の負担はありません。

#### 6 活動日程

##### 第1日目

16:00 各自で遠野東大センター(宿泊場所)に集合  
伝達事項、夕食、入浴、ミーティング等

22:00 就寝

##### 第2日目

6:00 起床、朝食、清掃等

7:30 送迎用バスにより遠野東大センターを出発

9:00～15:00 活動(昼食持参)

17:30 送迎用バスによりJR一ノ関駅に到着・解散

#### 7 現地等への移動手段

##### 第1日目

東京～遠野市/各自、JRあるいは長距離バス等を利用(現地集合)

##### 第2日目

遠野市～陸前高田市/ 送迎用バス

陸前高田市～JR一ノ関駅/ 送迎用バス(一ノ関駅解散)

JR一ノ関駅～JR東京駅/ 各自、JR等を利用

※ 遠野市～陸前高田市～一ノ関の送迎用バスは、大学で用意しますので、参加者の負担はありません。

※ 東京～遠野、一ノ関～東京の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます。(詳細は本学ボランティア情報HPをご覧ください。)

[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol\\_02\\_shienkin\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html)

#### 8 生活環境

・宿泊 遠野東大センター(小部屋又は大部屋)。  
寝具は用意されています。

・入浴 宿泊場所にユニットバスがありますが、  
多人数に対応するには不便です。  
遠野市内に銭湯(有料)があります。

・食事 各自準備してください  
(遠野市内にスーパー、食堂、コンビニ等あり)。  
宿泊場所に給湯設備がありますが、料理はできません。

#### 9 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴セット、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの(加入カード、加入証等)、現金(食事・飲み物、入浴、交通費、他)

〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

※ 寝具、腕章、救急箱、トイレトペーパー・石鹸等の生活消耗品は、大学で用意しています。

#### 10 注意事項等

(1) 活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。

(2) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。

(3) 参加に際し、「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

なお、三陸沿岸周辺地域及び遠野市においてボランティア活動を行う際に提出することとなっている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項等は、本学ボランティア情報HPの「災害ボランティアQ&A」を参照ください。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol\\_04\\_QA\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html)

#### 11 応募方法等

別紙の「ボランティア活動申込書」に必要事項を記入の上、各日程締切【(A)2月8日(B)2月15日(C)2月29日(D)3月7日】までに下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて、E-mail又はFAXによりお送りください。参加の可否及び活動の詳細の説明については、追って申込書記載の連絡先あてに連絡します。なお、各日程の締切については満員になり次第募集を終了いたします。

#### 12 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail [volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529(内線22529)

(募集ポスター)

東京大学ボランティア支援班より： 給子県陸前高田市「学びの部屋」

# 学習支援ボランティア募集!!

現在予定している内容は次のとおりです。

- 活動日程
  - (A) 平成24年 2月16日(土)～2月19日(日) <1泊2日>
  - (B) 平成24年 2月25日(土)～2月26日(日) <1泊2日>
  - (C) 平成24年 3月2日(土)～3月4日(日) <1泊2日>
  - (D) 平成24年 3月17日(土)～3月19日(日) <1泊2日>
- 活動場所
  - 岩手県陸前高田市の学校の教室
- 活動内容
  - 小中学校児童・生徒の学習をサポート
- 募集人数 各日程 10名程度
- 宿泊場所 遠野東大センター
- 募集締切 (A)2月8日 (B)2月15日 (C)2月22日 (D)3月7日 当日の募集は、決まらぬ可能性があります。

※このボランティアに興味のある方は、下記URL[本学ボランティア情報HP]に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/edu/teicery/volunteer\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/edu/teicery/volunteer_j.html)

【問合せ先】  
東京大学教授・復興支援室  
ボランティア支援班  
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)  
E-mail: volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
FAX: 03-5841-2519  
TEL: 03-5841-2529 (内線22529)

(決定通知)

平成24年2月9日

応募者各位

教授・復興支援室ボランティア支援班

東日本大震災に係る学習支援ボランティア参加  
決定通知書

下記のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

記

参加の班： 第 班

期間： 平成24年 月 日～平成24年 月 日

※ 事前説明会を次のとおり開催しますので、ご出席ください。  
日時 2月13日(月) 16:30～18:00  
場所 学生支援センター3F ディスカッションルーム  
(本郷キャンパス 学生支援センター 本部学生支援課)

万一事前説明会に参加できない方は、ご連絡ください。当日以降、学生支援センター地下1階学生支援課において「参加者のしおり」等資料をお配りします。当該「参加者のしおり」には、参加に必要な事前準備及び注意事項等が記載されていますので、必ず事前にお読みください。

※ ボランティアへの参加は、基本的に自己責任・自己完結が原則です。

※ 問合せ・連絡先： 東京大学教授・復興支援室ボランティア支援班  
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)  
E-mail: volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
FAX: 03-5841-2519  
TEL: 03-5841-2529 (内線22529)

(2) 申込書・決定通知

(申込書)

| 【東京大学学習支援ボランティア用】ボランティア活動申込書 |  | 平成 年 月 日提出 |
|------------------------------|--|------------|
| 氏名 (ふりがな)                    | ( )  |            |
| 学生証番号                        |  |            |
| 学部名、研究科名                     |  |            |
| 科類、学科、専攻等                    |  |            |
| 連絡先                          | 電話番号   |            |
|                              | 携帯番号   |            |
|                              | メールアドレス(PC)  |            |
|                              | メールアドレス(携帯)  |            |
| 父母または<br>それ以外の<br>もの         | FAX  |            |
|                              | 氏名   | 本人との関係( )  |
|                              | 続柄   |            |
|                              | 電話番号   |            |
| 活動期間                         | 平成 年 月 日( )～平成 年 月 日( )  |            |
| 活動場所                         |  |            |
| 活動内容                         |  |            |
| 現地までの移動手段、経路                 | <input type="checkbox"/> 電車 <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> 飛行機 <input type="checkbox"/> 自動車 <input type="checkbox"/> バイク<br><input type="checkbox"/> その他( )<br>経路: |            |
| 備考                           | [提出先] 東京大学ボランティア支援班事務局(本部学生支援課内)<br>電話: 03-5841-2524(内線22524)<br>E-mail: volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp<br>住所: 〒113-8654<br>東京都文京区本郷7-3-1 学生支援センター内                                 |            |
| 平成 年 月 日                     |  |            |

### (3) 参加者のしおり

「学びの部屋」  
学習支援ボランティア  
参加者のしおり



平成24年2月13日  
東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

#### 目 次

|                      |           |
|----------------------|-----------|
| 1、学習支援ボランティアの参加にあたって | ・・・ 1     |
| 2、活動期間               | ・・・ 2     |
| 3、活動日程・日程表           | ・・・ 2～5   |
| 4、参加者名簿(班別)          | ・・・ 6     |
| 5、注意事項等              | ・・・ 7～12  |
| ・ 活動するにあたっての心構え      |           |
| ・ 地震発生時の注意事項         |           |
| ・ 急病等発生時の注意事項        |           |
| ・ 遠野東大センターの利用について    |           |
| 6、事前準備と持ち物           | ・・・ 13    |
| 1 ボランティア活動について       |           |
| 2 ボランティア保険への加入について   |           |
| 3 大学への届出             |           |
| 4 持ち物                |           |
| 5 食事・入浴について          |           |
| 7、こんな時はどうする(Q&A)     | ・・・ 14～15 |
| 参考資料                 |           |
| 関係機関・施設              |           |
| 遠野市周辺MAP             |           |
| 陸前高田市MAP             |           |
| 学びの部屋とは              |           |

#### 1、学習支援ボランティアの参加にあたって

○学習支援ボランティアの活動について

「学びの部屋」は、「陸前高田市教育委員会」及び「一般社団法人子どもエンパワメントいわて」が主催する事業で、東日本大震災によって、学習環境を失った子どもたちが安心して過ごせる空間を提供する場所です。今回の学習支援ボランティア活動は、その学びの部屋において、自習を基本とする小・中学生の学習サポートをするというもので、市職員の学習支援員並びに岩手県立大学等の学生ボランティアと共に活動していただきます。

活動にあたっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。また、活動内容については、陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どもエンパワメントいわてに委ねています。

○活動にあたっての活動概要・注意事項等について

(1日目):東京駅から遠野市へ ※宿泊場所:遠野東大センター  
・必ず集合時間(16:00)に遠野東大センターに集合してください。  
(現地にいる職員より、遠野東大センターの利用方法についての説明があります。)

(2日目):陸前高田市「学びの部屋」にてボランティア活動  
～ 一ノ関駅から東京駅へ

・遠野東大センターから学びの部屋の間は送迎用のバスを用意しています。

・活動内容については現地の学習支援員(陸前高田市職員)の指示に従ってください。

・活動場所に持っていくもの

□救急バッグ □腕章 □デジカメ  
□昼食 □飲み物

・活動中は東京大学の腕章(水色)をつけてください。(腕章の番号を確認します)

・送迎用バスの運転手に帰りの集合時間、集合場所を必ず確認してください。

・帰りは遠野東大センターには戻りませんので、朝の出発前に清掃、ゴミの分別の再確認をしてください。

・帰りは、JR一ノ関駅から東京へ帰るため、帰り支度をしてバスに乗り込みましょう。

・救急バッグ、腕章、デジカメは、帰りのバスの中に置いておいてください。

#### 2、活動期間

(A) 平成24年 2月18日(土)～2月19日(日) <1泊2日>

(B) 平成24年 2月25日(土)～2月26日(日) <1泊2日>

(C) 平成24年 3月 3日(土)～3月 4日(日) <1泊2日>

(D) 平成24年 3月17日(土)～3月18日(日) <1泊2日>

#### 3、活動日程

【1日目】東京から遠野市へ

16:00 宿泊場所(遠野東大センター)集合  
適宜、ミーティング等  
夕食(各自用意)

※本学職員から宿泊場所である遠野東大センターの利用についての説明をしますので、施設や注意事項をよく聞いてください。

※翌日の朝食及び昼食を各自用意しましょう。(センターの近くに三丸屋、遠野駅の近くにとびあというスーパーがあります。コンビニは徒歩20分ほど。)

※入浴は、センター内の浴室を交代で使用してください。

なお、遠野駅の付近に「亀の湯:390円」という銭湯もあります。

22:00 就寝

◎往路の例(新幹線の場合)※P4参照

11:40 東京駅 出発(JR新幹線やまびこ59号)  
新幹線内で昼食

14:40 新花巻 到着(乗換)

14:47 新花巻 出発(JR釜石線・釜石行)

15:43 遠野駅着 遠野東大センターへ

:徒歩15分程度(別紙遠野市周辺MAP参照)

運賃:片道13,840円(乗車券8,510円 特別料金5,330円)

【2日目】陸前高田市「学びの部屋」において学習支援活動  
～ 一ノ関から東京へ

- 6:30 起床・朝食・片付け・帰り支度をする  
※片付け等を行ってください。  
7:30 送迎用バスにより遠野東大センターを出発  
(帰り荷物の積込)

(活動に持っていくもの)

□救急バッグ□腕章□デジカメ □昼食 □飲み物

- 8:45 陸前高田市「学びの部屋」到着  
9:00～15:00 学習支援活動に従事(昼食:各自用意)  
17:30 送迎用バスによりJR一ノ関駅へ到着、解散

◎復路の例(新幹線の場合)※P4参照

- 18:06 一ノ関駅 出発(JR新幹線はやて112号)  
20:24 東京駅 到着

運賃:片道**12,470円**(乗車券7,140円 特別料金5,330円)

- ※1 現地(遠野東大センター～陸前高田市活動場所～一ノ関駅)のボランティア活動にかかる移手段(送迎用バス)は大学で手配します。  
※2 今回のボランティア活動に従事した後、学習支援ボランティア活動報告書を提出願います。  
※3 東京～遠野、一ノ関～東京の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます。(別紙参照)  
※4 災害ボランティア保険は必ず出発前に各自で加入してください。(P13参照)

## 5. 注意事項等

### 活動するにあたっての心構え

[全般]

- (1) ボランティア活動は自己責任・自己完結が原則です。事前に自分自身でも十分な情報収集・確認を行い、活動場所での飲み物、食べ物・常備薬・適切な服装・保険等、必要な備えをして被災地に入りましょう。
- (2) 復旧や復興の主役は被災された方です。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。
- (3) 被災された方と話をする際は、相手と同じ目の高さに自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう。
- (4) 仲間内の話での笑い声が、被災された方の誤解を招くこともあります。言動などへの気配りを忘れないようにしましょう。
- (5) 写真やビデオ撮影をする場合は、被災された方や被災地の気持ちを配慮して行うようにし、被災された方が特定できる写真は、その方の了解を得てから撮影しましょう。
- (6) 団体行動が原則となります。仲間とよく話し合い、一人で活動を抱え込まないようにしましょう。また、単独での行動は避けましょう。
- (7) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。また、必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。
- (8) ボランティア活動は、やってあげるのではありません。自分のやりたいことをやるのではなく、できることをやらせてもらうと心得ましょう。

[安全面]

(9) 活動するためには災害保険の加入が必須です。お住まいの地域の社会福祉協議会で加入できますので、事前に各自で「**災害ボランティア保険(天災Bプラン)**」(東京都の場合は**1000円**)に加入してください。

(10) 自分の体調を見極めよう。調子が悪い時は「活動しない」も選択肢です。おかしいなと感じたら、活動をやめてリーダーに伝えましょう。

(11) 寒い時期なので、防寒など服装等に気をつけましょう。気温が-10℃以下になることもある本格的な冬の気候です。(遠野市平均気温 12月:-1.4℃ 1月:-1.6℃ 2月:-1℃)帽子や手袋、マフラー、耳あてなど着用しましょう。積雪も30cmくらい積もることもあるそうです。

[学習支援ボランティア]

(12) 公の活動であるため、本学の学生として言動や行動に注意しましょう。

(13) 今後の本学の学習支援ボランティアに生かすため、活動後にボランティア活動報告書を提出してください。

(14) 学習をサポートすることと同時に、児童・生徒たちに友達と集まる場所を提供するという意味もあります。1日という短期間ではありますが、児童・生徒たちと一緒に過ごす時間を楽しみましょう。

## 地震発生時の注意事項

(バス乗車時に地震が発生したら)

・走行中に地震が発生した場合、運転手の判断により車を路肩に停車させますが、運転手の指示に従って車内で待機してください。

地震が収まり、運転手の指示により車外へ待機する場合には、バスの前方の路肩で待機してください。特に、高速道路では、むやみに走行車線に出ると危険ですので、決して走行車線には出ないでください。

(ボランティア活動中に地震が発生したら)

・活動場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。

・屋外で活動中に地震が発生したら、頭上の落下物の危険のない場所へ退避してください。

揺れが収まりましたら、地元の防災無線による指示等に従ってください。

・沿岸地域で活動中の場合には、揺れが収まりましたら地元指定の高台の避難所へ退避してください。避難経路や避難場所が不明の場合には、最寄りの裏山やコンクリート製の高層建物(できれば4階以上が望ましい)に避難してください。

・体育館等の避難所で活動中に地震が発生したら、天井構造物や照明器具等の落下に注意するとともに、避難所責任者の指示に従ってください。

・余震が想定される場合には、揺れが収まってから屋外に退避してください。

・自身の安全確保と同時に、子供や高齢の避難者の誘導等にも心がけてください。

(遠野東大センターで地震が発生したら)

- ・遠野東大センターに到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- ・台所でコンロを使用中の場合には、直ちに火を止めてください。その際、やけどをすることのないよう、注意してください。
- ・万一、火災が発生してしまったら、直ちに備え付けの消火器を使用して初期消火に努めてください。同時に、消防署(119番)へ緊急連絡を行ってください。
- ・余震が想定されるようでしたら、揺れが収まった後、外へ退避してください。
- ・遠野市の防災無線による指示がありましたら、落ち着いてその指示に従ってください。

東北地方では、今も余震が度々発生していますので、地震や津波に十分注意して行動してください。

#### 急病等発生時の注意事項

- ・(出発前に)急病等の不測の事態が生じたときは、速やかにボランティア支援班事務局までご連絡ください。  
《連絡先》 東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局  
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)  
E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
直通電話 03-5841-2529(平日9時~17時)  
携帯電話 080-2373-1881

- ・(活動中に)怪我や急病等の不測の事態が生じたときは、すみやかに遠野分室までご連絡ください。  
《連絡先》 東京大学救援・復興支援室遠野分室  
E-mail tohno-kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
電話 080-2373-1882(2/18-19、3/3-4、3/17-18)  
/080-1012-9827(2/25-26)

- ・意識を失った者を発見した場合には、むやみに移動させず、安静な体勢にしてください。少人数での行動時や保健師等の資格保持者が周りにいない場合には、応急措置を行うとともに、周りの人に声をかけ、直ちに救急通報(119番)を行ってください。

#### 遠野東大センターの利用について

##### 1. 利用できるセンターの施設

- (1) 研究個室3部屋(各7.49㎡)
- (2) 研究オフィス3ブロック(17.34㎡、13.78㎡、13.95㎡)
- (3) その他(給湯室・冷蔵庫・洗面所・洗濯機・トイレ・ユニットバス等)

##### 2. 利用上の注意事項

- (1) 遠野東大センターの出入口は「2階」を使用し、ナンバー錠で管理しております。  
※ 遠野へ到着したら救援・復興支援室遠野分室へ立ち寄り解錠番号を問い合わせてください。  
問合せ先: 遠野分室 080-1012-9827
- (2) 利用した設備、備品等は利用後、速やかに原状に戻してください。
- (3) 他の利用者に迷惑を及ぼすような行為はしないでください。
- (4) 遠野分室の職員から指示があった場合には、必ずその指示に従ってください。

##### 3. 無線LAN使用について

- (1) 学内LANが使用可能です。
- (2) 2階電話機横の「無線LAN使用簿」に記入の上、「無線APドキュメント」を参照し使用して下さい。
- (3) パソコンは使用可能ですが、使用する場合は使用方法などを守ってご利用ください。

##### 4. 複合機(プリンター)の使用について

- (1) コピーは認証機能なく使用可能です。
- (2) プリンターとして使用する場合(WIN.Mac)、プリンタドライバのインストールが必要となりますので、インストールマニュアルを参照し使用して下さい。

##### 5. 掃除について

東京大学の共同利用の施設ですので、必ず毎日掃除を行いきれいに利用してください。ゴミは、センター内に設置されたゴミ箱に捨ててください。遠野市のごみの分別は東京と異なりますので、指示どおりに分別して捨ててください。

##### 6. センターに宿泊する場合の注意事項

センターは一般住宅地にありますので、騒音を発しないようお願いいたします。また、飲酒について、未成年者は絶対に飲酒しないこと、成人であっても飲みすぎないようにしてください。

##### 7. その他

その他不明な点等ありましたら、遠野分室まで問合せ願います。  
東京大学救援・復興支援室 遠野分室: 0198-62-2111(内線115)、080-1012-9827

#### 冬季利用時の注意事項

##### 1. 水道管凍結防止

朝晩の気温が「零下」となるため、水道管凍結防止策で常時水を地下に下げています。トイレ等「水」を使用される際には、「給水」が必要です。

給水スイッチは、2階を使用される場合は2階「冷蔵庫前」、1階は「トイレ前」に操作パネルがありますので、電源を入れてスイッチを押すと1分程度で給水が完了します。(点滅→点灯:完了)給水と同様にスイッチを押すことで水抜きしますので、「退出」及び「就寝」の際には忘れずに水抜きをお願いします。(給水同様1分程度。点滅→点灯:完了)

##### 2. 流し給湯・風呂・シャワー使用

給湯スイッチは、「2階冷蔵庫前」にあります。  
ガス給湯を使用しており、センサーで使用量を監視しています。  
常時ガスを使用していないため、急に使用量が増えたと止まる仕組みとなっており、シャワー等長時間使用する場合に給湯が止まる可能性があります。

復旧方法は、「1階階段下」にガス栓があり地震時等と同様にスイッチを「長押し」することで復旧します。(5分程度待ってから給湯して下さい。)

##### 3. 石油ファンヒーター

共用研究オフィスに石油ファンヒーターを置いてありますので、寒い時にはエアコンと併用してお使い下さい。灯油は満タンにありますが、給油が必要の際には「1階倉庫」に灯油ボックスがありますので、適時給油願います。

#### 4. 寝具について

寝具(羽毛掛布団・毛布・羊毛敷布団・枕)を用意しております。朝晩は特に冷え込みますので、温かく睡眠できるよう各自準備してください。(1階事務室左から、敷布団・掛布団・毛布・枕・リネンと並んでいます。)

なお、使用後は1階事務室まで返却し、使用後のリネン(枕カバー・シーツ)は「2階洗濯機の中」に入れて下さい。(クリーニングします)

※退出時には、消灯・水抜き・施錠の再確認をお願いします。

#### 6. 事前準備と持ち物

##### 1 ボランティア活動について

1) 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになりますが、基本的にはボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結を原則**とします。

2) 活動内容は、連携する「陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どもエンパワメントいわて」に委ねることになりますので、担当の方及び遠野分室職員からの連絡事項や指示に従ってください。また、勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。

##### 2 ボランティア保険への加入について

ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「**災害ボランティア保険(天災Bプラン)**」に加入するようにしてください。

##### 3 大学への届出

参加に際し、学生は「**ボランティア活動届**」を所属部局の教務担当へ提出してください。なお、岩手県の対象地域(三陸沿岸周辺地域及び遠野市)にてボランティア活動を行う際に救援・復興支援室に提出をお願いしている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

##### 4 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴セット、タオル、ボランティア保険加入がわかるもの(加入カード又は加入証等)、現金  
〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

##### 5 食事・入浴について

原則として、食事・入浴の費用は各自で用意してください。

活動日の昼食は周辺のスーパーなどで事前に用意してください。(参考資料:関係機関・施設の連絡先、及び遠野市周辺MAP)遠野東大センター付近の三丸屋ではお弁当(500円)の注文が可能です(前日までに)。

お風呂については、遠野東大センターにシャワー設備が1つありますが、長時間使用すると給湯が止まる仕組みになっている等、多人数への対応が困難ですので、活動からの帰途にたかむろ水光園という入浴施設に寄る予定にしています(お風呂代520円)。活動場所への出発時に、必ず入浴の準備をしてバスに乗ってください。

#### 7. こんな時はどうする(Q&A)

[目次]

- ①急に参加できなくなった時は？
- ②急に帰京しなければならなくなった時は？
- ③活動場所に忘れ物をした時は？
- ④活動中に地震が発生した時は？
- ⑤活動中に負傷した時の補償は？
- ⑥パソコンを持参しても使用できますか？
- ⑦負傷して入院することになった場合はどうなりますか？
- ⑧期間終了後に引き続き遠野市に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？
- ⑨ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすれば良いですか？

Q-1 急に参加できなくなった時は？

A 遅くとも、出発日の前日(前日等が土・日曜日・休日の場合はその前の平日)の17時までにボランティア支援班事務局までご連絡ください。また、出発当日に参加できなくなった場合は、至急下記の携帯電話までご連絡ください。

(連絡先)東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

直通電話 03-5841-2529(平日9時~17時)

携帯電話 080-2373-1881

Q-2 急に帰京しなければならなくなった時は？

A 何らかの緊急の事情により、急に帰京しなければならなくなった場合には、遠野分室職員に連絡をしてからお帰りください。

Q-3 活動場所に忘れ物をした時は？

A まずは、忘れ物をしないよう、各自注意してください。忘れ物をしてしまった場合には、遠野分室職員に相談してください。ひとりで取りに行くようなことはしないでください。

Q-4 活動中に地震が発生した時は？

A 作業場所へ到着したら、まずは現地の避難経路及び避難場所を確認してください。

地震が発生したら、まずは家屋の倒壊、落下物等に注意し、身を守ってください。揺れが収まってから、高台等の避難場所へ速やかに移動してください。その際、決して単独行動はしないでください。

Q-5 活動中に負傷した時の補償は？

A 天災Bプランに加入している方で支給要件を満たす場合は、社会福祉協議会のボランティア活動保険の補償が受けられます。

|                  |              |
|------------------|--------------|
| (例) 死亡保険金        | 2,000万円      |
| 後遺障害保険金          | 2,000万円(限度額) |
| 入院保険金日額          | 11,000円      |
| 通院保険金日額          | 6,370円       |
| 賠償責任保険金(対人・対物共通) | 5億円(限度額)     |

Q-6 パソコンを持参しても使用できますか？

A 遠野東大センターでは無線LAN(学内LAN)が使用可能です。無線LAN対応のノートパソコン等を持参であれば、「無線LAN使用簿」に記入の上、「無線APドキュメント」を参照し使用してください。

Q-7 負傷して入院することになった場合はどうなりますか？

A ボランティア申込書に記載された緊急連絡先に連絡を取り、病院の付き添いや迎えをお願いする予定です。それ以外にもその方が不在の場合も想定して確実に連絡がとれる方のお名前と連絡を複数把握しておくようにお願いします。

Q-8 期間終了後に引き続き遠野市に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？

A 本活動は、東京大学として活動をしておりますので、無理な計画を立てずに団体行動をお願いします。

Q-9 ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすれば良いですか？

A 参加者で協議して対応してください。対応困難な場合は、ボランティア支援班事務局または遠野分室へご相談ください。

#### (4)活動報告

##### 岩手県陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティアの活動報告

救援・復興支援室では、年末年始に引き続き、「陸前高田市教育委員会」等が主催する被災生徒等を対象とする学習支援事業「学びの部屋」に協力し、陸前高田市の中学校生徒の学習を支援する学生ボランティアとして、平成24年2～3月の期間にA班10名(2月18日～19日)、B班9名(2月25日～26日)、C班8名(3月3日～4日)、D班8名(3月17日～18日)を派遣しました。

A班10名(学部学生4名、大学院学生6名)は、2月18日(土)～2月19日(日)の1泊2日の日程で、陸前高田市内の3箇所の小・中学校の教室を利用した「学びの部屋」において、個別学習や期末試験・高校入試の準備学習に取り組む中学生の学習サポート活動を行いました。



B班9名(学部学生5名、大学院学生4名)は、2月25日(土)～2月26日(日)の1泊2日の日程で、同様に中学生の学習サポート活動を行ってきました。



C班8名(学部学生2名、大学院学生6名)は、3月3日(土)～3月4日(日)の1泊2日の日程で、同様に中学生の学習サポート活動を行ってきました。





D班8名(学部学生4名、大学院学生4名)は、3月17日(土)～3月18日(日)の1泊2日の日程で、同様の中学生の学習サポート活動を行ってきました。  
なお、3月18日には、濱田総長が激励に教室を訪れました。



## (5) 参加者報告書(抜粋)

### 【参加者の声(活動報告からの抜粋)】

○最初はお互いどう接しているかわからなかったが、徐々に距離を縮めて行くことができ、積極的に質問をしてくれ、学校での様子、4月に行く修学旅行の話など勉強以外の話もたくさんしてくれた。(学部2年生)

○生徒の数に対して、ボランティアが多すぎる。ただしボランティアに行っても暇を持て余すから米崎小から東大が撤収するというのも印象の悪い話である。(大学院修士2年生)

○部屋を巡回し質問のある子や手のとまっている様子の子を中心に声をかけ、アドバイスをおこった。勉強への意欲は人それぞれではあったが、とにかく元気に話す生徒たちの様子が印象的だった。(大学院修士1年生)

○雑談を交えながらワークブックの問題を解いていた。ボランティア学生数が過剰で生徒数のバランスは悪かった。自習がメインの場合なので、どれほど立ち入って生徒たちを指導するのが良いかが難しい。一日のボランティアでできることは非常に限られていることを実感した。(大学院博士3年生)他、同意見多数。

○生徒を待っている間、活動に来ていた岩手県立大学の学生さん学習支援員の方に、震災直後の陸前高田の様子をうかがいとても貴重な機会となりました。(学部3年生)

○既存の報告では「シャイ」な学生が多いとのことであったが、男子生徒は活発そのものであり、女子生徒も全体としては支援ボランティアの大学生に積極的に接しようとする態度もみられた。(大学院修士2年生)

○岩手県立大生との連携が不可欠であったと思うが、期間の短さや事前調整機会等がなかったことにより、必ずしもコミュニケーションに成功していたとは思えない。今後はより滞在時間を長くする、WEB上で事前の情報交流を行う等によってこうしたギャップを埋めていく必要があると思われる。(大学院修士2年生)

○生徒たちが友達や大学生等との絆を求めて「学びの部屋」に通っているという印象を抱いた。(大学院修士2年生)

○期間が短いせいか、私自身の意識が低いせいかわからないが、無力感を感じた。こういうものは目に見えて成果の出るものではないのかもしれないが、こんな私でも何か貢献できるように今後も機会があればぜひボランティアに参加したいと強く感じた。(大学院修士2年生)

○やはり1日だけの活動のため、それぞれの生徒がどのような苦手や問題を抱えているのかが見えづらい。またそれまでの勉強の課程もわからないので、勉強法や学習スケジュールなどについてのアドバイスをすることもなかなか難しいと感じた。事前に簡単に学習状況を知ることができればもっと濃い指導が可能になると思う。(学部4年生)他、同意見多数。

○活動時間をもう少し長くできないだろうか。東大から夜行バスを出して、直接小中学校に向かうなどできれば、活動以外の時間が削れるのではないかと。子どもたちうち解け始めたころに終わってしまうのがもったいない。(学部4年生)

○自習部屋としての「学びの部屋」は、ある種の課外活動の場として有効に機能しており、「憩いの場」としての役割を担っていることは間違いない。今後も同様の試みを継続しつつより発展させていく必要があるだろう。(大学院博士3年生)他、同意見多数

○到着してから、就寝までかなり時間があつた。いろんな方とお話しするのは楽しかったが、何か考えておいてもよかったかもしれない。夕食は全員でジンギスカンを食べに行った。料理もおいしかったし、親睦を深める貴重な場になった。1日目の自由時間の間に知らない方が遠野東大センターに入ってこられる場面があつた。おそらく普段センターを利用されている方だと思うが、そのあたりのことを知らせておいていただけるとありがたかつた。(学部3年生)

○学習支援の活動自体は少ししかできませんでしたが、多くのことを得られた二日間でした。またこれからも継続して被災地復興のため、ボランティア活動を続けて行きたいと感じました。(学部3年生)

○中学生の人数に対して指導する側の人数が多すぎたのではないかと思います。(学部2年生)

○岩手県立大のスタッフの方々と協力して生徒に時間を決めて集中して解いてもらい答え合わせを一緒に行う方法をとったところ、多くの生徒から「こんなに勉強した日はない」と感謝の言葉をもらった。(大学院博士3年生)

○私自身中学生に対する指導経験がなかったためには、1日という短期間ではなく長期的な学習支援が必要であると感じた。機会があれば長期間の活動にも参加したいと思う。(学部2年生)

○この活動は続けることに意味がある。もうする震災から1年たつが現地の子供たちの「心の傷」は未だ癒えていない。東京から若い人が行って子どもたちを励ます活動を今後も続けて行きたい。(大学院修士2年生)

○今後の活動はむしろ東京からゲストとして来たということ逆手に取り、従来の活動に加え何かレクチャーをやってみたらどうだろうか。事前ミーティングを1、2回行い、大体の方向性を決め、準備を前日早くに来て行うという形にすれば初日の手持ち無沙汰も解消するのではないかと。(大学院修士2年生)

○一度に何人ものボランティアから次々と話しかけられるのは生徒によってはストレスを感じる可能性があることに留意。生徒とのファーストコンタクトは到着後すぐに済ませてしまい、存在を最初に認識してもらおう方がよいかと思います。(大学院修士1年生)

## 【福島県学習支援ボランティア:大熊町教育委員会】

### (1) 募集要項・募集ポスター

平成24年2月16日

学生の皆さんへ

救援・復興支援室ボランティア支援班

#### 福島県大熊町の避難生徒への 学習支援ボランティアの募集について

本学は、社会的公共性を有する総合大学として、東日本大震災被災者の救援・復興支援に当たることは責務であるとの認識のもとに、様々な支援活動の取組みを進めています。

このたびそれらの一環として、福島県大熊町教育委員会からの要請による「大熊町から会津若松市に避難している中学生を対象とした学習支援」の活動等を行う、学生ボランティアを募集します。下記の内容をご覧ください、積極的な応募をお願いします。

#### 1 活動期間

平成24年3月23日(金)～3月30日(金) <7泊8日>

※ 前半(3月23～27日<4泊5日>)又は後半(3月26～30日<4泊5日>)だけの参加も可能としますが、全期間を通して参加できる方を優先します。

#### 2 募集人員

20名程度。

#### 3 応募資格

本学の学生(保護者の承諾が必要)で、本学の支援活動の理念等に賛同する者。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ホームページを参照ください。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol\\_01\\_policy\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html)

#### 4 活動場所

大熊中学校(福島県会津若松市内)の教室を利用

#### 5 活動内容

中学1・2年生を対象とした英語と数学の教室(学年別)、中学1～3年生を対象とした自習形式での教室での学習支援を行う。また、教室終了後に生徒たちとの交流等を予定している。

なお、具体的な内容は、大熊町教育委員会等と協議の上、追ってお知らせします。

#### 6 宿泊場所

福島県会津自然の家(会津坂下町)

#### 7 活動日程

3月23日(金)(移動日)

12:00 東京駅を出発(各自)

15:00 会津若松駅に集合

16:00 会津自然の家に到着

(適宜ミーティング等/自由時間)

22:00 就寝

3月24日(土)～3月29日(木)(活動日)

6:00 起床、朝食等

8:20 送迎用バスにより会津自然の家を出発

9:00～15:00 学習支援活動(昼食持参/生徒と一緒に)

16:00 送迎用バスにより宿泊場所に到着

(適宜ミーティング等/自由時間)

22:00 就寝

3月30日(金)(活動及び移動日)

6:00 起床、朝食等

8:20 送迎用バスにより会津自然の家を出発

9:00～15:00 学習支援活動(昼食持参/生徒と一緒に)

16:00 会津若松駅を出発

19:00 東京駅に到着(解散)

#### 8 現地等への移動手段

東京駅～会津若松駅の移動/各自JR等利用(活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより大学が補助)

会津若松駅～会津自然の家～大熊中学校の移動/会津自然の家所有の送迎車(無料)

#### 9 生活環境

宿泊、入浴環境は、会津自然の家の施設利用となります。(施設使用料、クリーニング代は大学負担。食事代及び活動場所での昼食は各自負担となります。)

#### 10 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴セット、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの(加入カード、加入証等)、現金(食事・飲み物、交通費、他)

〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

※ 腕章は、大学で用意しています。

#### 11 注意事項等

(1) 活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。

(2) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。

(3) 参加に際し、「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項等は、本学ボランティア情報HPの「災害ボランティアQ&A」を参照ください。  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol\\_04\\_QA\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html)

#### 12 応募方法等

別紙の「ボランティア活動申込書」に必要事項を記入の上、締切日【3月14日(水)】までに下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて、E-mail又はFAXによりお送りください。

参加の可否については、追って申込書記載の連絡先あてに連絡します。なお、満員になり次第募集を終了いたします。

#### 13 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail [volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529(内線22529)

(募集ポスター)

東京大学ボランティア支援班より お知らせ

## 学習支援ボランティア募集の福島県

現在予定している内容は次のとおりです。

- 活動日程：平成24年 3月23日(金)～3月30日(金) <7泊8日>  
前半(3月23～27日<4泊5日>)だけ又は  
後半(3月26～30日<4泊5日>)だけの参加も可能  
となりますが、全期間を通して参加できる方を募集。
- 活動場所：大船中学校(福島県会津若松市内)の教室
- 活動内容：避難生活をしている中学生の学習支援
- 募集人数：20名程度
- 宿泊場所：会津自然の家
- 募集締切：3月14日(水) ※満員になり次第締めの切ります。

※大学による支援内容は、交通費(ボランティア活動支援会による便払い(2万円上限)、宿泊場所の確保、宿泊場所～活動場所の移動手段の確保)です。

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html)

【問合せ先】  
東京大学教授・復興支援室 ボランティア支援班  
(学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)  
E-mail: volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
FAX: 03-5841-2519  
TEL: 03-5841-2529 (内線22529)

(決定通知)

平成24年3月9日

応募者 各位

東京大学教授・復興支援室ボランティア支援班

「福島県大熊町の避難生徒への学習支援ボランティア」参加  
決定 通知 書

下記のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

記

期間：平成24年3月23日～平成24年3月30日

※ 事前説明会を次のとおり開催しますので、ご出席ください。  
日時 3月19日(月) 13:30～15:00  
場所 学生支援センター3F ディスカッションルーム  
(本郷キャンパス 学生支援センター 本部学生支援課)  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_00\\_19\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_00_19_j.html)  
万一事前説明会に参加できない方は、ご連絡ください。当日以降、学生支援センター地下1階学生支援課において「参加者のしおり」等資料をお配りします。当該「参加者のしおり」には、参加に必要な事前準備及び注意事項等が記載されていますので、必ず事前にお読みください。

※ ボランティアへの参加は、基本的に自己責任・自己完結が原則です。

※ 問合せ・連絡先： 東京大学教授・復興支援室ボランティア支援班  
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)  
E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
FAX 03-5841-2519  
TEL 03-5841-2524・2529  
(内線22524・22529)

(2) 申込書・決定通知

| 【東京大学学習支援ボランティア用】ボランティア活動申込書       |   |    |     |
|------------------------------------|---|----|-----|
| 平成 年 月 日提出                         |   |    |     |
| 氏名 (ふりがな)                          | ( )   | 性別 | 男・女 |
| 学生証番号                              |   |    |     |
| 学部名、研究科名                           |   |    |     |
| 科類、学科、専攻、学年                        |   |    |     |
| 希望活動日程<br>(全期間参加できる方を優先します。)       | (全期間) 平成24年3月23日(金)～平成24年3月30日(金)   |    |     |
|                                    | (前半) 平成24年3月23日(金)～平成24年3月27日(火)  |    |     |
|                                    | (後半) 平成24年3月26日(月)～平成24年3月30日(金)  |    |     |
| 連絡先                                | 電話番号  |    |     |
|                                    | 携帯番号  |    |     |
|                                    | メールアドレス(PC)   |    |     |
|                                    | メールアドレス(携帯)   |    |     |
| 緊急連絡先<br>(保護者等)                    | FAX   |    |     |
|                                    | 氏名  |    |     |
|                                    | 続柄  |    |     |
| ボランティア経験の有無<br>(有る場合は内容を記載してください。) | 有   |    |     |
|                                    | 無   |    |     |
| 備考                                 |   |    |     |
| 受付日                                |   |    |     |
| 平成 年 月 日                           | [提出先]<br>東京大学ボランティア対処班事務局(本部学生支援課内)<br>電話: 03-5841-2524(内線22524)<br>E-mail: volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp<br>住所: 〒113-8654<br>東京都文京区本郷7-3-1 学生支援センター内 |    |     |

### (3) 参加者のしおり(抜粋)



#### 目次

|                       |           |
|-----------------------|-----------|
| 1. 学習支援ボランティアの参加に当たって | ・・・ 1     |
| 2. 活動期間               | ・・・ 2     |
| 3. 活動日程・日程表           | ・・・ 2～3   |
| 4. 参加者名簿              | ・・・ 5     |
| 5. 注意事項等              | ・・・ 6～9   |
| ・ 活動するに当たっての心構え       |           |
| ・ 地震発生時の注意事項          |           |
| ・ 急病等発生時の注意事項         |           |
| 6. 事前準備と持ち物           | ・・・ 10    |
| 1 ボランティア活動について        |           |
| 2 ボランティア保険への加入について    |           |
| 3 大学への届出              |           |
| 4 持ち物                 |           |
| 5 食事・入浴について           |           |
| 7. こんな時はどうする(Q&A)     | ・・・ 11～12 |

#### 参考資料

##### 関係機関・施設

大熊中学校(大熊町役場会津若松出張所)周辺MAP  
福島県会津自然の家～大熊中学校のMAP  
福島県会津自然の家利用の手引き

#### 1. 学習支援ボランティアの参加にあたって

##### ○学習支援ボランティアの活動について

「福島県大熊町の避難生徒への学習支援」は、大熊町教育委員会からの要請により、同町から会津若松市に避難している大熊中学校の生徒(仮設住宅、借上げ住宅、旅館、ホテル等で避難生活中)を対象として、英語・数学の学年別教室や自習形式での教室における学習サポートを行うものです。

プリント学習が主となりますが、教室の分け方やタイムスケジュール、学習サポートの進め方や分担等はすべて任せられる予定ですので、リーダーを中心に話し合ってください。

なお、初日の開講時には自己紹介や学習方法等の話題提供により生徒との親睦を図っていただくとともに、1日1時間程度のレクリエーションやフリータイムを組み込んでいただき、それらの企画・実施をお願いします。

活動場所の大熊中学校は、会津若松市内の大熊町役場会津若松出張所の2階に設置されており、宿泊場所の会津自然の家から、無料の送迎バスにより毎日通っていただくことになります。

また、期間中の学習支援活動終了後に、宿泊所の会津自然の家において、同施設近隣の中学生・高校生との交流会(2時間程度)を行って欲しい旨の要請がありましたので、是非参加をお願いします。

#### ○活動の概要

3月23日(金)東京駅から会津若松市へ

★集合時間: 15:00(厳守)

★集合場所: 会津若松駅(大熊中学校で紹介、打合せ～会津自然の家)

★宿泊場所: 福島県会津自然の家

3月24日(土)～29日(木)(28日は休校)

大熊中学校において学習支援活動

★活動内容(予定)

1) 自学自習の質問応答形式によるサポート

2) プリント学習形式によるサポート

(1時間ごとに復習テスト(プリント)を実施⇒自己採点后質問⇒説明)。

復習テスト(プリント)は大熊町教育委員会が用意。

途中、1時間程度の東大生企画(講演・レクリエーションなど)の実施。

3月30日(金)学習支援活動終了後、会津若松市から東京へ

#### 2. 活動期間

平成24年3月23日(金)～3月30日(金) <7泊8日>

#### 3. 活動日程

3月23日(金)(移動日)

15:00 会津若松駅に集合(現地集合)→大熊中学校へ移動

15:20 大熊中学校(大熊町教育委員会2F)に到着後  
打合せ等

16:20 送迎バスにより大熊中学校から会津自然の家へ移動

17:00 会津自然の家に到着  
オリエンテーション、夕食、入浴、適宜ミーティング等

22:00 就寝

3月24日(土)～3月29日(木)(活動日/ただし3月28日は休校)

6:00 起床、洗面、清掃等

7:20 朝食、出発準備等

8:20 送迎バスにより会津自然の家を出発

9:00～15:00 学習支援活動(昼食持参/生徒と一緒に)

16:00 送迎バスにより会津自然の家に到着  
夕食、入浴、適宜ミーティング等

(18:30～20:30期間中に1回(25日)、

近隣の中学生・高校生との交流会)

22:00 就寝

(活動に持っていくもの) □救急バッグ □腕章 □名札 □デジカメ  
□運動靴(室内レク用) □昼食 □飲み物

3月30日(金)(活動及び移動日)

6:00 起床、洗面、清掃等/帰り支度をする

7:20 朝食、出発準備等

8:20 送迎バスにより会津自然の家を出発

9:00～15:00 学習支援活動(昼食持参/生徒と一緒に)

16:00 活動終了後に会津若松駅へ(現地解散)

※1 東京駅～会津若松駅の移動は、各自JR等を利用し、領収書又は切符購入証明を保管しておいてください。活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする交通費相当額が補助されます。(別紙参照)

※2 初日及び最終日の会津若松駅～大熊中学校の移動は、タクシーの相乗りをお願いします。※1同様に、代表者が領収書を保管し、同支援金の請求に加えてください。

※3 会津自然の家～大熊中学校の移動は、会津自然の家所有の送迎バス(無料)を利用します。

※4 学習支援活動が終了した後、速やかに「学習支援ボランティア活動報告書」を提出願います。

※5 食事・飲み物代は、すべて各自の負担となります。

朝食(410円)・夕食(560円)は、会津自然の家の食事(バイキング形式)をとっていただきます。昼食は、大熊中学校の生徒と一緒にいただきますが、弁当等の調達方法は参加者相互で話し合ってください。近所に配達可能な弁当屋もいくつかあるので、利用が可能です。

※6 会津自然の家の生活の注意事項は参考資料を参照してください。

※7 災害ボランティア保険は必ず出発前に各自で加入してください。

## 5. 注意事項等

### 活動するに当たっての心構え

#### [全般]

(1) ボランティア活動は自己責任・自己完結が原則です。事前に自分自身でも十分な情報収集・確認を行い、活動場所での飲み物、食べ物、常備薬、適切な服装、保険等、必要な備えをして被災地に入りましょう。

(2) 復旧や復興の主役は被災された方です。

ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。

(3) 被災された方と話す際は、相手と同じ目の高さで自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう。

(4) 仲間内の話での笑い声が、被災された方の誤解を招くことがあります。言動などへの気配りを忘れないようにしましょう。

(5) 写真やビデオ撮影をする場合は、被災された方や被災地の気持ちを配慮して行うようにし、被災された方が特定できる写真は、その方の了解を得てから撮影しましょう。

(6) 団体行動が原則となります。仲間とよく話し合い、一人で抱え込まないようにしましょう。また、単独での行動は避けましょう。

(7) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。また、必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。

(8) ボランティア活動は、やってあげるのではありません。自分のやりたいことをやるのではなく、できることをやらせてもらうと心得ましょう。

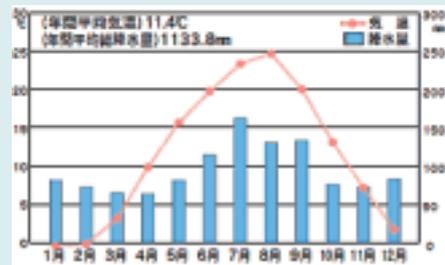
#### [安全面]

(9) 活動するためには災害保険の加入が必須です。お住まいの地域の社会福祉協議会で加入できますので、事前に各自で「**災害ボランティア保険(天災Bプラン)**」(東京都の場合は1000円)に加入してください。

(10) 自分の体調を見極めよう。調子が悪い時は「活動しない」も選択肢です。おかしいなと感じたら、活動をやめてリーダーに伝えましょう。

(11) 寒い時期なので、防寒など服装等に気をつけましょう。帽子や手袋、マフラーなど着用しましょう。

＜会津地方の気候＞会津若松市



(福島県HPより)

#### [学習支援ボランティア]

(12) 公の活動であるため、本学の学生として言動や行動に注意しましょう。

(13) 今後の本学の学習支援ボランティアに活かすため、活動後にボランティア活動報告書を提出してください。

(14) 学習をサポートすることと同時に、生徒たちに友達と集まる場所を提供するという意味もあります。レクリエーション企画等を通じて生徒たちと一緒に過ごす時間を楽しみましょう。

### 地震発生時の注意事項

(バス乗車時に地震が発生したら)

- ・走行中に地震が発生した場合、運転手の判断により車を路肩に停車させますが、運転手の指示に従って車内で待機してください。
- ・地震が収まり、運転手の指示により車外で待機する場合には、バスの前方の路肩に待機してください。特に、高速道路では、むやみに走行車線に出ると危険ですので、決して走行車線には出ないでください。

(ボランティア活動中に地震が発生したら)

- ・活動場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- ・屋外で活動中に地震が発生したら、頭上の落下物の危険のない場所へ退避してください。揺れが収まりましたら、地元の防災無線による指示等に従ってください。
- ・沿岸地域で活動中の場合には、揺れが収まりましたら地元指定の高台の避難所へ退避してください。避難経路や避難場所が不明の場合には、最寄りの裏山やコンクリート製の高層建物(できれば4階以上が望ましい)に避難してください。
- ・体育館等の避難所で活動中に地震が発生したら、天井構築物や照明器具等の落下に注意するとともに、避難所責任者の指示に従ってください。
- ・余震が想定される場合には、揺れが収まってから屋外に退避してください。
- ・自身の安全確保と同時に、子供や高齢の避難者の誘導等にも心がけてください。

(宿泊場所:会津自然の家で地震が発生したら)

・会津自然の家に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。

・台所等で火器を使用中の場合には、直ちに火を止めてください。その際、やけどをすることのないよう、注意してください。

・万一、火災が発生してしまったら、直ちに備え付けの消火器を使用して初期消火に努めてください。同時に、消防署(119番)へ緊急連絡を行ってください。

・余震が想定されるようでしたら、揺れが収まった後、外へ退避してください。

・会津若松市の防災無線による指示がありましたら、落ち着いてその指示に従ってください。

東北地方では、今も余震が度々発生していますので、地震や津波に十分注意して行動してください。

#### 急病等発生時の注意事項

・出発前に急病等の不測の事態が生じたときや活動中に怪我や急病等の不測の事態が生じたときは、速やかにボランティア支援班事務局までご連絡ください。

《連絡先》 東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局

(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

(当日の場合)volunteer1882@docomo.ne.jp

直通電話 03-5841-2529(平日9時~17時)

携帯電話 080-2373-1881、1882

・意識を失った者を発見した場合には、むやみに移動させず、安静な体勢にしてください。

・少人数での行動時や保健師等の資格保持者が周りにいない場合には、応急措置を行うとともに、周りの人に声をかけ、直ちに救急通報(119番)を行ってください。

#### 6. 事前準備と持ち物

##### 1 ボランティア活動について

1) 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになりますが、基本的にはボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結を原則**とします。

2) 活動内容は、福島県大熊町教育委員会の要請に基づいていますので、担当者等の連絡事項や指示に従ってください。また、勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。

##### 2 ボランティア保険への加入について

ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」「(東京都の場合は1,000円)」に加入するようにしてください。

##### 3 大学への届出

参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

##### 4 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、運動靴(室内レク用)、ボランティア保険加入がわかるもの(加入カード又は加入証等)、現金

〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

##### 5 食事・入浴について

食事は、朝・夕は会津自然の家でのバイキング形式で、1日当たり朝食410円、夕食560円の食費がかかります。

活動日の昼食は、大熊中学校の生徒と一緒にいただきますが、弁当等の調達方法は参加者相互で話し合ってください。近所に配達可能な弁当屋もいくつかあるので、利用が可能です。

入浴時間は、会津自然の家にて17:00~21:30の間ですが、他団体の利用状況によっては、事前調整があります。ポディーソープ、シャンプーはありますが、タオル等は各自準備してください。ドライヤーは2台設置されておりますが、洗面所をご利用ください。(設置場所以外で使用するとブレーカーが落ちるそうです。)

## 7. こんな時はどうする(Q&A)

### [目次]

- ①急に参加できなくなった時は？
- ②急に帰京しなければならなくなった時は？
- ③活動場所に忘れ物をした時は？
- ④活動中に地震が発生した時は？
- ⑤活動中に負傷した時の補償は？
- ⑥パソコンを持参しても使用できますか？
- ⑦負傷して入院することになった場合はどうなりますか？
- ⑧期間終了後に引き続き遠野市に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？
- ⑨ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすれば良いですか？

#### Q-1 急に参加できなくなった時は？

A 遅くとも、出発日の前日(前日等が土・日曜日・休日の場合はその前の平日)の17時までにボランティア支援班事務局までご連絡ください。また、出発当日に参加できなくなった場合は、至急下記の携帯電話までご連絡ください。

(連絡先)東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局  
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
(当日の場合)volunteer1882@docomo.ne.jp  
直通電話 03-5841-2529(平日9時~17時)  
携帯電話 080-2373-1881

#### Q-2 急に帰京しなければならなくなった時は？

A 何らかの緊急の事情により、急に帰京しなければならなくなった場合には、ボランティア支援班職員(080-2373-1882)に連絡をしてからお帰りください。

#### Q-3 活動場所に忘れ物をした時は？

A まずは、忘れ物をしないよう、各自注意してください。忘れ物をしてしまった場合には、ボランティア支援班職員(080-2373-1882)に相談してください。ひとりで取りに行くようなことはしないでください。

#### Q-4 活動中に地震が発生した時は？

A 活動場所へ到着したら、まずは現地の避難経路及び避難場所を確認してください。地震が発生したら、家屋の倒壊、落下物等に注意し、身を守ってください。揺れが収まってから、避難場所へ速やかに移動してください。その際、決して単独行動はしないでください。

#### Q-5 活動中に負傷した時の補償は？

A 天災Bプランに加入している方で支給要件を満たす場合は、社会福祉協議会のボランティア活動保険の補償が受けられます。

|                  |              |
|------------------|--------------|
| (例) 死亡保険金        | 2,000万円      |
| 後遺障害保険金          | 2,000万円(限度額) |
| 入院保険金日額          | 11,000円      |
| 通院保険金日額          | 6,370円       |
| 賠償責任保険金(対人・対物共通) | 5億円(限度額)     |

#### Q-6 パソコンを持参しても使用できますか？

A 大熊中学校及び会津自然の家には、ネットワーク環境が整備されていませんので、ケーブルを用いての使用はできません。また、無線LANであってもサービス提供エリア外の会社もあるため、事前に確認をお願いします。

#### Q-7 負傷して入院することになった場合はどうなりますか？

A ボランティア申込書に記載された緊急連絡先に連絡を取り、病院の付き添いや迎えをお願いする予定です。それ以外にもその方が不在の場合も想定して確実に連絡がとれる方のお名前と連絡を複数把握しておくようにお願いします。

Q-8 期間終了後に引き続き現地に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？

A 集合時間・場所から解散場所まで団体行動を守っていただければ、一緒に帰京しなくてもかまいません。

Q-9 ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすれば良いですか？

A 参加者相互で協議して対応してください。対応困難な場合は、ボランティア支援班事務局へご相談ください。

#### (4)活動報告

##### 「福島県大熊町の避難生徒への学習支援」ボランティアの活動報告

「福島県大熊町の避難生徒への学習支援」は、福島県教育委員会及び大熊町教育委員会からの要請により、今般の東京電力福島第1原発事故により大熊町から会津若松市に避難している大熊中学校の生徒(仮設住宅等で避難生活中)を対象とする活動で、平成24年3月23日(金)～3月30日(金)の間に、学生ボランティアによる学習支援活動を実施しました。

##### 【活動概要】

○ 日程:平成24年3月23日(金)～3月30日(金) [7泊8日]

○ 参加学生:22名(学部学生16名、大学院学生6名)

○ 宿泊場所:福島県会津自然の家(会津坂下町)

○ 活動場所:大熊中学校(会津若松市内の仮校舎)の教室を利用

##### ○ 活動日程

3月23日(金) 現地集合、活動打合せ、オリエンテーション・ミーティング等

3月24日(土)～3月29日(木)活動9:00～15:00

3月30日(金) 活動後、現地解散

##### ※ 参加生徒数

24日(土):中学1年生10名、中学2年生4名

25日(日):中学1年生10名、中学2年生7名

26日(月):中学1年生13名、中学2年生12名

27日(火):中学1年生10名、中学2年生12名

28日(水):(休講日)

29日(木):中学1年生10名、中学2年生8名

30日(金):中学1年生11名、中学2年生7名

また、大熊町の武内教育長の出席のもと、24日に開講式、30日には閉講式がそれぞれ行われ、地元マスコミによる取材がありました。

なお、この活動は夏季休業期間等を利用して引き続き実施していく予定です。





## (5) 参加者報告(抜粋)

### 【参加者の声(活動報告からの抜粋)】

○学習支援を参加させていただいてありがとうございました。僕は留学生なので、本当に貢献できるかどうかは、ずっと悩んでいましたが、今回のボランティアチームの皆様は本当に親切で、助けてもらい、何の困難があっても皆で話し合っ、克服できるようになりました。今回のメンバーは本当に素晴らしかったと思います。今回は他のメンバーの教え方を見て、非常にいい勉強になりました。今回のプロジェクトは、参加した中学生は少なかったと思います。でも、皆、大変な避難生活を送っていて、色々な事情があって、それはしょうがないと思います。(学部3年生)

○学校で予め配られた5教科テキストを基に生徒に自習してもらい、分からない部分を教えるという形式をとりました。部屋は中1と中2の2部屋に分け、大学生も2つのグループに分かれました。反省点・次回への教訓としては「大熊中学での様子を事前にもっと詳しく把握しておく」事です。体育館や教材の位置付けは勿論ですが、どの程度の人数の生徒さんがどの日のどの時間帯(午前・午後)に来るのかをある程度把握出来るだけで、事前の準備の効率が非常にスムーズになります。次回からは、どの日のどの時間帯に生徒さんは来るつもりか大体の予定を教えてくださいたいです。この活動がこれからも継続される事を願っております。(学部3年生)

○レクリエーションをうまく組み込むことができ、多少は勉強の発展的な話もしたので、今回の活動の効果は大きかったと思います。中学生の数が東大生より少なく、暇を持て余す時間が多かったですが、人数が多すぎて面倒を見切れないよりは良かったと思います。教える方としても教え方という点で勉強になることが多くむしろ中学生も大学生の方が成長したのではという感じでした。(学部3年生)

○個別指導及びレクリエーションを行ったが、設備に余裕がなく体育館などは自由に使えない状況のため室内でのレクしかできなかった。柔軟性を保ちつつ、東大生と生徒のバランスを何とかとれないか良いシステムがないか考える必要があると思います。(学部4年生)

○参加者の任意参加の形態だったので「午前中は部活があるから休み」と行った個々人の事情にも対応できた。東大生も多いにこしたことはなく、学習支援そのもの以外の雑用など、各人が自ら精力的に役割を分担し、少しでも学習支援の効率が高まるよう努めた。(大学院博士3年)

○大熊中学校の新2、3年生の学習支援を行った。中学生の部活などと重なり参加人数に変動があり、基本的に東大生の人数より中学生の人数の方が少なくマンツーマンに近い形で指導を行った。学習支援のほかにレクリエーションも取り入れた。ただ単に遊びの要素を加えるのではなく、ある部首の漢字をいくつ書けるかといったような勉強の要素が少し入ったレクリエーションもした。中学生も楽しんでくれていたようだし、勉強が少しわかったと言ってくれてよかった。このような支援活動が継続されればよいと思う。(学部2年生)

○レクリエーションは、お題を出してその絵を書かせ、お題を知らない人に当てさせる、などのゲームを行っていました。お題は、「聖徳太子」「光合成」「水上置換」など、学習に関係のあるものなどを用いていました。2年生に関しては、受験を控えていることで集中したい生徒さんもいるようで、レクリエーションの参加を選択式にしたのは大変良かったようです。(大学院2年生)

○1年生の教室ではウィングキラーやフルーツバスケットを行ったりしました。1年生はかなり飽きていた様子で、レクリエーションの時間を長めに取りました。テキストを終わらせた生徒も出始めた状態です。逆に2年生はかなり集中が続いていたので、集中が切れた生徒だけ、トランプ4枚の数字を四則演算して10を作るゲーム、などを行いました。(大学院2年生)

○何人かは教頭先生と、大熊中や原発、その賠償の現状などのお話を個人的に聞いたりもしていました。僕個人も聞いたのですが、考えさせられる話ばかりです。(大学院2年生)

### 3、ボランティア活動報告会

本学構成員によるボランティア活動の体験報告等により、今後の活動計画への参考に資するため、計3回のボランティア活動報告会を開催しました。

#### (1) 第1回ボランティア活動報告・連絡会

(お知らせポスター)

平成23年4月19日

## 東日本大震災に伴う東京大学学生ボランティア活動の報告・連絡会の開催について

理事・副学長 武藤芳樹

**開催日**  
東京大学では東日本大震災発生に伴い、震災被害を本邦最とする災害対策本部を4月1日に設置（平成23年3月11日閣議決定）し、震災発生から1か月後に食糧・復興支援策を緊急し大学全体で取り組みを進めています。学生からもボランティア活動を希望する声が多く寄せられていることから、ボランティア活動における学生の安全等を考慮し、より良いボランティア活動と支援が可能となるよう、ボランティア活動に関する啓発、情報の収集・提供を目的として「学生ボランティア活動報告・連絡会」を下記のとおり開催することとなりましたので、ご希望される学生はご参加くださいませようお願いします。

**開催内容**

1. 大気海洋研究所教職員による被災地の状況説明及び大槌町からの要望等について  
1) 大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター長 大竹二雄教授からの報告
2. 学生ボランティア体験者による報告  
1) 法学政治学研究所法曹養成専攻2年生 光本亘佑さんからの報告  
2) 理学系研究科化学専攻修士課程2年生 船登惟希さんからの報告
- 自由ディスカッション  
ボランティア活動を行うに当たっての留意事項

**開催日時**  
日時：平成23年4月27日（水）  
時間：17時30分から  
19時00分（予定）  
場所：経済学部第1教室  
（収容人数：340名）  
※参加自由：会場が満席となり次第、受付終了。

経済学部第1教室  
（経済学研究科棟地下1階）

以上

(学内広報掲載記事)

東京大学学生のための「東日本大震災に伴う東京大学学生ボランティア活動の報告・連絡会」が開催される

4月27日（水）17時30分から経済学部第1教室において、約100名（うち学生約60名）の参加の下「東日本大震災に伴う東京大学学生ボランティア活動の報告・連絡会」が開催された。

開催に際し、3月11日に発生した東日本大震災によって尊い命を失われた多くの方々への謹んで哀悼の意を表し、黙祷を捧げた。次に武藤理事（救援・復興支援室ボランティア支援担当役員）から開会の挨拶があり、今後の東京大学のボランティア活動に係る方針等が紹介された。続いて、「大気海洋研究所教職員による被災地の状況説明及び大槌町からの要望等について」大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター長 大竹二雄教授から報告があり、岩手県大槌町の同センターは未曾有の被害を受けたことや、今後のボランティア支援活動の方法及び大槌町からの要望等が述べられた。なお、建物等は甚大な被害を受けたが、学生及び教職員は無事であったとの報告があった。

続いて、「学生ボランティア体験者による報告」として、2つの学生ボランティア団体（「東京大学法科大学院 復興支援プロジェクトチーム」及び「Youth for 3.11」）の4名の大学院学生から団体を立ち上げたコンセプト及び手厚い支援活動内容が紹介された。続いて、「ボランティア活動を行うに当たっての留意事項」について浅野学生支援課長から、事前の現地情報の収集及びボランティアセンター等への登録の必要性や用意すべき物品等の被災地に入る前の注意事項等が示された。特に①ボランティア活動保険の加入、②所属する部局への届出、③予防接種（破傷風、はしか、風しん）等の必要性についての説明があった。その後、自由ディスカッションがあり、時間の都合により4名の学生から質問を受けて、武藤理事及び講演者からの確かな回答がなされた。

最後に、この連休にボランティア活動を予定している学生・教職員に対して、「個人で被災地に入り、ボランティア活動を行う事は出来ない」旨の注意喚起がなされ、連休中のボランティア活動における学生の安全等を考慮した情報の収集・提供を目的とした報告・連絡会が大盛況のうち終了した。第2回は6月頃に行われる予定である。



自由ディスカッションで学生からの質問に答える武藤理事



法学政治学研究所法曹養成専攻 光本亘佑さんからの報告



理学系研究科化学専攻修士課程 船登惟希さんからの報告

## (2) 第2回ボランティア活動報告会

(お知らせポスター)

平成23年5月26日

### 学生及び教職員のための 第2回ボランティア活動報告会について

理事・副学長 武藤芳照

東京大学では東日本大震災発生に伴い、渡辺館長を本部長とする災害対策本部を4月1日に設置（平成23年3月11日館長就任）するとともに救援・復興支援を推進して大学全体で取組みを進めています。更に、6月に産学員の遠野市に同支援室の遠野分室及び大磯町に大磯連絡所を設け、本学の支援拠点として活動を開始しました。

これまでの東京大学構成員による活動報告により、被災地の状況把握や助言により、今後の活動計画の参考に資するため、第2回目のボランティア活動報告会を開催します。学生・教職員の方々は奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

■開催内容

1. 学生からの報告
  - 1) 法学部 第三期（政治コース）3年生、クーカーチャイさんからの報告
  - 2) 医学系研究科 健康科学・看護学専攻修士課程2年生 堀越直子さんからの報告
2. 教員からの報告
  - 1) 教育学研究科・教育学部 千明賢治事務長からの報告
3. 教員からの報告
  - 1) 自然科学研究科 生命ヒトゲノム解析センター 武藤香織准教授からの報告
4. 自由ディスカッション
5. 注意事項の伝達

■開催日時等

日時：平成23年6月28日（火）  
時間：17時30分から  
19時00分（予定）  
場所：経済学部第1教室  
（収容人数：340名）  
※参加自由：会場が満員となり次第、受付終了。

以上



(左) クーカーチャイさんによるボランティア活動報告  
(右) 保健師としての活動報告をする堀越直子さん



(左) 千明賢治事務長によるボランティア活動を行う際のアドバイスの様子  
(右)「素人のよさが生きる」と説明する武藤香織准教授



多くの学生・教職員が参加

### (学内広報掲載記事)

「第2回ボランティア活動報告会」が開催される

6月28日（火）17時30分から、本学本郷キャンパス経済学部第1教室において、約130名の参加の下、学生及び教職員のための「第2回ボランティア活動報告会」が開催された。これは4月23日に開催した第1回目に続く活動報告会である。

開会に先立ち、東日本大震災によって尊い命を失われた多くの方々に謹んで哀悼の意を表し、黙祷を捧げた。次に、開会にあたり濱田純一総長から挨拶があり、東京大学の救援・復興支援活動の方針と大学構成員によるボランティア活動への期待が述べられた。

続いて、学生及び教職員からのボランティア活動報告として、法学部3年生のクーカーチャイさん、医学系研究科修士課程2年生の堀越直子さん、教育学研究科・教育学部の千明賢治事務長及び医科学研究所の武藤香織准教授から、それぞれが関わった団体・グループによるボランティア活動体験の様子や被災地の状況、活動を通じて感じたこと、今後の活動を考えている方々へのアドバイスなどが報告され、参加者に対して極めて有益な情報が提供された。

その後、浅野公一学生支援課長から、ボランティア活動を行うにあたっての注意事項等の説明並びに本年夏季休業期間に計画しているボランティア隊の派遣に向けて、参加者募集についての説明の後、全体を通じた質疑応答が行われた。

最後に、武藤芳照理事・副学長（救援・復興支援室ボランティア支援班担当）から閉会の挨拶があり、盛況裡に終了した。なお、7月下旬には、「ボランティア隊」参加者への説明会を予定している。

### (3) 第3回ボランティア活動報告会

(お知らせポスター)



開会の挨拶をする武藤理事



石見隊長(第1班)



林隊員(第2班)



森本隊長(第3班)



渡辺隊員(第4班)



大内隊長(第5班)

ボランティア隊第1班～第5班による活動報告



授業の一環として活動した藤原さんの報告

(学内広報掲載記事)

「第3回ボランティア活動報告会」が開催される

平成23年10月7日(金)18時00分から、本学駒場Ⅰキャンパス数理学部研究科大講義室において、本学の学生及び教職員約130名の参加の下、「第3回ボランティア活動報告会」が開催された。これは本年の夏季休業期間を利用して5班に分かれて実施された「東京大学ボランティア隊」の派遣が終了したのを機として開催した活動報告会である。

開会にあたり、武藤芳照理事・副学長から挨拶があり、東京大学として初めての経験であるボランティア隊の派遣が極めて有意義なものとなって終了できたこと及び今回の支援事業を今後の活動に繋げていきたい旨、述べられた。

続いて、ボランティア隊の活動報告として、第1班の石見徹隊長(大学院経済学研究科教授)、第2班の林貴子隊員(教育・学生支援部職員)、第3班の森本一夫隊長(大学院情報学環准教授)、第4班の渡辺恵理隊員(生産技術研究所職員)、第5班の大内正己隊長(宇宙線研究所准教授)から、それぞれの班の活動内容や活動を通じての感想等の報告があった後、授業の一環としてボランティア活動を行った教養学部文科一類2年生の藤原千晴さんから、「川人ゼミの東北研修とボランティア活動で学んだこと」と題して、研修やボランティア活動を通して培った成果が紹介された。各報告者からは、ボランティア活動の様子、被災地の状況等の情報や、実体験に基づく課題やアドバイス等が伝えられ、特に今後の活動を考えている参加者には極めて有益な情報が提供された。

最後に、濱田純一総長から、ボランティア活動に参加した学生及び教職員に対する労いの言葉と、現場を視ることの大切さを実感し、この経験により成長したことを今後活かして欲しいとの期待が述べられ、盛況裡に終了した。



熱心に聞き入る会場の参加者



濱田総長からの労いと期待を込めた挨拶

## 4、ボランティア活動支援金

### (1) 取扱要項

平成23年12月6日  
救援・復興支援室

東日本大震災に係るボランティア活動支援金の取扱要項

#### 1(趣旨)

この取扱要項は、東日本大震災の被災地域において救援・復興に関わるボランティア活動を行う本学の学生を支援するため、必要な事項を定める。

#### 2(支援対象予定者)

支援対象予定者は、東日本大震災による被害を受けた青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県及び千葉県のうち、特に被害の甚大な市町村においてボランティア活動を行う本学の学部学生及び大学院学生とする。

#### 3(支援内容)

(1) 従事するボランティア活動が、東日本大震災の救援・復興に関わる活動であり、かつ、公的団体又は社会的に認知されているNPO・NGO団体等が主催する活動であると認められる場合において、その活動経費の一部又は全部を支援金として補助する。

(2) 支援金の額は、当該ボランティア活動に要する交通費又は当該ボランティア活動の主催団体が定める参加費等に相当する額の範囲内で、かつ、1回の活動につき20,000円を上限とする。

#### 4(申請方法)

支援金を希望する者は、別に定める「申請要領」により申請するものとし、ボランティア活動を行う毎に申請することを可能とする。ただし、同一人による申請は、原則として、2回を限度とする。

#### 5(支援の決定)

支援対象者及び支援金額は、前項の申請の際に提出されたボランティア活動報告書等を審査の上決定し、その結果を本人に通知する。

#### 6(支援金の支払方法)

支援金は、申請者が指定した金融機関の口座に振り込むものとする。

#### 7(返還)

申請に虚偽があった場合は、支援金を返還させるものとする。

#### 8(事務)

支援金の取扱いに関する事務は、本部学生支援課が行う。

#### 9(その他)

(1) この取扱要項による支援は、支援金の原資がなくなったときに終了する。

(2) この要項に定めるもののほか、この要項の実施に当たって必要な事項は、別に定める。

### (2) 申請要領

平成23年12月6日  
救援・復興支援室

#### ボランティア活動支援金の申請要領

「東日本大震災に係るボランティア活動支援金の取扱要項」の4に基づく、ボランティア活動支援金の申請手続については、下記の要領により行います。

なお、申請手続は当該ボランティア活動の終了後に行うこととなりますが、申請時の提出書類の中には事前に様式を準備していく必要がある場合がありますので、ご注意ください。

#### 1 申請資格

本学の「東日本大震災にかかる救援・復興支援のためのボランティア活動について(平成23年6月7日通知)」、「教職員・学生の救援・復興支援活動に当たっての留意点について(平成23年8月2日通知)」等の通知の趣旨に沿って、被災地でボランティア活動を行う本学の学部学生及び大学院学生を対象とします。

#### 2 申請対象となる活動内容

(1) 東日本大震災による被害を受けた青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県及び千葉県のうち、特に被害の甚大な市町村における救援・復興に関わるボランティア活動であって、公的団体又は社会的に認知されているNPO・NGO団体等(以下「公的団体等」という。)が主催する活動に従事する場合とします。

(2) 平成23年12月6日以降の活動を対象とします。

#### 3 支援金の額

支援金の額は、当該ボランティア活動に要する交通費又は当該ボランティア活動を主催する公的団体等が定める参加費等に相当する額とします。

ただし、1回の活動につき20,000円を上限とします。

#### 4 申請方法(提出書類等) ※ホームページからダウンロードしてください。

(1) 申請する際は、次に掲げる書類を提出してください。

① ボランティア活動報告書(支援金申請を含む。)

② 振込口座届

③ 公的団体等で活動したことを証明する書類(活動受入証明書あるいは認印等)

④ 公的団体等がボランティア活動に係る参加費等を定めている場合は、「ボランティア募集パンフレット」等の参加費等の金額がわかるもの

(2) ボランティア活動毎に申請することができます。

ただし、同一人による申請は、2回までとします。

(3) 申請書類は、本部学生支援課の窓口において受け付けます。

※ (1)の③、④の証明書等の提出がない場合は、支援金の補助ができませんので注意してください。

#### 5 支援の決定

申請の際に提出されたボランティア活動報告書類等を審査の上決定し、その結果を同書類に記載の連絡先に通知します。

#### 6 支援金の振込み

原則として、申請のあった翌月の末日までに届出のあった口座に振り込みます。

#### 7 その他

この支援金の補助は、原資がなくなったときに終了します。

#### 8 問い合わせ先

本部学生支援課(本郷キャンパス学生支援センター地下1階)

電話:03-5841-2524

FAX:03-5841-2519

#### (3) ボランティア活動支援金Q&A

Q1 支援金の申請書等の様式は、どのように入手するのですか。

Q2 支援金の申請には、どのような書類が必要ですか。

Q3 支援金の額はいくらですか。

Q4 申請すれば必ず支援を受けられますか。

Q5 過去に行ったボランティア活動も支援の対象になりますか。

Q6 どのような活動が支援金申請の対象になるのですか。

Q7 支援金申請の対象となる活動地域の「特に被害の甚大な市町村」とは、どのような基準による地域ですか。

Q8 公的団体又は社会的に認知されているNPO・NGO団体等とは、どのような団体を指しますか。

Q9 救援・復興支援室登録プロジェクトにボランティアとして参加した場合は、支援金の対象になりますか。

Q10 どのように活動したことを証明するのですか。

Q11 申請に締切りはあるのですか。

Q12 支援金はいつ振り込まれますか。

Q1 支援金の申請書等の様式は、どのように入手するのですか。

A 東京大学ホームページ「東日本大震災(東京大学の対応について) > ボランティア情報 > ボランティア活動支援金について」に下記の通知等を掲載しておりますので、それらの内容を確認の上、同ページに掲載の「ボランティア活動報告書」及び「振込口座届」をダウンロードしてください。

なお、ボランティア活動報告書は支援金の請求書を兼ねています。

【東京大学ホームページのボランティア活動支援金関係URL:  
[http://www.u-](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html)

[tokyo.ac.jp/public/recovery/vol\\_02\\_shienkin\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html)】

・「東日本大震災に係るボランティア活動支援金について(お知らせ)」

・東日本大震災に係るボランティア活動支援金の取扱要項

・ボランティア活動支援金の申請要領

Q2 支援金の申請には、どのような書類が必要ですか。

A 前項で説明した「①ボランティア活動報告書」及び「②振込口座届」のほか、「③公的団体等で活動したことを証明する書類(Q10参照)」、「④公的団体等がボランティア活動に係る参加費等を定めている場合はその金額がわかるもの(ボランティア募集パンフレット等)」が必要です。

なお、ボランティア活動に要した交通費の領収書又は金額がわかる書類があれば提出してください。

Q3 支援金の額はいくらですか。

A 当該ボランティア活動に要する交通費に相当する額(交通費の領収書又は金額がわかる書類が無い場合は「東京から活動地の最寄駅までの交通費」をインターネット等で調査した額)又は当該ボランティア活動を主催する公的団体等が定める参加費等に相当する額とします。ただし、1回の活動につき2万円を上限とします。

また、上記の交通費又は参加費等以外の、ボランティア保険加入費用、生活費用、宿泊代、装備費用等は、支援の対象にはなりませんのでご注意ください。

Q4 申請すれば必ず支援を受けられますか。

A 支援の可否は、ボランティア支援班での審査を経て決定します。審査の内容は、①支援金の対象となる活動であるかどうか、②必要な書類及び情報が揃っているかどうか、③その他、支援金補助の条件(対象者、時期、原資の有無等)を満たしているかどうか、です。

なお、審査の結果については、申請時に記載の連絡先に通知します。

Q5 過去に行ったボランティア活動も支援の対象になりますか。

A 平成23年12月6日以降の活動を対象とします。これは、ボランティア人数の減少する冬季の活動を支援することを当面の目的としているためです。なお、原則として同一人による申請は2回までとなります。

Q6 どのような活動が支援金申請の対象になるのですか。

A 東日本大震災による被害を受けた青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県及び千葉県の特に被害の甚大な市町村における救援・復興に関わるボランティア活動のうち、公的団体又は社会的に認知されているNPO・NGO団体等が主催する活動に従事した場合とします。

Q7 支援金申請の対象となる活動地域の「特に被害の甚大な市町村」とは、どのような基準による地域ですか。

A 原則的には、災害救助法の適用地域(厚生労働省ホームページ参照)を対象とします。活動の内容によっては他の地域での活動が含まれることも有り得るため、限定しなかったものです。

【厚生労働省ホームページ:<http://www.mhlw.go.jp/>】

Q8 公的団体又は社会的に認知されているNPO・NGO団体等とは、どのような団体を指しますか。

A 各地方公共団体、社会福祉協議会、災害ボランティアセンターや、特定非営利活動促進法による法人格を持つ団体又はそれと同等の組織・活動内容を有すると明らかに認められる団体を指すものとします。

なお、ホームページ等で規約(定款)や役員及び活動内容等が公表されている団体であることが必要です。

Q9 救援・復興支援室登録プロジェクトにボランティアとして参加した場合は、支援金の対象になりますか。

A 対象になります。ただし、他から交通費又は参加費に相当する支援がある場合を除きます。

Q10 どのように活動したことを証明するのですか。

A 次に掲げるいずれかの方法で証明することができます。

A ボランティア活動を主催する団体に、「活動受入証明書」等を発行してもらって証明する。

I ボランティア活動報告書に設けている「受入(活動主催)団体の担当者確認欄」に、当該担当者の認印又はサインをもらって証明する。

なお、可能な限り、受入(活動主催)団体等の募集パンフレットや領収書等を提出してください。

Q11 申請に締切りはあるのですか。

A 特に締切りは設けていません。この制度は原資が無くなり次第終了することから、概ね申請の早い順での決定となりますので、活動終了後なるべく早く申請することをお勧めします。

Q12 支援金はいつ振り込まれますか。

A 申請のあった月の翌月25日に振込手続きをします。なお、書類の不備、記載内容の不備、審査過程において更なる確認事項が生じた場合等は、それらが充足されたときに申請があったものとして扱います。

#### (4)お知らせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班からのお知らせ

## ボランティア活動 応援します

学生のみなさんへ

### 東京大学「ボランティア活動支援金」について

本学では、東日本大震災にかかるボランティアの人数が減少する冬季のボランティア活動を支援するため、平成23年12月6日以降に活動を行った学生に対し、「ボランティア活動支援金」(上限2万円)を支援します。

- 対象 : 平成23年12月6日以降東日本大震災にかかるボランティア活動を行った本学学生
- 支援額 : ボランティア活動に要した交通費または参加費の範囲内(上限2万円)
- その他 : 申請方法・申請書類等の詳細については、本学HPをご覧ください。

※東京大学HP > ボランティア情報  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html)

【問い合わせ先】東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局  
(本館キャンパス学生支援センター地下1階本部学生支援課窓口)  
Tel : 03-5841-2524(内線22524)  
E-mail : [volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)

## 5、ボランティア情報ホームページ 開設

平成23年11月4日に開催された第4回ボランティア支援班会議により、本学の職員・教員・学生に対し学内のボランティア情報を提供するため、「ボランティア情報ホームページ」を開設することとなった。

「ボランティア情報」 [http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html)

ボランティア情報 | 東日本大震災への対応 | 東京大学 - Windows Internet Explorer

[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html)

東京大学  
The University of Tokyo

| 受験生の方へ | 在学生の方へ | 留学生の方へ | 卒業生の方へ | 社会人・一般の方へ | 企業の方へ |

東京大学案内 | 学部・大学院・研究所・センター | 東京大学の活動 | 東京大学入学案内 | キャンパスライフ

HOME > 東日本大震災<東京大学の対応について>

# ボランティア情報

**トピックス**

- 3月福島県の学習支援ボランティアを募集します。(24.2.16)
- 2月3月の学習支援ボランティアの全日程の募集は定員に達したため締め切ります。(24.2.8)
- 2月3月の学習支援ボランティアの(C)(D)日程の募集は定員に達したため締め切ります。(24.2.6)
- 2月3月の学習支援ボランティアを募集します。(24.1.25)
- 被災児童・生徒への学習支援ボランティアの活動報告 (24.1.13)
- 被災児童・生徒への学習支援ボランティアの学生が出席 (23.12.26)
- (ボランティア活動支援金について)ボランティア活動を応援します。(23.12.6)

**本学の基本方針**

- 本学における基本方針「東日本大震災にかける救援・復興支援のためのボランティア活動について」を掲載

**ボランティア活動をするには**

- ボランティア活動支援金について : 本学ではボランティア活動について支援金を支援しています。
- ボランティア募集情報 : 本学ボランティア隊等の募集について掲載
- 災害ボランティアQ&A : ボランティアを行う際の注意事項を掲載
- (学生・教職員)ボランティア活動の届出 : 注意事項や様式等を掲載。所属部署担当窓口へ提出してください。

**ボランティア活動状況**

■ ボランティア隊の募集 : 本学のボランティア隊の活動報告等を掲載予定

# ボランティア活動状況調査の結果

- 1、第1回学生の活動状況調査
- 2、第1回教職員の活動状況調査
- 3、第2回学生の活動状況調査
- 4、第2回教職員の活動状況調査

東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

1、第1回学生の活動状況調査

東京大学学生におけるボランティア活動状況一覧

■学生参加者 110名

調査内容：震災発生からゴールデンウィークまでの学生ボランティア活動状況を調査

平成23年5月16日 現在

| 部局         | 学生別 |    |      | 参加期間  |          | 宿泊数   |        |      | 宿泊地  | 参加団体窓口   | 参加ボランティア内容              | 備考 |
|------------|-----|----|------|-------|----------|-------|--------|------|--|--|-------------------------|----|
|            | 学部生 | 院生 | 院生専攻 | GW前   | GW中      | 2泊3日迄 | 3泊4日以上 | 7泊以上 |  |  |                         |    |
| 法学政治学研究所   | 1   |    |      | ~4/27 | 4/28-5/9 | 1     |        |      | O1   | A)かれき撤去 B)法律相談<br>C)医療 D)巡回診察健康把握<br>E)心のケア F)一般ボランティア<br>G)不明                     | バス                      |    |
| 医学系研究所     | 8   | 2  |      | 8     |          | 2     |        |      | C2 D)6<br>C)4 D)9<br>B)4 C)5 F)2 G)1 J)1<br>B)1 O)1              | O)1 D)7<br>A)1 C)3 D)9<br>D)2  | バス 電車<br>バス 電車          |    |
| 工学系研究所     | 9   | 19 | 5    | 4     | 8        | 5     | 7      | 2    | A)3 C)2 D)4<br>A)4 C)6 E)1 D)6 J)2<br>A)1 F)1 H)1 I)1 J)1<br>O)1 | A)4 B)1 C)2 D)2 A)4 G)5<br>A)2 B)5 C)10 D)2 A)7 E)1 F)1 G)10<br>A)2 F)1 G)2<br>F)1 | バス 電車<br>バス 電車<br>バス 電車 |    |
| 人文社会系研究所   | 2   |    |      | 1     |          | 1     | 2      |      | A)2  | A)1 C)1  | バス 電車                   |    |
| 農学生命科学研究科  | 2   | 10 |      | 2     | 5        | 1     | 2      | 8    | A)2<br>B)3 C)5 D)2<br>D)10                                       | D)2<br>G)2<br>A)3 F)1 G)6  | バス<br>電車                |    |
| 経済学研究所     | 5   | 2  |      | 1     | 4        | 3     | 2      |      | A)2 C)1 J)2<br>A)1 O)1   | G)5<br>G)2   | バス<br>バス                |    |
| 総合文化研究所    | 5   | 3  |      | 3     | 5        | 1     | 4      | 3    | A)1<br>A)5<br>A)3  | G)1<br>G)5<br>G)3  | バス<br>バス 電車<br>バス       |    |
| 新領域創成科学研究科 | 13  | 6  |      | 4     | 9        | 10    | 3      | 4    | A)8 C)1 D)3 J)1<br>A)3 C)1 D)2                                   | A)1 F)2 G)10<br>A)1 G)5  | バス 電車<br>バス 電車          |    |
| 情報学環       |     |    |      |       |          |       |        |      |  |  |                         |    |
| 計          | 24  | 55 | 24   | 5     | 2        | 43    | 67     | 36   | 12   | 62   | 12                      |    |
| 合計         | 110 |    |      |       |          |       |        |      |  |  |                         |    |

※1人が複数回参加している場合があり、人数は延人数である。  
 ※農学生命科学研究科については、学生証番号及び修士、博士等の表記をしない意向のため、大学院学生は全て院生修士に集計した。

2、第1回教職員の活動状況調査

東京大学教職員におけるボランティア活動状況一覧

■教職員参加者 21名

調査内容：震災発生からゴールデンウィークまでの教職員ボランティア活動状況を調査

平成23年5月16日 現在

| 部局          | 教職員別              |                          | 参加期間         |                 | 宿泊数   |               |      | 活動場所        | 仲介団体        | 参加ボランティア内容   | 備考 |
|-------------|-------------------|--------------------------|--------------|-----------------|-------|---------------|------|-------------|-------------|--|----|
|             | 教員<br>(特定有期<br>心) | 教員以外<br>(特定有期、<br>短時間含む) | GW前<br>~4/27 | GW中<br>4/28-5/9 | 2泊3日迄 | 3泊4日以上<br>6泊迄 | 7泊以上 |             |             |  |    |
| 1 医学系研究科    | 2                 |                          |              | 2               | 2     |               |      | B)2         | B)2         | A)がれき撤去<br>B)被災障害者支援等<br>C)健康把握訪問<br>D)一般ボランティア E)その他<br>O)2 |    |
| 2 理学系研究科    | 1                 |                          | 1            |                 |       | 1             |      | O)1         | E)1         | E)1  |    |
| 3 経済学研究科    | 2                 |                          | 2            |                 | 1     | 1             |      | A)1 D)1     | E)2         | B)2  |    |
| 4 総合文化研究科   |                   | 3                        | 1            | 2               | 3     |               |      | O)1 E)1 G)1 | O)1 D)1 E)1 | D)3  |    |
| 5 教育学部      |                   | 4                        |              | 4               |       | 4             |      | B)4         | F)4         | D)4  |    |
| 6 情報理工学系研究科 |                   | 1                        |              | 1               |       | 1             |      | A)1         | A)1         | D)1  |    |
| 7 情報学環      | 1                 |                          |              | 1               | 1     |               |      | O)1         | E)1         | D)1  |    |
| 8 医科学研究所    | 3                 |                          | 1            | 2               |       | 3             |      | H)1 O)2     | E)3         | A)3  |    |
| 9 生産技術研究所   | 1                 |                          | 1            | 1               | 1     | 1             |      | H)1<br>D)1  | E)1<br>E)1  | A)1<br>E)1   |    |
| 10 本部       |                   | 2                        |              | 2               | 2     |               |      | B)1 O)1     | E)2         | A)1 D)1  |    |
| 計           | 10                | 11                       | 6            | 15              | 10    | 11            | 0    |             |             |  |    |
| 合計          |                   | 21                       |              | 21              |       | 21            |      |             |             |  |    |

※1人が複数回参加している場合があり、人数は延人数である。

3、第2回学生「学生」の活動状況調査

東京大学「学生」のボランティア活動状況一覧

■参加者数 223名  
 調査期間：平成23年5月13日～平成23年9月30日

| 部局         | 学生別 |    |     |   | 参加期間 |    |    |    |    | 活動日数 |      |                   | 活動地 | 参加団体窓口 |    |           | 参加ボランティア内容<br>(未記入) | 備考  |                   |                  |   |
|------------|-----|----|-----|---|------|----|----|----|----|------|------|-------------------|-----|--------|----|-----------|---------------------|-----|-------------------|------------------|---|
|            | 学部生 | 院生 | 専攻生 | 他 | 5月   | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 未記入  | 3日以内 | 4日以上<br>～<br>7日以内 |     | 8日以上   | 生協 | 現地の<br>団体 |                     |     | その他<br>(NPO<br>等) | 不参加<br>以外<br>参加者 |   |
| 医学系研究科     | 1   | 1  | 2   |   |      |    |    |    |    |      | 1    | 1                 |     |        |    |           |                     |     |                   |                  |   |
| 工学系研究科     | 22  |    |     |   | 2    | 8  | 2  | 10 |    |      | 10   | 12                |     |        | 14 | 1         | 7                   | 8   | 14                |                  |   |
| 人文社会科学系研究科 | 18  |    |     | 2 | 2    | 1  | 4  | 8  | 3  | 5    | 12   | 1                 |     | 2      | 12 | 4         | 11                  | 7   |                   |                  |   |
| 理学系研究科     | 1   | 7  | 3   |   | 1    | 3  | 2  | 1  | 1  | 2    | 5    | 1                 |     |        | 1  | 2         | 1                   | 6   |                   |                  |   |
| 農学生命科学研究科  | 6   | 7  |     |   | 1    | 3  | 1  | 2  |    | 2    | 5    | 3                 |     |        | 5  | 2         | 1                   | 3   |                   |                  |   |
| 経済学研究科     | 5   |    |     |   | 1    | 1  | 2  | 1  |    | 2    | 3    |                   |     |        | 1  | 4         |                     | 3   |                   |                  |   |
| 総合文化研究科    | 76  |    |     |   | 9    | 3  | 29 | 12 | 23 | 41   | 35   |                   |     | 4      | 43 | 1         | 28                  | 33  | 43                |                  |   |
| 教育学研究科     | 8   | 2  |     |   | 2    | 6  | 2  | 6  |    | 2    | 6    |                   |     |        | 8  | 1         | 6                   | 2   |                   |                  |   |
| 薬学系研究科     | 3   |    |     |   | 1    | 1  | 1  | 1  |    | 3    | 3    |                   |     |        | 3  | 1         | 3                   | 1   | 3                 |                  |   |
| 新領域創成科学研究科 | 5   | 2  |     |   | 2    | 4  | 4  | 1  | 1  | 4    | 4    |                   |     |        | 3  | 2         | 5                   | 5   |                   |                  |   |
| 情報理工学系研究科  | 7   |    |     |   | 1    | 6  |    | 6  |    | 7    |      |                   |     |        | 6  | 1         | 1                   | 7   |                   |                  |   |
| 公共政策大学院    |     |    |     |   | 2    | 24 | 61 | 48 | 61 | 3    | 88   | 125               | 7   |        |    |           |                     |     |                   |                  |   |
| 計          | 140 | 53 | 19  | 9 | 2    | 26 | 24 | 61 | 48 | 61   | 3    | 88                | 125 | 7      | 10 | 142       | 18                  | 53  | 84                | 136              | 3 |
| 合計         |     |    |     |   |      |    |    |    |    | 223  |      |                   | 223 |        |    |           |                     | 223 |                   | 223              |   |

※1人が複数回参加している場合があり、人数は延人数である。

4、第2回教職員の活動状況調査

東京大学「教職員」のボランティア活動状況一覧

参加者数 130名

調査期間：平成23年5月13日～平成23年9月30日

| 部局   | 教職員別             |                        | 参加期間 |    |    |     |    | 活動日数         |               | 活動地                                  | 参加団体窓口 |                         | 参加ボランティア内容 |                      | 備考 |      |
|--|------------------|------------------------|------|----|----|-----|----|--------------|---------------|--------------------------------------|--------|-------------------------|------------|----------------------|----|------|
|  | 教職員<br>(特定者割合含む) | 教職員以外<br>(特定者割合、短時間含む) | 5月   | 6月 | 7月 | 8月  | 9月 | 3日以内<br>～1週間 | 4日以上<br>～8日以上 |                                      | 生協     | 現地の<br>団体<br>(NPO<br>等) | その他<br>不明  | 本学ボラン<br>ティア隊<br>参加者 |    | それ以外 |
| 理学系研究科   | 3                | 1                      |      | 1  | 1  | 1   | 1  | 3            | 1             | 釜石1、不明3                              | 1      | 3                       |            | 4                    |    |      |
| 農学生命科学研究科  | 2                | 12                     | 1    | 1  | 2  | 4   | 6  | 10           | 4             | 釜石6、気仙沼2、遠野1、不明・未定5                  | 6      | 6                       | 2          | 1                    | 13 |      |
| 経済学研究科   | 6                | 1                      | 1    | 3  | 1  | 1   | 1  | 6            | 1             | 岩手県山田町5、遠野1、釜石1                      | 6      | 1                       |            | 1                    | 6  |      |
| 総合文化研究科  | 4                | 18                     | 1    | 5  | 5  | 8   | 3  | 14           | 7             | 遠野5、石巻2、気仙沼2、大槌1、南三陸町1、陸前高田1、不明・未定10 | 16     | 6                       |            | 4                    | 18 |      |
| 教育学研究科   | 1                | 4                      | 1    |    |    | 3   | 1  | 1            | 4             | 大槌町2、遠野1、釜石1、不明・未定1                  | 3      | 2                       |            | 1                    | 4  |      |
| 医科学研究所   | 2                | 11                     |      | 1  | 1  | 4   | 7  | 2            | 11            | 遠野10、不明・未定3                          | 10     | 3                       |            | 10                   | 3  |      |
| 生産技術研究所  | 5                | 2                      |      | 3  |    | 2   | 2  | 2            | 5             | 遠野3、大槌町2、石巻1、和歌山県1                   | 3      | 4                       |            | 3                    | 4  |      |
| 史料編纂所  | 1                | 4                      | 2    |    | 1  | 2   |    | 4            | 1             | 気仙沼2、遠野1、仙台1、不明・未定1                  | 2      | 3                       |            | 1                    | 4  |      |
| 宇宙線研究所   | 1                | 3                      |      |    |    | 1   | 3  | 4            |               | 遠野4                                  | 4      |                         |            | 4                    |    |      |
| アイトープ総合センター  | 8                | 3                      |      | 2  | 5  | 2   | 2  | 9            | 1             | 南相馬9、つくば1、不明1                        | 2      |                         | 9          |                      | 11 |      |
| 本部(教育・学生支援部、国際部、人事部)   | 1                | 21                     | 2    | 2  | 3  | 15  | 2  | 2            | 20            | 遠野16、大槌1、いわき1、郡山1、不明・未定3             | 18     | 4                       |            | 16                   | 6  |      |
| 環境安全本部   | 2                | 4                      |      | 1  |    | 4   | 1  | 2            | 4             | 遠野4、陸前高田1、南三陸町1                      | 6      |                         |            | 4                    | 2  |      |
| その他(2名以下の部局)<br>人文社会科学部資料、生物地球情報学センター<br>成科学研究科、社会科学部、分子細胞生<br>物学研究所、物質研究所、環境センターの合<br>計 | 5                | 5                      | 1    | 1  | 1  | 6   | 2  | 4            | 6             | 遠野5、石巻1、東松島市1、大槌町1、南三陸町1、不明1         | 6      | 4                       |            | 5                    | 5  |      |
| 計  | 41               | 89                     | 6    | 20 | 20 | 53  | 31 | 59           | 69            | 2                                    | 0      | 83                      | 3          | 611                  | 50 | 80   |
| 合計   |                  | 130                    |      |    |    | 130 |    | 130          |               |                                      |        | 130                     |            |                      |    | 130  |

※1人が複数回参加している場合があり、人数は延人数である。



## 関連通知



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

平成23年3月22日

学生・教職員の皆さんへ

災害対策本部長 前田 正史

### 被災地におけるボランティア活動について

東北地方太平洋沖地震の被災状況に接し、皆さんから何か自分にできることをしたいとの声に対策本部にも寄せられています。こうした皆さんの思いは貴重なものです。

しかしながら、現地では、食料の不足、衛生環境の不良など様々な状況から、近隣のボランティア以外を受入れる態勢は十分に整っていません(参照1)。また、性急な行動はその純粋な意図とは異なり却って現地の救援活動に負荷をかけることもあります。

本学学生・教職員の被災地へのボランティア活動については、まずは自身が居住する地域のボランティアセンターなどと十分に相談をし、慎重な計画と判断をした上で検討していただくようお願いします。

なお、活動に際しては、所属する部局の教務(学生)担当又は総務(教職員)担当の窓口へ届け出るよう、併せてお願いします。

(参照1)

全国社会福祉協議会

<http://www.shakyo.or.jp/saigai/touhokuzisin.html>

日本赤十字社 <http://www.jrc.or.jp/volunteer/index.html>

追伸

支援の気持ちは、寄付をすることや寄付を呼びかけることによって表すことも意義があります。なお、東京大学においても、義援金の受付を行っていますので(参照2)、寄付をしたい人は、所定の手続きに従ってください。また、被災地への支援物資の輸送については都道府県庁を通じて行うことが可能ですので、HP等をご確認ください。

(参照2)

義援金受付サイト:[http://www.u-](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/anti_disaster_20110311_03_j.html)

[tokyo.ac.jp/public/anti\\_disaster\\_20110311\\_03\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/anti_disaster_20110311_03_j.html)

23文科高第7号  
平成23年4月1日

各 国 公 私 立 大 学 長  
各 公 私 立 短 期 大 学 長  
各 国 公 私 立 高 等 専 門 学 校 長

殿

文部科学副大臣  
鈴木



東北地方太平洋沖地震に伴う学生のボランティア活動について(通知)

このたびの東北地方太平洋沖地震等により被害や影響を受けている大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)においては、被災した学生の修学上の配慮等について、文部科学省から発出した通知等を踏まえ、既に様々な対応を講じていただいておりますこと改めて感謝申し上げる次第です。

今後、災害復旧の進捗状況に応じて、ボランティア活動への参加を希望する学生が出てくることを見込まれます。

学生が、大学等の内外において、学修成果等を活かしたボランティア活動を行うことは、将来の社会の担い手となる学生の円滑な社会への移行促進の観点から意義があるものであることから、被災地等でボランティア活動を希望する学生が、安心してボランティア活動に参加できるよう、下記の諸点にも配慮して、引き続き学生への指導等をよろしく願い申し上げます。

記

#### 1. ボランティア活動のための修学上の配慮

ボランティア活動参加者に対し、補講・追試の実施やレポートの活用による学修評価、休学した場合のきめ細かな履修対応などを通じ、学生がボランティア活動に参加しやすい環境作りに配慮すること。

各大学等の判断により、ボランティア活動が授業の目的と密接に関わる場合は、ボランティア活動の実践を実習・演習等の授業の一環として位置付け、単位を付与することができること。

ボランティア活動のため休学する場合、その期間の学費の取扱など学生の便宜のための必要な配慮を図ることが考えられること。

#### 2. ボランティア活動に関する安全確保及び情報提供

ボランティア活動は内容によっては危険を伴うものもあることから、参加する学生に対し事前に安全管理の徹底やボランティア保険等(参考1「学生ボランティア活動に関わる保険の例」参照)への加入を呼びかけるなど適切

な指導に努めること。

被災地における状況や学生ボランティアによる支援要請等に関する情報について、文部科学省ポータルサイト(参考2「子どもの学び支援ポータルサイト」参照)などを活用しつつ、学生に情報提供を行うこと。

【1. ボランティア活動のための修学上の配慮について】

大学振興課法規係 電話: 03-5253-4111 (内線2493)

【2. ボランティア活動に関する情報提供及び安全確保について】

学生・留学生課厚生係 電話: 03-5253-4111 (内線2519)

学生ボランティア活動に関わる主な保険（平成22年度時点）

①学生教育研究災害障害保険（「学研災」）  
（他に学生教育研究賠償責任保険）  
【(財)日本国際教育支援協会】

大学が窓口  
保険支払いの対象となるボランティア活動：大学で認めた団体の管理下での届け出た活動に限る（学研災でカバーできない場合の保証内容については、付帯学生生活総合保険（任意加入）あり）  
・保険期間 1年～4年  
・保険料 専攻分野に応じて650円～900円（標準・1年間）  
・保険金 死亡2000万円 後遺障害 3000万円（最高）  
※付帯学生生活総合保険は基本的に通年（4年間）での保険制度。  
保険料 補償タイプに応じて約25000円～40000円程度  
保険金 死亡・後遺障害：100万円～500万円  
<http://www.jees.or.jp/gakkensai/index.htm>

②社会福祉協議会のボランティア活動保険  
【社会福祉法人 全国社会福祉協議会】

社会福祉協議会に登録した個人又は団体に所属する個人のボランティア活動での事故に対応  
・保険期間 1年間（毎年度4.1～翌年3.31）  
・年間保険料 補償額に応じて490円又は720円  
・保険金 死亡・後遺障害 1418万円又は2000万円  
<http://www.fukushihoken.co.jp/volunteer/menu.html>

③スポーツ安全保険 【(財)スポーツ安全協会】

加入手続きを行った5名以上のアマチュアの団体の構成員を補償対象  
・保険期間 1年間（毎年度4.1～翌年3.31）  
・年間保険料 600円  
・保険金 死亡2000万円、後遺障害3000万円（最高）  
<http://www.sportsanzen.org/hoken/hoken1.html>

平成23年4月15日  
救援・復興支援室

学生及び教職員の皆さんへ

ボランティア支援担当  
理事・副学長 武藤 芳照

被災地におけるボランティア活動について（第2報）

東日本大震災による被災地でのボランティア活動については、3月22日付けの第1報で、地域のボランティアセンターなどと十分に相談をし、慎重な計画と判断をした上で検討していただくようお願いをしたところですが、被災地の復旧が徐々に進み、一部ではありますが県外からのボランティアを受け入れる地域も出てきました。

このため、被災地域でのボランティア活動への参加を検討する際には、下記の注意点にご留意のうえご検討願います。

なお、本学でのボランティア支援の取組については、4月11日に設置された「東日本大震災に関する救援・復興支援室」で検討することとしておりますので、改めてご案内いたします。

記

(1) 被災地でのボランティア活動は、食事・水・宿泊場所等の確保等を求める自己完結型での参加を求めていますので、参加される場合には、事前に現地の情報を十分に確認してください。

特に、服装や携行品については、本学環境安全本部発行の「野外活動における安全衛生管理・事故防止指針」や以下の団体等のホームページでもお知らせしていますので、ご確認ください。

内閣府：<http://www.bousai.go.jp/volunteer/index.html>  
全国社会福祉協議会：<http://www.shakyo.or.jp/saigai/touhokuzisin.html>

日本赤十字社：<http://www.jrc.or.jp/volunteer/index.html>

(2) ボランティア活動に参加する場合には、所属する部局の教務(学生)担当又は総務(教職員)担当の窓口へ以下の用紙を印刷して事前に届け出てください。

(学生用)災害ボランティア活動届  
(教職員用)ボランティア活動計画書

(3) ボランティア保険に必ず加入してください。

なお、学生の皆さんは活動届を大学へ提出することにより、学生教育研究災害障害保険が適用になりますが、第三者に対する賠償責任保険等に加入することをお勧めします(問合せ先：各学部・研究科教務窓口)。

学生教育研究災害障害保険：<http://jees.or.jp/gakkensai/index.htm>

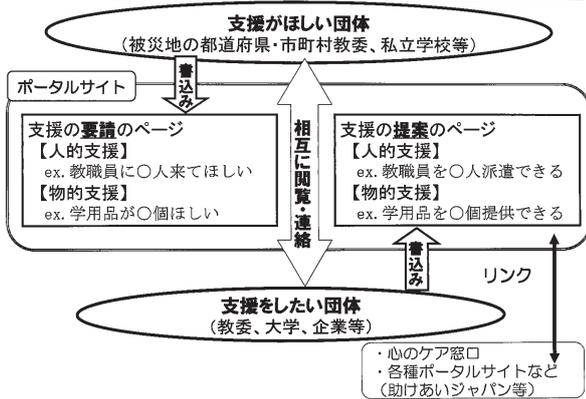
社会福祉協議会のボランティア保険：[www.fukushihoken.co.jp/volunteer/menu.html](http://www.fukushihoken.co.jp/volunteer/menu.html)

スポーツ安全保険：[www.sportsanzen.org/hoken/hoken1.html](http://www.sportsanzen.org/hoken/hoken1.html)

東北地方太平洋沖地震  
子どもの学び支援ポータルサイト(イメージ)  
(※4月1日(金)14:00開設予定)  
<http://manabishien.mext.go.jp/>

メリット

- 被災地の要求内容と支援者のニーズの相互提供
- 子どもの学び支援に関する情報を一元化



【掲載する支援内容と関連情報の例】

- 人的支援
  - 支援内容：教職員、専門スタッフ、その他ボランティア等
  - ※関連情報：人数、派遣形態、業務内容、期間、資格の有無、交通費等支給の有無、滞在期間中の待遇など
- 物的支援
  - 支援内容：備品・学用品等(教材・筆記用具・パソコン)、一般図書その他(玩具含む)
  - ※関連情報：物品詳細、数量など
- 被災した子どもの学校への受け入れなどその他支援
  - 支援内容：被災した子どもの学校への受け入れ等
  - ※関連情報：受け入れ人数、期間、学校種、住宅事情等の生活情報など

(教職員用)

平成 年 月 日

ボランティア活動計画書

(部局の長)

\_\_\_\_\_ 殿

所 属  
職 名  
氏 名

印

1. 活動期間  
平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

2. 活動の種類  
 被災者への支援活動     社会福祉施設等における活動  
 その他 ( )

3. 活動の場所  
 施設名等：  
 所在地：  
 電 話：

4. 具体的な活動内容

5. 仲介団体等の有無及び団体名  
 有     無  
 団体名：  
 電 話：

6. 備考

注1) 「3. 活動場所」及び「4. 具体的な活動内容」については、当該活動が仲介団体等(社会福祉協議会等主として活動の仲介を行っている団体のほか、自らも活動主体となって活動を行う団体も含まれる。)を通じたものであり、当該仲介団体等による証明が得られる場合には、適宜記入を省略して差し支えない。  
 2) 「3. 活動場所」は、活動場所が支援する相手の居宅である場所には、その者の氏名及び住所等を記入する。  
 3) 「6. 備考」は、支援する相手の居宅における活動を仲介団体等を通じないで行う場合に、その者の状態について記入する。

※ 所要の休暇の手続きもあわせて行ってください。

(学生用)

災害ボランティア活動届

年 月 日提出

**※ボランティア活動保険に必ず加入してください。社会福祉協議会のボランティア保険に加入した場合は、「郵便振替払込受付証明書」のコピーを添付して下さい。**

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| 1. 氏名(ふりがな)                   |   |
| 2. 学生証番号                      |   |
| 3. 学部・研究科                     |   |
| 4. 科類・学科・専攻                   |   |
| 5. 連絡先1(本人)                   | 電話番号：<br>メールアドレス：   |
| 6. 連絡先2(実家など)                 | 氏名(続柄)：<br>電話番号：<br>FAX番号：<br>メールアドレス：<br><b>必須事項：必ずご家族の承諾を得て下さい 承諾チェック欄 <input type="checkbox"/></b>   |
| 7. 活動予定期間                     | 年 月 日 ( ) ~ 年 月 日 ( )   |
| 8. 同行予定人数                     | 名 (うち本学学生 名)<br>※本学学生は各自で活動・報告届を提出のこと   |
| 9. 活動予定のボランティアセンター            | 所在地：<br>センター名：<br>電話番号：   |
| 10. 宿泊先                       | 名称：<br>電話番号：  |
| 11. 現地までの移動手段<br>※該当するものにチェック | <input type="checkbox"/> 飛行機 <input type="checkbox"/> 電車 <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> 車 <input type="checkbox"/> バイク <input type="checkbox"/> 自転車<br><input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> その他 ( ) |
| 12. 現地までの移動経路<br>※経由地を含めて記入   |   |

東日本大震災にかかる救援・復興支援のための  
ボランティア活動について

## 1. 基本方針について

今回の東日本大震災による被害状況は広範囲にわたり、かつ深刻で未曾有のものであり、社会的公共性を有する総合大学として、被災者の救援・復興支援に当たることは責務であるとの認識に立ち、可能な限りの支援を行うことが必要である。

また、東京大学憲章においては、本学は「世界的な水準での学問研究の牽引力」であるとともに、「世界的視野をもった市民的エリートが育つ場」であることを目指している。行動シナリオにおいても、強靱な開拓者精神を持ちつつ、公共的な責任を自ら考え、行動する「タフな東大生」の育成を目指しており、大学構成員が広くボランティア活動に参画することは、大変に意義のあるものである。

さらに、ボランティア活動による救援・復興支援には、大学構成員による広範なボランティアの協力が不可欠である。このため、ボランティアの理念(自発性、無償性、公共性等)に留意しつつ、本学としては、「救援・復興支援室」において持続可能な形と方法でボランティア活動を支援する。

## 2. ボランティア活動への主な支援内容について

### ①被災地等の情報収集と提供

安全配慮に重点を置きつつ、被災地等の情報を収集するとともに、ボランティア活動を行うに当たって必要な情報をホームページ、活動報告会等のさまざまな場を通じて構成員に提供する。

### ②活動データ等の広報

定期的に活動状況を取りまとめ、「学内広報」等を通じて広く構成員に周知する。

### ③ボランティア活動のための宿泊場所等の確保

遠野市内に宿泊可能な場所を確保し、ボランティア活動に携わる学生及び教職員等の利用に供する。また、登録プロジェクトに関わる関係者(ボランティアを含む。)に対しては、研究支援のためのスペースを確保する。

### ④岩手県三陸沿岸被災地等へのボランティア隊の派遣

夏季等の長期休業期間については、「遠野まごころネット」や「大槌町災害ボランティアセンター」等と緊密に連携しつつ、参加者を募り「東京大学被災地支援ボランティア隊(仮称)」を派遣する。なお、活動内容については、泥のかき出し、がれき撤去、子供の遊び相手や学習支援等、「タフな東大生」にふさわしい幅広く多様な支援となるように工夫・配慮する。

### ⑤ボランティアを必要とする登録プロジェクトへの支援

登録プロジェクトに限り、ボランティアが必要となる場合には募集情報を学生等向けに提供する。学生等は登録プロジェクト担当者へ直接申し込むものとする。(あくまでも学生等の自由意思によるものとし、斡旋を行うものではない。)

## 3. 学生の修学上の取扱いについて

ボランティア活動に参加した学生の修学上の取扱いについては、4月13日付け各部長宛ボランティア担当理事名事務連絡「東日本大震災に伴う学生のボランティアについて」で各学部・研究科等の実情に応じて対応いただくよう周知している。

この通知を受け、既に①ボランティア活動の内容が授業内容に関連する場合には、活動を授業の一環として認める場合があるので、条件等について担当教員と相談するよう指導したり、②2~3回の欠席であれば、課題遂行等により補完するとしている部局や、③ボランティア活動を理由に休学(6ヵ月)を希望する学生がおり、このような学生ボランティア活動への支援の取組が他の部局でも検討されることを期待したい。

## 4. 教職員に対する休暇の取扱いについて

教職員が自発的に、かつ報酬を得ないで規則に定められた社会貢献活動を行う場合には、現在、年間5日を限度として特別休暇が認められている。

## 5. 留意事項について

### (1)学生の教育面について

① 様々な場・機会を通じて、できるだけ多くの学生がボランティア活動の意義や基礎に関わる知識を持つようにする。

② ボランティア活動の実践に向けた積極的な関心を喚起し、意欲ある相当数の学生が多様な活動を体験し、内省を深め、学業を充実させるよう、援助をする。

③ 教育課程の編成・実施に当たっても、各部局の主體的な判断の下、上記の観点を踏まえて適切に配慮し、創意工夫を行う(ボランティア実践を含む科目開設の検討など)。

### (2)安全管理について

#### ①感染症対策

被災地で活動中に古釘を踏んで破傷風に罹患した者がいることや、避難所での活動中に感染症に罹患した者がいることから、必要に応じて、あらかじめ診療所等で予防接種を受けることが望ましい。

#### ②外傷防止

怪我防止のため安全靴の準備あるいはスチール製の靴の中敷きをホームセンター等で用意することが望ましい。

#### ③粉じん対策

アスベスト等を含む有害な粉じん対策のため、防じんマスクの着用が必要である。

#### ④災害ボランティア保険

学生の場合、学生教育研究災害傷害保険の利用が考えられるが、別途第三者に対する賠償責任保険への加入が必要になることや免責事項があることなどから、所在地の社会福祉協議会の「災害ボランティア保険」等に加入することが望ましい。教職員についても同様である。



# 組織・メンバー・編集後記

The image shows the official logo and name of The University of Tokyo. On the left is the circular emblem, which is a stylized representation of a paulownia flower. To the right of the emblem, the name '東京大学' is written in large, bold Japanese characters. Below this, the name 'THE UNIVERSITY OF TOKYO' is written in a smaller, sans-serif font, following the curve of the emblem's bottom edge.

東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

平成23年4月11日  
総長 裁定

「東日本大震災に関する救援・復興支援室」の設置について

1. 趣旨

東日本大震災の被災地域からの期待に応じ、東京大学(以下「本学」という。)として救援活動を支援するとともに、大学の社会貢献の一環として、当該地域における震災からの復興に向けた支援を行うため、東日本大震災に関する救援・復興支援室(以下「室」という。)を設置する。

2. 任務

室は、次の任務を行う。

- (1) 救援・復興支援に関する全学的な基本方針の企画立案及び評価
- (2) 救援・復興支援に携わる本学関係者等の取組みの情報収集・発信及び連絡調整
- (3) 救援・復興支援に関する外部からの相談・要望に係る連絡調整及び対外的な情報発信

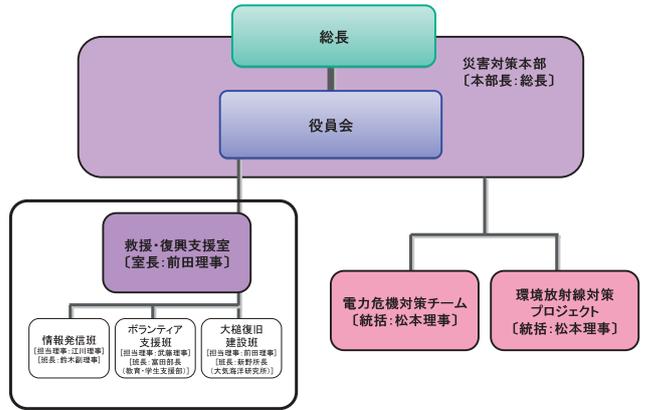
3. 構成

- (1) 室長は、総長が指名する理事をもって充てる。
- (2) 副室長は、理事、副学長等のうちから、室長が指名する者をもって充てる。
- (3) 室員は、教職員のうちから、室長が指名する者をもって充てる。
- (4) 室長は、任務の遂行に当たって必要と認める場合、室の下に班を設置することができる。

4. その他

室の庶務は、関係各課の協力を得て、本部企画課が担当する。

東日本大震災への対応に関する東京大学の組織体制



平成23年5月26日  
救援・復興支援室

班の設置について

「東日本大震災に関する救援・復興支援室」の設置について(平成23年4月11日付け総長裁定)の3. (4)に基づく班の設置については、以下のとおりとする。

1. 班の構成

- (1) 班長は、室員の中から室長が指名する。
- (2) 班長は、担当役員の下、班の運営を統括する。
- (3) 班員は、教職員のうちから、班長が指名する者をもって充てる。
- (4) 班長は、班員の他、教職員及び学生のうちから、協力者を参加させることができる。

2. 班の種類

班の名称、任務、庶務担当課は、別表のとおりとする。

別表

| 名称        | 任務   | 庶務担当             |
|-----------|--|------------------|
| ボランティア支援班 | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 学生及び教職員によるボランティア活動に対する支援策の策定</li> <li>2. ボランティア活動に関する各種情報の収集及び学内への広報</li> <li>3. ボランティア活動を行う個人、団体等の把握と情報の提供</li> <li>4. ボランティア活動を行う個人、団体等に対する支援</li> <li>5. その他、ボランティア活動を支援するために必要な事項</li> </ul> | 学生支援課<br>(人事企画課) |

## 東日本大震災に関する救援・復興支援室 ボランティア支援班の構成

|        | 所属・職名         | 氏名    | 備考      |
|--------|---------------|-------|---------|
| 担当役員   | 理事・副学長        | 武藤 芳照 |         |
| 担当役員補佐 | 医学系研究科教授      | 宮川 清  | 総長補佐    |
| 〃      | 人文社会系研究科准教授   | 小林 真理 | 〃       |
| 〃      | 情報理工学系研究科教授   | 駒木 文保 | 〃       |
| 班 長    | 教育・学生支援部長     | 富田 靖博 |         |
| 班 員    | 学生支援課長        | 浅野 公一 |         |
| 〃      | 人事企画課長        | 東 高之  |         |
| 〃      | ボランティア支援担当課長  | 川久保 亨 |         |
| 〃      | 教養学部事務部学生支援課長 | 高橋 喜博 | 駒場キャンパス |
| 〃      | 新領域創成科学研究科事務長 | 武井 和夫 | 柏キャンパス  |
| 〃      | 企画課副課長        | 鈴木 和仁 |         |
| 〃      | 学生支援課係長       | 高鳥 国之 |         |
| 〃      | 人事企画課係長       | 服部 斎  |         |
| 〃      | 学務課職員         | 市村 桃子 |         |
| 〃      | 学生支援課職員       | 土井 達雄 |         |

※班の庶務は、人事企画課と連携して学生支援課が担当する。

### 編集後記

昨年4月に本学に赴任し、ボランティア支援班長を仰せつかりましたが、本学初の試みとなる取組であり、試行錯誤の連続でした。ボランティア支援の基本方針の策定に始まり、既に自主的に活動している学生等もいたことから、まずはリスク回避を主眼とした「災害ボランティア活動Q&A」を作成し、ホームページに掲載しました。また、ゴールデンウィークに活動を計画している学生及び教職員の参考に資するため、震災直後のボランティア活動経験のある方々からのアドバイスを提供すべく、「ボランティア活動報告会」も開催しました。夏には、「ボランティア隊」として5班、総勢220名の学生及び教職員の方々を岩手県沿岸被災地に派遣しました。筆者も第1班に随行者として参加し、岩手県大槌町内でのがれきの撤去等の活動に加わりましたが、学生が率先して側溝に入っていくところをみて、東大生の「タフさ」を強く感じました。また、地元の方々からのお礼のお言葉等をいただいたほか、濱田総長にはすべての活動報告会にご参加いただくとともに、ボランティア活動の現場もご視察いただき、企画者の一人としてとても強い後ろ盾となりました。その後は、学生による学習支援ボランティアとして、教育委員会の要請に応じて、陸前高田市及び福島県大熊町での学習支援ボランティアを継続的に実施していますが、今年度も引き続き多様なボランティア支援事業を企画したいと考えていますので、多数の学生及び教職員の方々のご参加を期待しています。

これまで企画を積み重ねてこられたのも、ひとえに濱田総長を始め役員の方々のご理解とご支援のほか、ボランティア支援班員のご努力、そして何よりも活動に参加していただいた学生及び教職員の方々の熱い志によるものであり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

最後に、これまで事前打合せ等で被災地へ何度か伺いましたが、被災された皆様のご苦勞は察して余りあるものがあり、できる限りのご支援を続けていきたいと思うと同時に、1日も早く安心して暮らせる日が来ることを願ってやみません。

救援・復興支援室  
ボランティア支援班班長 富田 靖博

平成23年度 東日本大震災 ボランティア支援活動記録

作成 平成24年4月

編集 東京大学 救援・復興支援室 ボランティア支援班

住所 〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

電話番号 03-5841-2529

URL [http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html)

協力 本部広報課